

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Formation of Borrowed Words and Pedagogy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001840

日本語教育指導参考書16

外来語の形成とその教育

国立国語研究所

刊行のことば

「日本語教育指導参考書」は、外国人に対する日本語教育に携わっている方々の指導上の参考に供するため刊行するものです。

今回は、その第16編として「外来語の形成とその教育」を刊行します。

本書の執筆をお願いした方々は、次のとおりです。

カッケンブッシュ寛子氏（広島大学教授）

大曾美恵子氏（関西外国語大学教授）

本書が教授上、研究上の資料として適切に活用されることを期待します。

平成2年3月

国立国語研究所長

野元菊雄

[目次]

I. はじめに	1
II. 語形の日本語化	6
1. 1. 外国語の日本語化	6
1. 2. 動詞	6
-1 「する」の付加	6
-2 「-る」で終わる動詞	7
1. 3. 形容詞	8
-1 形容動詞化	8
-2 形容詞になる場合	8
1. 4. 副詞	9
-1 「に」の添加	9
2. 省略	9
2. 1. 機能形態素の省略	10
2. 2. 単語の一部の省略	12
-1 後半省略	12
-2 前半省略	14
-3 複合語の省略	14
3. 和製外来語	17
4. 混種語	19
III. 音声音韻の日本語化	20
1. E, T. 語の日本語化：日本語化の概要	20
2. 日本語の音節と拍	22
2. 1. 拍	22
2. 2. 日本語の音節の種類	23
2. 3. 和語に見られる音節	24

2. 4. 漢語に見られる音節	25
2. 5. 拍と五十音図	26
2. 6. まとめ	28
3. 開音節化	29
3. 1. 概観 (日本語と英語の比較)	29
3. 2. [t] と [d]	30
-1 [t] → [t o]	30
-2 [d] → [d o]	31
3. 3. [t] → [t s u]	32
3. 4. [tʃ] と [dʒ]	32
-1 [tʃ] → [tʃ i]	32
-2 [dʒ] → [dʒ i]	33
3. 5. その他の子音 C → C[u]	33
3. 6. 例外	35
-1 [k] → [k u] / [k i]	35
-2 [k] → [k i]	36
-3 [ʃ] → [ʃ u] / [ʃ i]	36
-4 [ʒ] → [ʒ u] / [ʒ i]	37
4. 促音挿入	37
4. 1. 促音挿入の条件	37
4. 2. なぜ促音が挿入されるのか	43
-1 英語音の考察	43
-2 日本語の促音	45
4. 3. /C ₁ V C ₂ /以外の音節の語における促音化	47
5. 母音の日本語化	49
5. 1. 英語の母音	49
5. 2. 英語の母音の日本語化	51
5. 3. 英語の母音の日本語化の例	53
6. 子音および半母音の日本語化	61
6. 1. 概観	61

6. 2. 新しい拍の成立	62
-1 [t i] [t u] [d i] [d u]	65
-2 [t j u] [d j u]	69
-3 [ϕ a] [ϕ i] [ϕ e] [ϕ o]	70
-4 [ʃ e] [ʒ e] [dʒ e]	72
-5 [t s a] [t s i] [t s e] [t s o]	73
6. 3. 子音の統合	74
-1 [l] [r]	75
-2 [s] [θ] / [z] [ð]	76
-3 [b] [v]	77
6. 4. 鼻音	78
-1 [n] 79 -2 [m] 80 -3 [ŋ] 81	
6. 5. 半母音	83
-1 [w] 83 -2 [j] 85	
7. スペルに基づいた日本語化	86
7. 1. 母音	86
-1 "i" → [i], "u i" → [i]	86
-2 "e" → [e] 87 -3 "a" → [a] 89	
-4 "o" → [o] 89 -5 "u" → [a] 90	
-6 "u" → [j u]	91
-7 "y" "i e" "e e" "e y" → [i:]	91
-8 "e r" "o r" "a r" "r e" "o u r" → [a:]	93
-9 その他	95
7. 2. 子音	95
-1 "n g" → 「ング」	95
-2 "-mm-", "-n n-" → 「-ン-」	96
7. 3. 繰り返し現れる連鎖	97
-1 "t i o n" "s i o n" "s h i o n"	

	→「ション (チョン, ジョン)」	98
-2	"a g e" →「エージ」	99
-3	"a t e" →「エート」	99
-4	"c i a l" "t i a l" →「シャル」	100
-5	"i n g" →「イング」	100
-6	"w e r" →「ワー」	101
7. 4.	人名, 地名	101
8.	アクセントの日本語化	102
8. 1.	原語のアクセントのある音節にアクセント核がくるもの	103
8. 2.	原語のアクセントと違う場合	105
-1	平板型	105
-2	アクセント核が語尾から3拍目にあるもの	107
IV.	表記における問題	111
1.	表記の基準	111
2.	発音と表記におけるゆれとずれ	113
2. 1.	[v]	113
2. 2.	拍数の点での表記のゆれ	113
-1	[w] を含む音節 (1. 語頭の [w] 2. [kw-] [gw-])	
	3. 語頭の [sw] 4. [tw])	114
-2	語頭の [je]	115
2. 3.	発音と表記のずれ	116
-1	[∅] と母音	116
-2	[t s a] [t s e]	116
2. 4.	母音の長短に関するゆれとずれ	117
-1	語尾が [ti:] または [di:] の場合	117
-2	語尾が "-e r, -o r" の場合	117
2. 5.	二重母音の場合	118
-1	[e i]	118
-2	[j] の挿入	118

-3 “-ow” の場合119	-4 “-um” の場合119
3. 社会言語学的ゆれとずれ120		
V. 学習者のための練習問題126		
1. 英語でアクセントのある音節の母音の扱い方126		
2. 子音の扱い方135		
3. 英語でアクセントのない音節の母音の扱い方147		
4. 繰り返し現れるスペルの扱い方152		
5. 総合練習154		
【参考文献】157		
【外来語語形索引】160		

[表 一 覧]

- I. 表：1 学生による外来語の語形の誤りの例
- III. 表：2 E. T. 語：[æθlətitʰ] の日本語化
- 表：3 短母音を核とした音節の例 (和語)
- 表：4 長母音を核とした音節の例 (和語)
- 表：5 短母音を核とした音節の例 (漢語)
- 表：6 長母音を核とした音節の例 (漢語)
- 表：7 五十音図
- 表：8 発音記号を使った五十音図
- 表：9 日本語の音節構造
- 表：10 英語の音節の日本語化
- 表：11 促音が挿入される語例
- 表：12 促音が挿入されない語例
- 表：13 促音が挿入される語例 (子音が有声音の場合)
- 表：14 促音化しない形でも使われる語例 (子音が有声音の場合)
- 表：15 外来語の日本語化の過程 `b a g [bæg]` の例
- 表：16 促音が見られる語例
- 表：17 語尾に子音群を持つ語の促音挿入の例
- 表：18 英語の母音とその用例
- 表：19 日本語と英語の母音の比較
- 表：20 英語の母音の日本語化
- 表：21 和語・漢語 (従来 of 拍) の音声表記
- 表：22 外国語・外来語に見られる拍の音声表記
- 表：23 英語の子音
- 表：24 日本語と英語の子音の比較
- IV. 表：25 インフォーマントの内訳
- グラフ：1 [d] の無声化
- グラフ：2 [g] の無声化

I はじめに

現代日本語の語彙は大きく分けると、もともと日本人が使用していた和語（または、大和ことば）と外国語から移入した借用語の2種類があるが、借用語はさらに、中国語から移入した漢語と、それ以外の外国語（現代中国語を含む）から移入した外来語に分かれる。そして、和語、漢語、外来語のうちの2種類以上の語を混用した混種語もある。本書では上記の分類による外来語のうち西洋の諸言語から移入した外来語、またはそれに基づくものを扱う。外来語の大部分は英語を原語としているので、本書で考察の対象とするのは、主として、片仮名で表記される英語、および英語からの外来語である。

本論に入る前に、まず、外国語と外来語と、この両者の関わりがどのようなものであるかを考えてみよう。

外来語には、外国語が日本語に入ってきてから完全に定着して市民権を得たもの、一時的に使われたあと定着することなくして消え失せたもの、ある特定の領域や職業に携わる人々にのみ通用するもの、などいろいろな種類がある。外国語が外来語として定着するプロセスには常に新陳代謝が見られるし、使用される領域も比重も一様ではないから、片仮名で表記されていても、外国語なのか、外来語として認めてよいものなのか迷うものがある。

発音に関しても、外国の国名・地名・人名などをあくまで外国語として扱い、原音に忠実であろうと努力する場合などを除けば、日本語に移入された外国語、すなわち外来語は、日本語の音韻体系の許容範囲内で発音されることが普通である。つまり日本語化し日本語として使われるのである。したがって、日本語の学習者に理解してもらわなければならないことは、日本語の発話の流れのなかで原語での発音のまま外来語を使うと、まず日本語としてのリズムが狂い、モザイク的な不自然な日本語になるということ、さらに重要なことは、日本人が聞いて分かりにくい発話になるという点である。

発音のみならず、意味・用法も原語とはかなり違ったものになる。このこ

とも外来語は日本語であるという立場からは納得の行くことである。外国語から取り入れられたものであっても、日本人は外来語を日本語として使っているのである。表記は片仮名をもっぱら用いるが、片仮名自身も日本語の音韻体系を反映したものである。造語法も、「オープンする、ダブる、ナウい」等、日本語の方式に頼っている。こういうことからしても、外来語は日本語であると言えるし、このことを学習者に確認させる必要がある。

概して、一般の日本人は、外来語は外国人学習者、特に英語話者にとってはやさしいものだとの誤解しがちである。外来語はもともと学習者の母語であり、何千とある漢字ではなく、限られた字数の片仮名で表記されていることからそのように判断するのであろう。しかし事実はそうではない。外来語の習得は外国人にとって非常に困難なものなのである。その一例として英語国民（オーストラリアの大学生）の外来語の誤用例（表1）を示そう。これは11名の学生に英語の単語を与え、それに対応する外来語を書いてもらったものであるが、このように多様な形が出ている。同様に、片仮名で書かれた外来語を判別させたり聴解させたりすることも極度に困難であるということは、日本語教師が毎日のように体験することである。

（表：1）学生による外来語の語形の誤りの例

（ ）内の数字は複数の解答者を示す。

(1) Instant coffee

インスタントコーヒ (2) インスタットコーヒー
エンスタントコーヒ

(2) Straw

ストロ ストラー ストロア ストール

(3) Arcade

アルケード (4) アケード アルカド

(4) Tube

チューブー チュブ ツュップ ツーブ

(5) Automation

オートメーション オートメション オトメーション
オートメッシュン オートマイション

(6) Complex

コンプレクス (4) コンプレクスー コンプレークス

(7) Message

メセージ (3) メーセージ メッセージー メーセジ
メセッチ メッサージ メーセージ メッセジ メッセギ

(8) Pineapple

パインアップル (2) パインアップル パイナップール
パイナプル パイヌアップル パイナプール

(9) Assistant

アッシスタント (4) アシースタント アシッスタト
オシッスタント

(10) Couple

コップル (3) カプル (2) カープル (2) コーブル
クープル キャプル

以上、外来語の性格に起因する教授上または習得上の問題点について述べたが、日本語教師は、学習者の外来語に対する心理的抵抗感についても知っておく必要がある。学習者は大体において片仮名を習う前に平仮名を習得しているから、平仮名で間に合うはずだと思える者が多いようである。日本で生活している学習者は街に氾濫している片仮名語を目にするからその必要性を体験しているが、外国で学習している場合はそうではない。そのためか外国で生活している学習者の片仮名または片仮名語の必要性に対する認識が低い。学習者の片仮名語に対する許容度という点では個人差または国民差があるのだが、学習者は自分たちの母国語の語形や意味用法を日本人が無視して使っていると思うようである。Tシャツやショッピングバッグに書かれた日

本語的英語や商品名を見て怒る者と面白がる者がいるが、外来語の場合も原語とはあまりにもかけ離れていることに反発を覚えたり“間違っ”使用していることに批判的だったりする。

日本語教師は上記のような学習者の心情をも理解しなければならないだろう。その手がかりとして次の例を考えてみよう。日本人の主婦が高層ビルから飛び降り自殺をしたことを報道する英語の週刊誌に“hari-kari [hærikæri] をした”と書いてあるのを見たことがある。“hari-kari” (<「腹切り」) は、日本語から英語になった数少ない語の一つであるが、日本人の中にはこれを見て、“hari-kari” という語の発音や意味・用法ひいては日本文化に対する認識不足を示すものと受け止め、憤慨したり、不快感を覚えたりする者もいるであろう。同様に英語国民も、日本で使われている外来語に対してこれと同じような反応を示すことが多いのである。

このような外来語の性格そして学習者の心理を把握した上で、日本語教師は学習者に対して、外来語を始めから日本語として受け入れる訓練を施すことが必要となる。それぞれの音もリズムも日本語的に発音しなければ日本人の耳には分かりにくいということ、そして外来語の発音に外国人の訛りがもっとも顕著に現われることを指摘すれば、学習者も外来語が日本語であることに納得してくれるであろうし、学習の動機づけにもなる。

本書は外来語に関して多々ある問題のうち特に形態・発音・表記に焦点を当て、教師が外来語を指導する際に役立つような説明と学習者のための問題集を用意した。あくまでも日本語教育の立場での実践を主たる狙いとしたものである。

本書では、語の音形を示す際には [] に入れて示した。音声表記は国際音声字母をもとにして、ここでの説明に必要な十分な程度に簡略化した表記を用いている。例えば、日本語の撥音音素・促音音素の異音は、音声表記においても原則としてすべて [N] [q] で代表させている。また、英語の発音は本書における音素分類に基づいて表記されている。

文字上の表記形を問題にする場合は、外国語に関しては“ ”、日本語に
関しては「 」に表記形を入れて示した。

外来語の原語を示す場合、次のような略号を用いた部分がある。

日（日本語） 英（英語） 独（ドイツ語） 仏（フランス語）
蘭（オランダ語） 伊（イタリア語） 羅（ラテン語）

II. 語形の日本語化

1. 1. 外国語の日本語化

日本語は音声面においても、形態面においても、外国語を体系的に取り入れるシステムを備えている。これは形態的には、どんなことばでもある一定の操作を加えて、日本語の文法の中に納まるような文法的範疇（品詞）に変えてしまうということである。外国語を名詞として取り入れる場合には形態面における日本語化の操作の必要はないが、動詞や形容詞として取り入れる場合には活用のための日本語化が必要になる。ここではその日本語化の操作を名詞以外の外来語について、品詞別に見ていくことにする。

1. 2. 動詞

1. 2. 1. 「する」の付加

最も一般的な動詞化の操作は「する」を付加することである。活用は「する」の部分が担うから、どんなことばでも簡単に動詞として取り入れることができるわけである。原語においては動詞でないものも動詞として取り入れることができる。

アドバイスする "advice"	バックアップする "back up"
ボイコットする "boycott"	カットする "cut"
デビューする "debut"	デフォルメする "déformer" (仏)
ダイエットする "diet"	ダウンする "down"
ゴールインする "goal in"	インタビューする "interview"
マスターする "master"	マッチする "match"
ミックスする "mix"	オープンする "open"
プレゼントする "present"	リラックスする "relax"
サービスする "service"	サインする "sign"
スタートする "start"	ストップする "stop"

タイアップする “tie up”

これらの動詞が取る格助詞はその意味により、様々である。

1. 2. 2. 「-る」で終わる動詞

「する」の代わりに「-る」のみを付ける動詞化の例も数は少ないが、見られる。この場合はいわゆる五段活用の動詞ができる。「-eる」「-iる」で終わる一段動詞ができていいと思うが、見つかった例の中には一語もない。「アジる」が一段動詞とならないで、五段動詞となっているということは一段動詞はできにくいということかもしれない。

アジる “agitate”	デモる “demonstrate”	
ダブル “double”	ハモる “harmony”	メモる “memo”
ミスる “mistake”	ネグる “neglect”	サボる “sabotage”
トラブる “trouble”	ダフる “duff”(ゴルフ用語)	

上記10語のうち、「アジる、サボる、ダブル、デモる、ネグる」は大辞林、広辞苑(第3版)、新明解国語辞典(第4版)の見出し語にもなっている。「トラブる」(トラブルを起こす)、「ハモる」(ハーモニーが付く)、「ミスる」(ミスをする)はこの三つの辞書にはどれにも記載されておらず、「ダフる」「メモる」を見出し語としているのは大辞林のみである。

「ダブル」「トラブる」は原語の “double” “trouble” の語尾の子音 [l] を日本語化した [ru] を動詞の語尾としてうまく活かしたものである。

この他、「現代用語の基礎知識 1989」には「メタモる(変形する、変形させる)」「エキゾる(異国風に装う)」などが載っている。

1. 3. 形容詞

1. 3. 1. 形容動詞化

形容詞はほとんどの場合、いわゆる形容動詞として取り入れられる。

デリケートな（話題）`delicate`	デラックスな（車）`de luxe`
ダイナミックな（動き）`dynamic`	フレッシュな（歌）`fresh`
ハードな（練習）`hard`	ユーモラスな（スピーチ）`humorous`
ルーズな（性格）`loose`	モダンな（家具）`modern`
ナイーブな（考え方）`naive`	リアルな（演技）`real`
ロマンチックな（恋）`romantic`	シンプルな（生活）`simple`
スマートな（容姿）`smart`	ユニークな（見方）`unique`

ただし、色名はすべて名詞となる。つまり助詞「の」を伴って名詞修飾の機能を果たす。

ブルーの（スーツ）`blue`
ダークグリーン（コート）`dark green`
グレーの（スカート）`grey`
オフホワイトの（ブラウス）`off white`
ピンクの（ばら）`pink`
ワインレッドの（マフラー）`wine red`

1. 3. 2. 形容詞になる場合

ごく少数ではあるが、形容詞として取り入れられた単語もある。筆者の知識にあるのは「ナウい」「エロい」の2語のみである。前者はかなり定着したように見えるが、`erotic` を原語とする「エロい」がどのくらい広く使われているのかは定かではない。大辞林はこの2語のうち、「ナウい」を「ナウな」という形容動詞とともに見出し語としている。「エロ」に関しては、大辞林、

広辞苑（第3版）、新明解（第4版）とも扱いは同じで、「エロチック」「エロチシズム」の略の形容動詞としてのみ記載されている。「ナウ」は広辞苑（第3版）には記載されておらず、新明解（第4版）では「エロ」と同じく形容動詞になっている。

1. 4. 副詞

1. 4. 1. 「に」の添加

副詞として外国語を取り入れたいときは、いわゆる形容動詞の連用形、「-に」という形を使う。英語では形容詞に“ly”が付いて、副詞になるものが多いが、その場合、「-に」が添加されるのは普通“ly”を除いた、元の形容詞の方である。たとえば、「シリアスリーに」「センセーショナルリーに」ではなく「シリアスに」「センセーショナルに」となる。

クールに（対応する）“cool”

デリケートに（変化する）“delicate”

ドライに（割り切る）“dry”

ダイナミックに（動く）“dynamic”

リアルに（描く）“real”

センセーショナルに（報道する）“sensational”

シリアスに（考えない）“serious”

スマートに（着こなす）“smart”

スムーズに（移行する）“smooth”

システマチックに（勉強する）“systematic”

2. 省略

外国語が日本語に入ってくるときには様々な省略現象が見られる。

2. 1. 機能形態素の省略

まず原語の機能形態素，英語で言えば複数を表す “-s”，所有格の “-’s”，分詞の “-ed, -ing”，冠詞や “and” などは省略される傾向がある。

“-s” の省略

アコースチック (音響効果) “acoustics”

コーンフレーク “cornflakes”

ニッカーボッカー “knickerbockers” マナー “manners”

オンザロック “on the rocks” パジャマ “pajamas”

スキヤンティー “scanties”

スクランブル エッグ “scrambled eggs” スリッパ “slippers”

ストッキング “stockings” サングラス “sunglasses”

ツーペア “two pairs”

“-’s” の省略

ラムウール “lamb’s wool” ウーマンリブ “women’s lib”

(「ウーマンリブ」の場合，“women” の単数形 “woman” が選ばれると同時に “-’s” も省略されている。)

“-ed” の省略

コンデンスミルク “condensed milk”

コンビーフ (コーンビーフ) “corned beef”

ドライフルーツ “dried fruits”

ドロップショルダー (服飾) “dropped shoulder”

マッシュポテト “mashed potato”

オールドファッション “old-fashioned”

パスボール (野球) “passed ball”

ロールキャベツ “rolled cabbage”

スクランブルエッグ “scrambled eggs”

スモークサーモン “smoked salmon”

“-ing” の省略

ダイカスト (工業) “die casting”

ハッピーエンド “happy ending”

メジャーカップ “measuring cup”

セットローション “setting lotion”

“the” の省略

オフレコ “off the record”

オフシーン “off the scene”

オンエア “on the air”

オンレコ “on the record”

“and” の省略

ジントニック “gin and tonic”

ハムエッグ “ham and eggs”

機能形態素が省略されずにそのまま名詞の一部として日本語化する場合もある
るので、その例をあげておく。

“-s”

カフス “cuffs”

ダブルス “doubles”

パンツ “pants”

ピクルス “pickles”

パンプス “pumps”

セパレーター “separates”

ソックス “socks”

タイツ “tights”

“-’s”

メンズショップ “men’s shop”

“-ed”

ボイルドハム “boiled ham”

フライドポテト “fried potato”

レイヤードルック “layered look”

シンクロナイズドスイミング “synchronized swimming”

テーラードスーツ “tailored suit”

“-ing”

クッキングワイン “cooking wine”

ドライビングスクール `driving school`
`the`
オンザロック `on the rocks`

2. 2. 単語の一部の省略

2. 2. 1. 後半省略

長めの単語は後半部分が省略されることが多い。こうしてでき上がった単語は4拍どまりで、ほとんどの場合省略前の形と共存している。たとえば、「スト/ストライキ、ダイヤ/ダイヤモンド、インフレ/インフレーション」など、省略形、非省略形ともに使われる。しかし同じ「ダイヤ」でも、時刻表の意味の「ダイヤ」はその完全な形「ダイヤグラム」が使われることはほとんどないと言っていいだろう。同じく「アパート」が「アパートメント」、「デパート」が「デパートメントストア」と呼ばれることはまずないと言ってよからう。また、「ストライキ」は「スト」とも言うが、野球用語の「ストライク」は「スト」とは言わない。このように短縮形が使われるかどうかは個々の単語によって違い、一般化はできない。

また、短縮されたために、二つあるいはそれ以上の単語が同形となり、両義語、多義語となる場合もある。「ダイヤ(ダイヤモンド、列車のダイヤ)」はその一例である。以下、共存する語形がある場合は()に入れて示した。

2拍の語

アマ (アマチュア) `amateur`
ビル (ビルディング) `building`
チョコ (チョコレート) `chocolate`
コネ (コネクション) `connection`
ロケ (ロケーション) `location`
ネガ `negative`
プロ (プロフェッショナル) `professional`

スト (ストライキ) "strike"

テロ (テロリズム) "terrorism"

(以上は英語から入ったものであるが、ドイツ語から入ったものに次のような単語がある。)

デマ (デマゴギー) "Demagogie" ヒス (ヒステリー) "Hysterie"

ゼミ (ゼミナール) "Seminar"

3 拍の語

アニメ (アニメーション) "animation"

バスケ (バスケットボール) "basket ball"

コンビ (コンビネーション) "combination"

コンペ "competition" コンポ (コンポーネント) "component"

ダイヤ (ダイヤモンド, ? ダイヤグラム) "diamond, diagram"

パーマ (パーマネント) "permanent wave"

テレビ (テレビジョン) "television"

トイレ (トイレット) "toilet"

4 拍の語

エアロビ (エアロビクス) "aerobics"

アパート "apartment"

オートマ (オートマチック) "automatic"

オートメ (オートメーション) "automation"

デパート "department store"

ハンカチ (ハンカチーフ) "handkerchief"

イラスト (イラストレーション) "illustration"

インフレ (インフレーション) "inflation"

マンネリ (マンネリズム) "mannerism"

リハビリ (リハビリテーション) "rehabilitation"

スケボー (スケートボード) "skateboard"

シンクロ (シンクロナイズドスイミング) "synchronized swimming"

2. 2. 2. 前半省略

前半を省略して後半を残すのは珍しい。

ネック “bottleneck”	クリーニング “dry cleaning”
ネル “flannel”	キャスター “newscaster”
ドライバー “screw driver”	
バイト (アルバイト) “Arbeit” (独)	

2. 2. 3. 複合語の省略

2語から成る複合語、及び二つの形態素に分析できる単語の場合、前の語(または形態素)から2拍、後ろの語(または形態素)から2拍採った4拍の語が非常に多い。二つの漢字、4拍から成る2字漢語が(契約、通勤、出場、決勝、確実など)独立語として使われる場合に加えて、3字漢語(初出場、決勝戦など)、4字漢語(一年契約、通勤電車など)の構成要素となる場合も含めるとかなり多いということが関係しているように思える。つまり、日本語を母語とする者にとって、○○○○という4拍の単語を聞くと、○○+○○という形態素分析をしがちであり、新語を作るときにもこの規則が使われるということではないだろうか。

アメフト (アメリカンフットボール) “American football”
エアコン (エアコンディショナー) “air conditioner”
バゲトラ (バゲッジトラブル) “baggage trouble”
バンマス (バンドマスター) “band master”
ボディコン (ボディーコンシャス) “body conscious”
カメラハ (カメラリハーサル) “camera rehearsal”
コマソン (コマーシャルソング) “commercial song”
ハイテク (ハイテクノロジー) “high technology”

ハンスト (ハンガーストライキ) "hunger strike"
マスコミ (マスコミュニケーション) "mass communication"
ワンレン (ワンレングス) "one length"
ラジカセ (ラジオカセット) "radio cassette"
セクハラ (セクシュアルハラメント) "sexual harassment"
スタメン (スターティングメンバー) "starting member" (野球)
ワープロ (ワードプロセッサ) "word processor"

他にも和製外来語である複合語が省略されてできたことばにこの手のものが数多くある。「スタジャン (スタジアムジャンパー), キャバクラ (キャバレークラブ), イメチェン (イメージチェンジ), パンスト (パンティーストッキング), ファミコン (ファミリーコンピューター)」など, その一例である。

「○○コン」と「コン」で終わるものを見てみると, その「コン」の原語は次のように様々である。

エアコン (エアコンディショナー) "air conditioner"
ボディコン (ボディーコンシャス) "body conscious"
ドラコン (ドライビングコンテスト) "driving contest" (ゴルフ)
マザコン (マザーコンプレックス) "mother complex"
パソコン (パーソナルコンピューター) "personal computer"
プレコン (プレキャストコンクリート) "precast concrete"
リモコン (リモートコントロール) "remote control"
ツアコン (ツアーコンダクター) "tour conductor"
バリコン (バリアブルコンデンサー) "variable condenser"

「パソコン」の類では「ファミコン (ファミリーコンピューター), マイコン (マイクロコンピューター), スパコン (スーパーコンピューター)」, 「リ

モコン」の類に「ラジコン (ラジオコントロール), ノーコン (ノーコントロール: 野球用語で, ピッチャーのコントロールの悪いこと)», 「マザコン」の類に「ロリコン (ロリータコンプレックス)」もある。

この他にも混種語に「生コン (生のコンクリート), 駅コン (東京駅構内で開かれるコンサート)」などがあるが, 「コン」だけでは使われないので, 意味が曖昧になることはない。

4 拍の語に比べて, 2 拍, 3 拍になる省略語は少ないが, その数少ない語の例を挙げておく。

ベア (ベースアップ) “base up”

チョコパ (チョコレートパフェ) “chocolate parfait”

(『現代用語の基礎知識』 '89)

ダンパ (ダンスパーティ) “dance party”

ハイソ (ハイソサエティ) “high society”

レスカ (レモンスカッシュ) “lemon squash”

オレカ (オレンジカード) “orange card”

プラモ (プラスチックモデル) “plastic model”

(『現代用語の基礎知識』 '89)

スフ “staple fiber”

テレカ (テレフォンカード) “telephone card”

2 拍の「スフ」は今ではほとんど使われないことばと言ってもいいだろう。上に挙げた 3 拍の語はいずれも若者の間で好んで使われる “おしゃれ” な感じのことばである。3 拍の略語が少ないことから, 新奇性が強く感じられるのであろう (1988年津田塾会四十周年記念日本語国際シンポジウム「日本語教育の現代的課題」にて山田洋氏談)。

3. 和製外来語

和製外来語と言われるものはほとんどが「ボトルキープ，ホームドラマ」のような複合語で，その組み合わせが普通その原語では使われないものである。まれに「スキンシップ」のように自立語（「スキン」）と接尾辞（「シップ」）から成る場合もある。「アルバイト，フリーランサー」は「～をする人」という意味の接尾辞“-er”（「ピッチャー，キャッチャー，ゴルファー」など）を英語にない組み合わせで使ったものである。

和製外来語の中でもかなり目立つ組み合わせ，「-アップ」「-ダウン」のつくものを挙げてみよう。以下，*は原語にない組み合わせを表す。

イメージアップ “*image up”	イメージダウン “*image down”
コストアップ “*cost up”	コストダウン “*cost down”
スピードアップ “*speed up”	スピードダウン “*speed down”
パワーアップ “*power up”	
レベルアップ “*level up”	レベルダウン “*level down”

上記の単語はすべて「(名詞) がアップする (ダウンする)」あるいは、「(名詞) をアップする (ダウンする)」という構造を持っている。同じような構造の単語に「バトンタッチ，ボトルキープ，エンスト」などがある。

「修飾語+名詞」の構造を持ったものには次のようなものがある。

ダブルパンチ “*double punch”
ゴールデンアワー “*golden hour”
ハイミス “*high Miss”
ハイセンス “*high sense”
ホームドラマ “*home drama”
モーニングサービス “*morning service”
ナイスミドル “*nice middle”

オールドミス “*old Miss”
ワンパターン “*one pattern”
シルバーシート “*silver seat”
スーパーレディー “*super lady”
ワイドショー “*wide show”

その他の例をいくつか挙げておく。

ガソリンスタンド “*gasoline stand”
ガッツポーズ “*guts pause”
サイドブレーキ “*side brake”
サラリーマン “*salary man”
シャッターチャンス “*shutter chance”
テーブルスピーチ “*table speech”
ネームバリュー “*name value”
ペーパードライバー “*paper driver”
ヘルスセンター “*health center”
ポケットマネー “*pocket money”

英語、ドイツ語、フランス語を組み合わせた多国籍外来語もかなりある。

アベックアーチ “*avec arch” (仏+英)
アルバイトサロン “*arbeit salon” (独+仏)
カフスポタン “*cuffs botão” (英+蘭)
ゴムテープ “*gom tape” (蘭+英)
クリームパン “*cream pão” (英+蘭)
テーマソング “*Thema song” (独+英)
チープシック “*cheap chic” (英+仏)

バカンスウェア “*vacances wear” (仏+英)

メルヘンチック “*Märchentlic” (独+英)

ルポライター “*repo writer” (仏+英)

4. 混種語

和語あるいは漢語に外来語が組み合わさった混種語も多い。

和語+外来語

朝シャン	板チョコ	コップ酒
乙女チック	貸ビル	ゴム長
からオケ	頑張りズム	スト破り
革ジャン	果物ナイフ	テレビっ子
口コミ	粉チーズ	ドル箱
じゃりタレ	でかパン	ドル高
投げキッス	なつメロ	ビヤ樽
生ビール	若手コンビ	ピンぼけ

外来語+和語

漢語+外来語

家庭サービス	帰省ラッシュ	アイドル歌手
財テク	社交ダンス	サラダ油
省エネ	女子プロ	スリル満点
脱サラ	賃貸マンション	ニクロム線
半ドア	満タン	ヒット曲
		ホモ牛乳
		レトロ調

III. 音声音韻の日本語化

1. E. T. 語の日本語化：日本語化の概要

宇宙人 E. T. が宇宙船から地上に降り立ったとき、最初に叫んだ音声は [æθlətit^h] であったとする。まわりにいた日本人は、その宇宙人が [æθlətit^h] を連発するのを聞いて、その音声があいさつの言葉であると思い、同じ表現をまねしようとしたが、[asuratʃitto] としか発音できない。後で必要であろうと思って、書きとめておこうとした。しかし、学校の英語のクラスで習った発音記号を覚えている者はいなかったため、E. T. 語をメモする手段としては片仮名しかなかった。そこで片仮名を使って書いた語形は「アスラチット」で、おもしろいことにこれはほぼ全員に共通したスペルであった。[æθlətit^h] がなぜ [asuratʃitto] としかまねできなかったのであろうか。なぜ「アスラチット」と書いたのであろうか。そこにいた日本人のほとんど全員が同じように E. T. 音を聞き、まねし、表記したことから分かるように、これは日本人の問題、厳密には日本語の問題であり、そこに答えを見出すことができる。以下、このような E. T. 語の日本語化がどのような過程を経て実現するのか、ということについて考えてみたい。

まず、日本語の音節構造では撥音と促音に後続する子音以外には、子音の後にもう一つ子音が並ぶということがないから、子音と子音の間、または子音の後には母音が付加される。その際、付加される母音は原則的に [u] だが、[t] のような歯茎破裂音の後では原則的に [o] が使われる。また更に短母音 [i] の後の [t] は長くなり、その際喉頭に緊張を伴い、長さは1拍、つまり母音一つまたは子音と母音とが結合したものとほぼ同等の長さのものになる。結果として [it] は [itto] となる。この最初の [t] は促音（つまる音）という特殊音だとみなされ /q/ という記号で代表されるが、促音については後で詳しく述べることにする。

日本語には E. T. 語の母音・子音と全く同じ音声であるものはないので、

それに近いもので代用するしかない。それで母音 [æ] は [a] で, [ə] も [a] で, 子音の [l] は [r] で, [θ] は [s] で代用される。[ti] は [tʃi] となる。厳密な意味では [tʰ] も E. T. 語と日本語とでは少し性格が異なっているのだが, その違いはここでは問題にしないことにする。

日本語では母音 1 つまたは子音と母音の結合したものが同じ長さで発音されるという性格があるから, [a] [su] [ra] [tʃi] [t] [to] と六つの音声上の最小単位 (拍) が意識され, そのように発音される。

そしてさらには日本語のアクセントのパターンに従って,

a s u r a t ʃ i t t o

となる。

日本語では, 外国語を表記するときには片仮名を使うのが習慣となっており, またこの片仮名も, もともと, 日本語の拍を表記するものであるから [a su ra tʃi t to] も「アスラチット」と表記される。小さな「ッ」は促音に相当するものである。次に以上述べてきたことを図で示してみよう。

(表: 2) E. T. 語: [æθlətʰi] の日本語化

[æ	θ	lə	ti	tʰ]		
u				o	1. 開音節化	
				q	2. 促音挿入	
a				a	3. 母音の日本語化	
	s	r	tʃ			
			tʃi	4. 子音の日本語化		
a	su ra		tʃi	q to		5. アクセントの日本語化
ア	ス	ラ	チ	ッ	ト	6. カタカナ表記

以上は E. T. 語が日本語化するときの概要であるが, 次に, この章の本論

である英語の日本語化について考えてみよう。以下、日本語と英語の音声と音韻の比較に基づく日本語化の様相を、2. 音節と拍 3. 開音節化 4. 促音挿入 5. 母音の日本語化 6. 子音および半母音の日本語化 7. スペルに基づいた日本語化 8. アクセントの日本語化、の項目について述べていく。なお、英語以外のヨーロッパ語も重要と思われる語、または項目について考察の対照とした。

2. 日本語の音節と拍

2. 1. 拍

「日本語 [nihonɡo]」という語をゆっくり区切って発音するとき、日本人はたとえ幼児であっても「ニ、ホ、ン、ゴ」と四つに分けてほぼ同じ長さで発音する。普通の日本人はその一つ一つが音の最小単位であり、四つの最小単位の音が並んだものと考えている。

しかし実際は、特殊音素である /N / を除いては、「ニ」は [ni]、「ホ」は [ho]、「ゴ」は [ɡo] の子音 (C) と母音 (V) の音素の結合であり、「ニ・ホ・ン・ゴ」という語の音のそれぞれは、拍またはモーラという。

これに対して、音声学的単位である音節はシラブルとも呼ばれ、この二つの単位が言語の中で占める位置によって、拍 (モーラ) 言語と音節 (シラブル) 言語という分類がなされることがある。日本語の場合、少数の方言を除いては拍 (モーラ) が音韻的に最小単位として意識されていて、このことが日本語の音韻体系の重要な特徴とされている。日本語の中では音節と拍とは次のような関わり方をしている。そしてアクセントのルールにおいても、音節と拍の両方が関わりあっているが、このことはMcCawley (1968) 等に指摘されている。

あんな	切って	通り
[an na] 2音節	[kit te] 2音節	[to: ri] 2音節
/a N na/ 3拍	/ki q te/ 3拍	/to: ri/ 3拍

2. 2. 日本語の音節の種類

日本語の音節構造は基本的に開音節 (open syllable) であり (例えば「イヌ [inu], ネコ [neko]」など), このことは英語の音節構造が基本的に閉音節 (closed syllable) であることと対照的である (“dog [dɒg], cat [kæt]” など). 子音をC, 半母音をS, 母音音素をVで代表させると, 日本語の音節は (C (S)) V^(註)の構造式で表される. そしてこの式で五十音図にある五つの母音「ア・イ・ウ・エ・オ」と直音「カ・キ・ク・ケ・コ」など, そして撥音「キャ・キュ・キョ」などを表すことができる. 例は以下のようなものである. ^(註) () は非必須または省略可能 (optional) な要素を示す.

V	ア	イ	ウ	エ	オ
CV	カ	キ	ク	ケ	コ
CSV	キャ	キュ	キョ		

上記のように (C (S)) Vの形をとり1拍として数えられる一般的な音節の他に, 日本語には, 1拍として数えられる特殊音素がある. それは撥音(はねる音), 促音(つまる音)と呼ばれ, 撥音は /N/, 促音は /Q/ などで表される. さらに長音の母音 [V:] を, 短母音の後に引く音 [:] が加わったものと解釈すれば, 引く音素 /:/ も特殊音素とみなされる. これらの特殊音素は一般的な音素と違って, 語頭には現れないという特質がある.

これら特殊音素は母音を核とする音節に付随して起こるものであるから, それらを含めると日本語の音節構造は次のような構造式で表すことができよう.

$$[C (S)] V (:) \left\{ \begin{array}{l} N \\ Q \end{array} \right\}$$

注) C 子音 S 半母音 [j] または [w] を指す V 母音

N 撥音 (はねる音) Q 促音 (つまる音) : 引く音
 構造式の [] () は非必須または省略可能 (optional) 要素,
 { } は選択可能である要素を示す。

2. 3. 和語に見られる音節

上記の構造式で代表される音節の具体例は以下のようなものがある。まず和語には次のような音節の種類がある。

(表：3) 短母音を核とした音節の例 (和語)

V	u	う
CV	ku	く
SV	ju	ゆ
CSV	kju	きゅ
V _N	u _N	うん
CV _N	ku _N	くん
VQ (CV)	uq(te)	うっ (て)
CVQ (CV)	kuq(te)	くっ (て)

(表：4) 長母音を核とした音節の例 (和語)

V:	u:	うう
CV:	ku:	くう
SV:	yu:	ゆう
CSV:	kju:	きゅう
CV:N	ku:N	くうん
V:N	u:N	ううん

V:q (CV)	u : q (to)	※ううっ (と) (擬声語)
CV:q (CV)	ku : q (to)	※くうっ (と) (擬声語)

※V:q, CV:q のタイプは
主として擬声語・擬態語に現れる。

2. 4. 漢語に見られる音節

現代日本語で使用されている漢語も次のような音節構造をもっている。

$$[C (S) V] \left\{ \begin{array}{l} N \\ Q \\ ; \end{array} \right\}$$

(表：5) 短母音を核とした音節の例 (漢語)

V	a	阿
CV	ki	気
SV	ju	湯
CSV	kjo	巨
V _N	a _N	安
CV _N	ki _N	
V _Q (CV)	i _Q (ki)	一気
CV _Q (CV)	ki _Q (sa)	喫茶

(表：6) 長母音を核とした音節の例 (漢語)

V:	e:	榮
CV:	ke:	計
SV:	ju:	裕
CSV:	kju:	急

※本書では、[ei] はエ列長音と考える。

2. 5. 拍と五十音図

日本語で和語と漢語にみられる拍の種類を整理すると表：7の五十音図が
できあがる。それを簡略な発音記号を使って書き換えると表：8になる。

(表：7) 五十音図

	直 音					拗 音		
清 音	ア	イ	ウ	エ	オ			
	カ	キ	ク	ケ	コ	キャ	キュ	キョ
	サ	シ	ス	セ	ソ	シャ	シュ	ショ
	タ	チ	ツ	テ	ト	チャ	チュ	チョ
	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ニャ	ニユ	ニョ
	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	ヒャ	ヒユ	ヒョ
	マ	ミ	ム	メ	モ	ミャ	ミユ	ミョ
	ヤ		ユ		ヨ			
	ラ	リ	ル	レ	ロ	リャ	リュ	リョ
	ワ				ヲ			
	ン							
	濁 音	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ギャ	ギユ
ザ		ジ	ズ	ゼ	ゾ	ジャ	ジュ	ジョ
ダ		ヂ	ヅ	デ	ド	ヂャ	ヂユ	ヂョ
バ		ビ	ブ	ベ	ボ	ビャ	ビユ	ビョ
半濁音	パ	ピ	プ	ペ	ポ	ピャ	ピユ	ピョ

(表：8) 発音記号を使った五十音図

	直 音	拗 音
清 音	a i u e o ka ki ku ke ko sa ši su se so ta tši tsu te to na ni nu ne no ha çi φu he ho ma mi mu me mo ja ju jo ra ri ru re ro wa o N	kja kju kjo ša šu što tša tšu tšo nja nju njo çja çju çjo mja mju mjo rja rju rjo
濁 音	ga gi gu ge go za zi zu ze zo da dzi dzu de do ba bi bu be bo	gja gju gjo za zu zo (d3a d3u d3o) d3a d3u d3o (3a 3u 3o) bja bju bjo
半濁音	pa pi pu pe po	pja pju pjo

五十音図を音声学的見地から考察してみよう。上の表：8において五十音図の中心をなす直音の清音を見てみると、日本語の母音は、[a, i, u, e, o]の五つで、五十音図では横軸になっており、子音と半母音は[k, s, t, n, h, m, j, r, w]の九つで、縦軸になっている。さらに無声子音[k, s, t]と有声子音[g, z, d]は、[k/g] [s/z] [t/d]の無声：有声の対立をなしている。五十音図をみると、ハ行音とバ行音も同じような対立をなしているようだが、実際には無声と有声の対立だけでなく、ハ行音は摩擦音でバ行音は破裂音であり、調音点も異なっている。音声学的見地からは、同じく両唇音で無声破裂音である[p]と有声破裂音の[b]が対立すべきであるが、[p]は半濁音とされている。またその他に、口蓋化した子音[Cj]、および口蓋音の

[ʃ, tʃ, ʒ, dʒ, j] と母音 (V) の結合からなる拗音がある。

2. 6. まとめ

以上をまとめると次のような表ができる。

(表：9) 日本語の音節構造

(子 音)	(半母音)	母音	(特殊音素)	
C	S	V		
p t k b d g ts tʃ dz dʒ ɸ s ʃ ç h z ʒ m n r	j w	i u e o a	:	N Q
(このうちの一つ)	(jかw)	このうちの 1つ	(:)	(NかQ)
1 拍			1拍	1拍
1 音 節				

※ () 内は省略可能である。

3. 開音節化

3. 1. 概観（日本語と英語の比較）

日本語が開音節（open syllable）を原則とするのに対して、英語は閉音節（closed syllable）が原則であり、次のように子音が2つ以上並ぶことが可能である。

s p r i n t
 [s p r i n t]
 (C₁ , C₂ , C₃) V (C₄ , C₅)

日本語で閉音節を形成する音素は撥音 /N/ と促音 /Q/ のみである。しかも促音 /Q/ に後続する子音の種類は限られている。また子音群は起こらない。であるから、音節末尾が日本語化して撥音 /N/ となる場合を除き、日本語化の際は、下の表：10のように、英語を開音節化すること、つまり母音を子音の後に添加または子音と子音との間に挿入することが要求される。

ただし、英語の母音に [r] が後続したものは、日本語では、[r] が脱落して長母音で終わる音節ができるので、母音添加、挿入の対象とはならない。例えば “mark, paper, corner” はそれぞれ「マーク、ペーパー、コーナー」というふうに [r] のあとに母音は入らない。

（表：10）英語の音節の日本語化

英語の 音節構造	日本語化された 音節構造	英語	日本語
CVC	CVCV	pass [pæs]	[pasu] パス
CCVC	CVCVCV	thrill [θril]	[suriru] スリル
CCCVC	CVCVCVCV	stress [stres]	[sutoresu] ストレス
CVCC		bust [bʌst]	[basuto] バスト
CVCCC		pickles [piklɪz]	[pikurusu] ピクルス

この場合、添加または挿入される母音は上述のE.T.語の例でも言及したように [u] が原則的に使われる。しかし、[t, d] のような歯茎音の後には [o] が使われ、[tʃ, dʒ] の破擦音には [i] が使われるのが普通である。つまり、原則として添加する母音として次のようなものがあげられる。

○ [t, d] には [o] (3. 2. 参照)

この例外として [t] が [tsu] になる場合 (3. 3. 参照)

○ [tʃ, dʒ] には [i] (3. 4. 参照)

○ 残りの子音には [u] (3. 5. 参照)

しかし例外として次のようなものがあげられる。

○ [k, ʃ, ʒ] には [i] または [u] (3. 6. 参照)

次にそれぞれについての母音添加の具体例をあげてみる。

3. 2. [t] と [d]

3. 2. 1. [t] → [to]

歯茎音 [t] には [u] ではなく [o] が添加されるのが原則である。しかし、わずかな例外もある。

語尾の [t]

chocolate [tʃɔkəlɪt] チョコレート

classmate [klæsmeɪt] クラスメート concert [kɒnsərt] コンサート

concrete [kɒnkri:t] コンクリート cut [kʌt] カット

date [deɪt] デート elite [eɪlɪt] エリート

flute [flu:t] フルート gut [gʌt] ガット heart [ha:rt] ハート

hit [hit] ヒット mat [mæt] マット net [net] ネット
part [pa:rt] パート pet [pet] ペット rate [reit] レート

語中の [t]

[tɪ]

bottle [bɒtl] ボトル gentleman [dʒɛntlmən] ジェントルマン
mantelpiece [mæntlpi:s] マントルピース title [taitl] タイトル

[tr]

mattress [mætris] マットレス trainer [treinər] トレーナー
transistor [trænzistər] トランジスター trend [trend] トレンド
trouble [trʌbl] トラブル truck [trʌk]トラック

try [traɪ] トライ

[str]

straight [streɪt] ストレート straw [strɔ:] ストロー
strike [straɪk] ストライキ strip [stri:p] ストリップ
stripe [straɪp] ストライプ

3. 2. 2. [d] → [do]

破裂音の歯茎音 [d] には [t] の場合と同じく、原則的に [o] が添加される。

語尾の [d]

band [bænd] バンド bound [baund] バウンド
brand [brænd] ブランド end [end] エンド
field [fi:ld] フィールド friend [frend] フレンド
gold [gould] ゴールド guard [ga:rd] ガード
guide [gaid] ガイド hand [hænd] ハンド hold [hould] ホールド
land [lænd] ランド nude [nju:d] ヌード old [ould] オールド
pride [praɪd] プライド sand [sænd] サンド side [said] サイド

speed [spi:d] スピード stand [stænd] スタンド
wide [waid] ワイド world [wɔ:rlɔd] ワールド

子音の前の [d]

candle [kændl] キャンドル drama [dræmə] ドラマ
dress [dres] ドレス drill [dril] ドリル drive [draiv] ドライブ
dry [drai] ドライ handle [hændl] ハンドル
hurdle [hɜ:rdl] ハードル medley [médli] メドレー
middle [midl] ミドル (級)

語末における短母音の後の [d]

語末の短母音の後の [d] は [do] とその無声化した [to] の両形を持つ例が多い。この現象については促音挿入の項で説明する。

bed [bed] ベッド (→ベット)
hair liquid [heərlikwid] ヘアリキッド (→ヘアリキッド)
pad [pæd] パッド (→パット) red [red] レッド (→レット)
thoroughbred [θʌrəbrəd] サラブレッド (→サラブレッド)

3. 3. [t] → [tsu]

歯茎破裂音の [t, d] に添加される母音は原則的に [o] であるが、例外的に [to] ではなくて [tsu] となる。

cutlet [kʌtlit] カツレツ nutmeg [nʌtmæg] ナツメグ
settlement [sétlmənt] セツルメント tree [tri:] ツリー

3. 4. [tʃ] と [dʒ]

3. 4. 1. [tʃ] → [tʃi]

[tʃ] も添加される母音は [u] ではなく原則的に [i] である。

approach [əpróutʃ] アプローチ arch [a:rtʃ] アーチ

bench [bentʃ]	ベンチ	brooch [brʊtʃ]	ブローチ
catch [kætʃ]	キャッチ	clutch [klʌtʃ]	クラッチ
coach [kəʊtʃ]	コーチ	fruit punch [fru:tʃpʌntʃ]	フルーツポンチ
lunch [lʌntʃ]	ランチ	march [mɑ:rtʃ]	マーチ
match [mætʃ]	マッチ	pinch [pɪntʃ]	ピンチ
punch [pʌntʃ]	パンチ	sandwich [sændwɪtʃ]	サンドイッチ
sketch [sketʃ]	スケッチ	speech [spi:tʃ]	スピーチ
stitch [stɪtʃ]	ステッチ	stop watch [stɒpwɒtʃ]	ストップウォッチ
switch [swɪtʃ]	スイッチ	touch [tʌtʃ]	タッチ

3. 4. 2. [dʒ] → [dʒi]

[dʒ] も添加される母音は [u] ではなく、原則的には [i] である。短母音の後の [dʒ] は [dʒi] とその無声化した [tʃi] の両形を持つ例がある。この現象については促音化の項で説明する。

badge [bædʒ]	バッジ	→ (バッチ)	
bridge [brɪdʒ]	ブリッジ	→ (ブリッチ)	
arrange [ə'reɪndʒ]	アレンジ	challenge [tʃælɪndʒ]	チャレンジ
change [tʃeɪndʒ]	チェンジ	college [kɒlɪdʒ]	カレッジ
edge [edʒ]	エッジ	garage [gə'reɪdʒ]	ガレージ
image [ɪmɪdʒ]	イメージ	lodge [lɒdʒ]	ロッジ
massage [mə'sɑ:dʒ]	マッサージ	message [mésɪdʒ]	メッセージ
orange [ɔ:rɪndʒ]	オレンジ	page [peɪdʒ]	ページ
sausage [sɔ:sɪdʒ]	ソーセージ	sponge [spʌndʒ]	スポンジ
stage [steɪdʒ]	ステージ		

3. 5. その他の子音 C→C[u]

p	pro [prou] プロ	plan [plæn] プラン	harp [ha:rp] ハーブ	soup [su:p] スープ
b	blow [blou] ブロー	brand [brænd] ブランド	pub [pʌb] パブ	club [klʌb] クラブ
k	clean [kli:n] クリーン	cream [kri:m] クリーム	kick [kik] キック	pink [piŋk] ピンク
g	green [gri:n] グリーン	glass [glæs] グラス	bag [bæg] バッグ	bulldog [búldɔg] ブルドッグ
s	star [sta:r] スター	spray [sprei] スプレー	miss [mis] ミス	rice [rais] ライス
z	puzzle [pʌzl] パズル	nozzle [nɔzl] ノズル	fuse [fju:z] ヒューズ	noise [nɔiz] ノイズ
θ	three [θri:] スリー	throttle [θrɔtl] スロットル	bath [bæθ] バス	Smith [smiθ] スミス
ð	_____	_____	_____	_____
f	fry [frai] フライ	friend [frend] フレンド	tough [tʌf] タフ	staff [stæf] スタッフ
v	stove [stouv] ストーブ	curve [kə:rv] カーブ	serve [sə:rv] サーブ	drive [draiv] ドライブ

ʃ	mushroom	rush	cash	push
	[mʌʃru:m]	[rʌʃ]	[kæʃ]	[puʃ]
	マッシュルーム	ラッシュ	キャッシュ	プッシュ
ʒ	sabotage	rouge	beige	camouflage
	[sæbətɑ:ʒ]	[ru:ʒ]	[beiʒ]	[kæməflɑ:ʒ]
	サボタージュ	ルーージュ	ベージュ	カモフラージュ
ts	Pittsburg	boots	pants	tights
	[pítʃbɜ:rg]	[bu:ts]	[pænts]	[taits]
	ピッツバーグ	ブーツ	パンツ	タイツ
dz	Cincinnati Reds	goods	beads	needs
	[sɪnsənætiredz]	[gudz]	[bi:dz]	[ni:dz]
	シンシナチレッズ	グッズ	ビーズ	ニーズ
m	Hamlet	rhythm	room	slim
	[hæmlit]	[rɪðəm]	[ru:m]	[slim]
	ハムレット	リズム	ルーム	スリム
r	(英語以外のヨーロッパ語の場合のみ)			
	Märchen [mɛ:rçən] (独) メルヘン	tarte [tart] (仏) タルト		
	bourgeois [burʒwa] (仏) ブルジョワ			
	Kamfer [kāmfer] (蘭) カンフル	mètre [mɛtr] (仏) メートル		
	gourmet [gurmɛ] (仏) グルメ			

3. 6. 例外

3. 6. 1. [k] → [ku] / [ki]

原語が同じでも [ki] と [ku] の両方の形を持つものがあるが、[ki] のほうが年代的に古いニュアンスがある。しかし意味の違うものもある。

ニュアンスの違う例

text [tekst] テキスト／テキスト ink [ɪŋk] インキ／インク

taxi [tæksi] タクシー (現代用語89年版：あらかわ1977による)／

タクシー

意味が違う例

strike [straik] ストライキ／ストライク

3. 6. 2. [k] → [ki]

[k] の後は原則として [u] が添加されるが、[k] の前にくる母音が前舌母音のときは [i] が添加される。“deck” が「デッキ」となるのに対し、後舌母音をもつ “dock” は「ドック」となる。ただし、この例外として「ボーキサイト (bouxite)、インキ (ink)、タキシード (tuxedo)」などがある。

exotic [igzótik] エキゾチック extra [ékstrə] エキストラ

extract [ékstrækt] エキス saxophone [sæksəfəun] サキソホン

Texas [téksæs] テキサス

blik [blík] (蘭) プリキ brake [breik] ブレーキ

cake [keik] ケーキ check [tʃek] チッキ deck [dek] デッキ

electric guitar [ilektrikgita:r] エレキギター

jack [dʒæk] ジャッキ

jodtinktur [jodtinktu:r] (独) ヨードチンキ

kalk [kalk] (蘭) カルキ steak [steik] ステーキ

3. 6. 3. [ʃ] → [ʃu] / [ʃi]

語尾の [ʃ] は [u] が添加されるのが原則であるが、例外的に [i] が添加される例も見られる。この場合も [ki] と同じように年代的に古い外来語である。

[ʃi] の例

cash [kæʃ] キャッシ (1950年川端康成「東京の女」:

あらかわ1977による)

dash [dæʃ] ダッシュ (1932年「世界科学史」:あらかわ1977による)

lemonsquash [lemənskwaʃ] レモンスカッシュ

[ʃu] の例

cash [kæʃ] キャッシュ dash [dæʃ] ダッシュ

flash [flæʃ] フラッシュ fresh [freʃ] フレッシュ

mesh [meʃ] メッシュ push [puʃ] プッシュ

radish [rædiʃ] ラディッシュ rush [rʌʃ] ラッシュ

smash [smæʃ] スマッシュ

3. 6. 4. [ʃ] → [ʃu] / [ʃi]

語尾が摩擦音 [ʃ] である単語はフランス語から英語に入った語であり、これらの日本語化の際には [u] が原則的に添加されるが、[i] が添加される例もあり、後者はやはり [ki] [ʃi] の例と同様に年代的に古い形、もしくは古いニュアンスを持つ形である。

beige [beɪʃ] ベージュ/ページ

montage [mɔ̃nta:ʃ] モンターージュ

camouflage [kæmɛflɑ:ʃ] カムフラージュ/カムフラージ

potage [pɔ̃tɑ:ʃ] ポターージュ/ポターージ (1919の例:あらかわ1977による)

reportage [rɛpɔ̃tɑ:ʃ] ルポルターージュ

rouge [ru:ʃ] ルージュ

sabotage [sæbɔ̃tɑ:ʃ] サボターージュ/サボターージ

4. 促音挿入

4. 1. 促音挿入の条件

“mit, set, mat” のような英語が日本語化した場合、「ミット [miqto]」

「セット[seqtɔ]」「マット[maqtɔ]」というように、母音と子音の間に促音 [ɥ]が入り、片仮名の「ッ」で表記される。下に示した表でわかるように、もとの英語の形を調べてみると、母音は [i, e, æ, ʌ, ɔ, u] と原語でも短母音であり、語尾の子音もすべて無声の子音、それも破裂音 [p, t, k], 破擦音 [ts, tʃ], 摩擦音 [s, ʃ] に限られていることに気がつく。

(表：11) 促音が挿入される語例

	p#	t#	k#	tʃ#	ʃ#	s#
[i]	hip	mitt	kick	pitch	fish	kiss
	[hip]	[mit]	[kik]	[pitʃ]	[fiʃ]	[kis]
	[çiɥpu]	[miɥtɔ]	[kiɥku]	[piɥtʃi]	[fiɥʃu]	[kiɥsu]
	ヒップ	ミット	キック	ピッチ	フィッシュ	キッス
[e]	step	set	check	sketch	mesh	
	[step]	[set]	[tʃek]	[sketʃ]	[meʃ]	
	[suteɥpu]	[seɥtɔ]	[tʃeɥku]	[sukeɥtʃi]	[meɥʃu]	
	ステップ	セット	チェック	スケッチ	メッシュ	
[æ]	lap	mat	pack	catch	cash	
	[læp]	[mæt]	[pæk]	[kætʃ]	[kæʃ]	
	[raɥpu]	[maɥtɔ]	[paɥku]	[kjaɥtʃi]	[kjaɥʃu]	
	ラップ	マット	パック	キャッチ	キャッシュ	
[ʌ]	cup	cut	truck	touch	rush	
	[kʌp]	[kʌt]	[trʌk]	[tʌtʃ]	[rʌʃ]	
	[kaɥpu]	[kaɥtɔ]	[toraɥku]	[taɥtʃi]	[raɥʃu]	
	カップ	カット	トラック	タッチ	ラッシュ	
[ɔ]	top	pot	rock	watch		
	[tɔp]	[pɔt]	[rɔk]	[wɔtʃ]		
	[toɥpu]	[poɥtɔ]	[roɥku]	[woɥtʃi]		
	トップ	ポット	ロック	ウォッチ		

[u]	foot	book	push
	[fut]	[buk]	[puʃ]
	[fʊqtɔ]	[buɔku]	[puʃu]
	フット	ブック	プッシュ

母音に関しては、短母音の場合には促音化が見られるが、長母音と二重母音の場合は、上の表と同じく1音節の語であっても、表：12でわかるように促音化は起こらない。

(表：12) 促音が挿入されない語例

	p#	t#	k#
[i:]	jeep	beat	peak
	[dʒi:p]	[bi:t]	[pi:k]
	[dʒi:pu]	[bi:to]	[pi:ku]
	ジープ	ビート	ピーク
[ei]	tape	mate	cake
	[teip]	[meit]	[keik]
	[te:pu]	[me:to]	[ke:ki]
	テープ	メート	ケーキ
[a:/a:r]	carp	mart	mark
	[ka:rp]	[ma:rt]	[ma:rk]
	[ka:pu]	[ma:to]	[ma:ku]
	カープ	マート	マーク
[ou]	rope	note	yoke
	[roup]	[nout]	[jouk]
	[ro:pu]	[no:to]	[jo:ku]
	ロープ	ノート	ヨーク

[ai]	pipe	night	bike
	[paip]	[nait]	[baik]
	[paipu]	[naito]	[baiku]
	パイプ	ナイト	バイク
[u:]	hoop	suit	
	[hu:p]	[su:t]	
	[φu:pu]	[su:tsu]	
	フープ	スーツ	

子音に関しては、無声音の場合には促音化が見られるが、有声音の場合は表：13、14でわかるように促音化が見られるものとそうでないものがある。このことは表：13と表：14を比べると明らかである。

(表：13) 促音が挿入される語例 (子音が有声音の場合)

b#	d#	g#	dz#	d3#
knob	bed	dog	goods	badge
[nɔb]	[bed]	[dɔg]	[gudz]	[bæd3]
[noɔbu]	[beɔdo]	[doɔgu]	[guɔdzu]	[baɔd3i]
ノブ	ベッド	ドッグ	グッズ	バッジ
	red	log	kids	edge
	[red]	[lɔg]	[kidz]	[ed3]
	[reɔdo]	[roɔgu]	[kiɔdzu]	[eɔd3i]
	レッド	ログ	キッズ	エッジ
	head	bag		lodge
	[hed]	[bæg]		[lɔd3]
	[heɔdo]	[baɔgu]		[roɔd3i]
	ヘッド	バッグ		ロッジ

(表：14) 促音化しない形で使われる語例 (子音が有声音の場合)

b#	d#	g#	dz#	dʒ#
sub		tag		
[sʌb]		[tæg]		
[sabu]		[tagu]		
サブ		タグ		
jab		bug		
[dʒæb]		[bʌg]		
[dʒabu]		[bagu]		
ジャブ		バグ		
knob		rug		
[nɔb]		[rʌg]		
[nobu]		[ragu]		
ノブ		ラグ		
pub				
[pʌb]				
[pabu]				
パブ				
Bob				
[bɔb]				
[bobu]				
ボブ				
lib				
[lib]				
[ribu]				
リブ				

子音が有声音の場合にも、一般的とは言えないまでも促音挿入の例が見られることは、非常に興味深いことである。なぜなら、有声子音の前に促音がおこることは本来の日本語には見られないパターンであるからである。ためしに「っ」で書かれた和語・漢語の単語で後続する仮名が濁音である例を探してみるとよい。「っぶ」や「っど」「っぐ」「っず」「っじ」の類は見つからないはずである。

してみると、外来語には本来の日本語にはなかったルールが適用されるということがいえる。例えば [bæg] という語が日本語化される場合、促音挿入のルールが適用されるから [baqgu]「バッグ」という形になる。しかし、先に指摘したように、日本語には「っぐ」という形はないことから、この外来語の形はなじみのない、または日本語らしくない音の配列である。そこで日本語らしくするルール、すなわち促音の後の子音を無声化するルールがさらに働くと考えられる。そうすると [baqgu]「バッグ」が [baqku]「バック」になる。

以上のことをまとめると次のようになる。

- I 短母音に無声子音（破裂音または破擦音および [s] [ʃ]）が続く場合、促音が挿入される。
- II 短母音に有声子音（破裂音または破擦音）が続く場合、語によって促音が挿入される場合がある。挿入された場合、その子音が無声化する場合がある。

これによって、「バッグ」と「バック」の二つの異なる語形が日本語の語彙の中に共存していることの説明がつく。なお、この問題については、「IV. 表記における問題 2.6.」で詳しく論じる。

ここまで考察してきた日本語化の過程を図表化すると次のようになる。

(表:15) 外来語の日本語化の過程 — “b a g [bæg]” の例 —

[b æ g]	
	u …………… 1. 開音節化
	Q …………… 2. 促音挿入
a ……………	3. 母音の日本語化
b …………… g ……………	4. 子音の日本語化
b a Q g u ……………	5. アクセントの日本語化
バ ッ グ……………	6. 片仮名表記
	k…………… 7. 促音の後続子音の無声化
バ ッ ク……………	8. 片仮名表記

4. 2 なぜ促音が挿入されるのか

／C₁V C₂／のパターンが日本語化すると／C₁V₁Q C₂V₂／になるのだが、次に、なぜ促音 /q/ が現われるのかということについて考えてみたい。その手順としてまず、英語の母音の性格、特に子音が後続するときには何が起こるかということの究明から始め、次に日本語の促音とは何かということ、そして最後に、英語の／C₁V C₂／に促音 /q/ が挿入される理由を考えることにする。

4. 2. 1 英語音の考察

まず、英語の母音の性格を考えるにあたって、短母音 [i] と長母音 [i:] とを比べることから始めよう。語例として “mitt” と “meat” を見てみることにする。英語の “mitt” と “meat” は日本語化した場合、前者は [miqtɔ] 「ミット」、後者は [mi:to] 「ミート」として捉えられるが、いずれも [mito] 「ミト」にはならない。

(英語)		(外来語)
mitt [mit]	→	[miqto] ミット * [mito] ミト
meat [mi:t]	→	[mi:to] ミート * [mito] ミト

英語の [i] と [i:] については、いろいろな解釈がなされている (小泉 1978)。まず、(a) 量的対立: “mitt” の [i] は短く “meat” の [i:] は長いとし、これら 2 つの語は主として母音の長短によって区別されるとする。(b) 質的対立: “mitt” の [i] と “meat” の [i:] は、主として母音の長短というよりも舌の構えの相違に基づくものである。つまり音質に違いがあるとする。(c) 緊張による対立: この二つの母音の違いは主として舌の緊張の度合いによるもので、“mitt” の [i] はその度合いが “meat” の [i:] より小さいとする。その他上記の説の折衷案もある。しかしこうした解釈の相違に関わりなく、この二つの母音を含む英語の語が日本語化される場合、日本語には「ア、イ、ウ、エ、オ」の五つの母音音素しかなく、さらに母音の長短が音韻的に対立をなすところから、“mitt” の [i] は日本語の [i]、そして “meat” の [i:] は日本語の [i:] と置き換えられることがわかる。

次に子音であるが、英語の “mitt” と “meat” の [t] は歯茎音である。日本語の [t] も歯茎音とされているが、英語の [t] は日本語の [t] と比べて調音点がやや後ろである。さらに英語の [t] の場合、破裂を伴う場合も伴わない場合もあり、従って気音を伴う場合も伴わない場合もある。しかし、以上のように、英語と日本語の母音・子音を比較してみただけでは、[miqto] 中の促音が何に由来するのかということの説明がつかない。

そこでその母音と子音との接続法、つまり英語の [mit] の [it]、または一般的に /C₁VC₂/ の /VC₂/ にあたる部分の続き具合を調べてみよう。Ladefoged (1975, p. 78) は、英米両国では “rap, rat, rack” のような単語の場合には声門閉鎖が起こり、“rap [ræp’], rat [ræt’], rack [ræk’]”

と発音されることがあることを指摘している。小泉 (1978 p.297) によれば、Troubetzkoyも “mitt” と “meat” のような単語の違いは、母音と後続子音との間に声門閉鎖音が入るか入らないかの対立であるとしている。そうであれば、この両者の違いは、母音そのものの違いだけでなく、後続子音との接続の仕方にも違いがあることになる。上記のような英語の [i] と [i:] の相違についての見解をふまえた上で、日本語の促音とは何であるのかについて考えてみよう。

4. 2. 2. 日本語の促音

促音は、後続する子音が無声の場合は和語・漢語を含む日本語一般にも広く見られるが、その子音が [h, ç, ø] の場合と有声の場合は外来語、外国の地名・人名、擬声・擬態語や特殊な強調語に限ってのみ見られる。これを図表化したものが、下の表：16である。

(表：16) 促音がみられる語例

[日本語一般に見られる語例]

／V	Q	C	V／	(漢語)	(和語)	(外来語)
	p	p		一本	ほっぺた	ポップ
	t	t		一頭	みっともない	パット
	t	tʃ		一兆	とっちめる	マッチ
	t	t s		一通	とつつき	キャッツ
	k	k		一軒	からっかぜ	ブック
	s	s		一寸	はっさく	キッス
	ʃ	ʃ		一式	おっしやる	キャッシュ

[特殊な語例]

(擬声語・強調語) (外来語)(地名人名)

／V	Q	C	V／
	h	h	アッハッハ
	ç	ç	イッヒッヒ
	ϕ	ϕ	ウッフッフ
	b	b	すっばらしい!
	d	d	
	d	dʒ	
	d	d z	
	g	g	

英語の母音の性格について見解の違いがあるように、日本語の促音の性格についても諸説がある。服部 (1984, p.139) は日本語の「つまる音」は、概略的にいってその後続子音と共に重子音をなすと見ている。例えば [issuN] 「一寸」、[ippo:] 「一方」、[itto:] 「一等」、[ikko:] 「一行」などに見られる重子音の前半部においては、喉頭の緊張が共通して存在するから、これらは音韻論的には /iʔsun/ /iʔpoo/ /iʔtoo/ /iʔkoo/ と解釈すべきであるとしている。川上 (1985: p.86) は、促音は必ずしも重子音ではないとし、普通の促音はその直後の子音と同じ子音であるが、一定の条件にかなっていれば別の子音であってもよしとする。例えば、[itten] 「一点」の [t] の部分を [k] で代用しても破裂が聞こえなければ差し支えはない。さらにその [t] の部分を [p] で代用した場合、不自然ではあるが理解に支障はきたさない。ところがその部分を [s] で置き換えるとそれは [isten] になり、[itten] とは聞こえないとしている。

[itten] 「一点」: [ikten] ? [ipten] * [isten]

このように、服部は促音を喉頭の緊張を伴うものとして捉えているが、川

上はその説を必ずしも認めてはいない。しかしながら両者の見解を取り入れれば、促音というものが重子音またはそれに準ずるもので、一定の長さを持ち、その前部は先行の音節に、その後部は後続の音節に分属するものであるということになる。

以上のように、日英両語を比較対照した上で次のことが言えよう。日本語の促音は喉頭の緊張を伴う音であり他の拍と等時性を有するという見解に立てば、そして英語の“mitt”には喉頭の緊張音または声門閉鎖音があるならば、日本人が英語の“mitt”を促音が挿入された形として捉えることは納得がいくのではないだろうか。そして日本語に存在する、

1. CVCV /kite/ 来て
2. CVVCV /ki:te/ 聞いて
3. CV_QCV /kiqte/ 切って

の三つの対立を示すパターンのうち“mitt”は「切って」、 “meat”は「聞いて」と同じパターンとして捉えられるのであろう。

4. 3. /C₁V C₂/以外の音節の語における促音化

以上、促音挿入の現象について英語の/C₁V C₂/構造を持つ1音節の語に限って述べてきたが、上記の促音化のルールは語尾に下記の子音群を持つ語にも原則的に適用される。このうち[ks]で終わる語の例が最も多く見られる。

(表：17) 語尾に子音群を持つ語の促音挿入の例

[ks]

mix	box	x	sex	relax
[miks]	[bɒks]	[eks]	[seks]	[rilæks]
[miqks]	[boqks]	[eqks]	[seqks]	[riraqks]
ミックス	ボックス	エックス	セックス	リラックス

orthodox	climax	slacks	looks	wax
[ɔːθədɔːks]	[kláimæks]	[slæks]	[luks]	[wæks]
[o:sodoqks]	[kuraimaqs]	[suraqs]	[ruqs]	[waqs]
オーソドックス	クライマックス	スラックス	ルックス	ワックス

[p]

couple	nipple	apple	pineapple
[kʌpl]	[nɪpl]	[æpl]	[paɪnæpl]
[kaqpuru]	[niqpuru]	[aqpuru]	[painaqpuru]
カップル	ニップル	アップル	パイナップル

(例外) triple

[tripl]

[toripuru]

トリプル

[k]

tackle	buckle	knuckle
[tækɪ]	[bʌkɪ]	[nʌkɪ]
[taqkuru]	[baqkuru]	[naqkuru]
タックル	バックル	ナックル

(例外) pickles

[pɪklz]

[pikurusu]

ピクルス

[s]

hustle	whistle	castle
[hʌsl]	[hwɪsl]	[kæsl]
[haqsuru]	[hoiqsuru]	[kjaqsuru]
ハッスル	ホイッスル	キャッスル

2音節以上の語の場合には、促音化は、下の例でもわかるように、原則的に1語につき1回しか起こらない。

racket	pocket	picnic	topic
[rækit]	[pɔ́kit]	[píknik]	[tópik]
[rakeqto]	[pokeqto]	[pikuniqku]	[topiqku]
ラケット	ポケット	ピクニック	トピック
*ラケット	*ポケット	*ピクニック	*トピック

しかし、複合語または二つの形態素から構成された語の場合は促音化が起こる。

pick up	hot dog	hip pocket
[pikʌp]	[hɔtdɔg]	[hippɔkit]
[piqkuaqpu]	[hoqtodoqgu]	[hiqpupokeqto]
ピックアップ	ホットドッグ	ヒップポケット

5. 母音の日本語化

5. 1. 英語の母音

日本語は共通語の場合、母音、厳密には母音音素は[a, i, u, e, o]「アイウエオ」の五つである。英語も多くの方言があってそれら方言ごとに母音の数と質も少しずつ異なっており、また研究者の理論の枠組の相違により記述の方法も一致していない。しかし外来語の学習の効率を上げるという教育的立場から、次のように英語の母音を整理してみた。イギリスの標準英語（RP）とアメリカで一番広範囲にわたって使われている中西部を中心とした英語（General American）を基本とし、その両者の違いも考慮に入れ、さらに日本語に取り入れられて外来語化する際の対応関係も考慮して作成したのが、

表：18である。

(表：18) 英語の母音とその用例

	本書において認める 英語の母音音素	語 例		
1)	i :	<u>beat</u>	<u>meat</u>	<u>key</u>
2)	i	<u>pin</u>	<u>mitt</u>	<u>kit</u>
3)	e i	<u>base</u>	<u>mate</u>	<u>cake</u>
4)	e	<u>pet</u>	<u>metal</u>	<u>kettle drum</u>
5)	æ	<u>pad</u>	<u>mat</u>	<u>cat</u>
6)	ə:/ə: r	<u>bird</u>	<u>mermaid</u>	<u>curve</u>
7)	ʌ	<u>bus</u>	<u>mustard</u>	<u>cut</u>
8)	a :	<u>father</u>	<u>malm</u>	<u>calm</u>
9)	a :/ a : r	<u>part</u>	<u>mark</u>	<u>card</u>
10)	ɔ / a	<u>box</u>	<u>model</u>	<u>cot</u>
11)	ɔ :	<u>ball</u>	<u>mall</u>	<u>call</u>
12)	ɔ :/ ɔ : r	<u>pork</u>	<u>morning</u>	<u>course</u>
13)	o u	<u>boat</u>	<u>mode</u>	<u>coat</u>
14)	u	<u>book</u>	<u>mook</u>	<u>cook</u>
15)	u :	<u>boot</u>	<u>mood</u>	<u>scooter</u>
16)	a i	<u>pie</u>	<u>mile</u>	<u>sky</u>
17)	a u	<u>powder</u>	<u>mouse</u>	<u>counter</u>

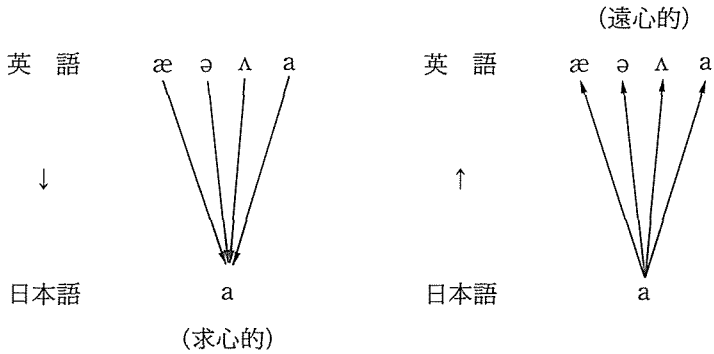
18)	ɔ i	<u>boil</u>	<u>moisture</u>	<u>coil</u>
19)	i ə / i ə r	<u>beer</u>	<u>cashmere</u>	<u>skier</u>
20)	e ə / e ə r	<u>pair</u>	<u>mare</u>	<u>careless</u>
21)	ɔ ə / ɔ ə r	<u>pour</u>	<u>more</u>	<u>core</u>
22)	u ə / u ə r	<u>poor</u>	<u>moor</u>	

イギリス英語とアメリカ英語の違いは例えば “box, model, cot” などに見られる [ɔ] と [a] に代表される。[ɔ] はイギリス式, [a] はアメリカ式の発音である。また, 母音の後の [r] は, イギリス英語では発音せず, アメリカ英語では発音する。ちなみにボストンなどアメリカ東部の地域ではこれを発音しない人も多い。これらの母音の発音を理解した上で, 母音の日本語化についての説明に移ろう。

5. 2. 英語の母音の日本語化

上の表: 18に見られるように, 10以上の純母音や二重母音を持つ英語を日本語の音韻体系で受け入れ, 処理するわけで, 大まかに言って, 英語では意味の弁別に使われるいくつかの母音音素が, 日本語では一つの母音音素に統合されてしまう。これが一番顕著なのは英語の [æ, ə, ʌ, a] がすべて日本語の [a] に統一されてしまうという実態である。このように英語が日本語化される場合は英語の母音と日本語の母音の関係は求心的であり, 逆に, 後述するように, 日本語から英語を見るとときその関係は遠心的である。したがって日本語化されたものから原語の形を知ることは困難である。

(表：19) 日本語と英語の母音の比較



ここで「表：18 英語の母音とその用例」に挙げられた例を基本としてその日本語化をみると表：20のようになる。以下、その項目順に 1) から 22) まで母音の日本語化の説明をし、用例を列挙する。

(表：20) 英語の母音の日本語化

	(英語)	→	(日本語)	(例外)
1)	i:	→	i:	i:→i i:→e
2)	i	→	i	i→i: i→e: i→e
3)	e i	→	e i / e:	e i→e
4)	e	→	e	
5)	æ	→	a	æ→j a
6)	ə:/ə:r	→	a:	

- 7) Λ → a
- 8) a: → a:
- 9) a:/a:r → a:
- 10) ɔ/a → o ɔ/a → a
- 11) ɔ: → o:
- 12) ɔ:/ɔ:r → o: ɔ:/ɔ:r → o
- 13) o u → o: o u → o
- 14) u → u
- 15) u: → u:
- 16) a i → a i
- 17) a u → a u
- 18) ɔ i → o i
- 19) i ə / i ə r → i (j) a
- 20) e ə / e ə r → e (j) a
- 21) ɔ ə / ɔ ə r → o a
- 22) u ə / u ə r → u a

5. 3. 英語の母音の日本語化の例

以下は英語の母音の日本語化の例である。番号は、表：18, 20に準ずる。

1) i: → i:

beat [bi:t] → ビート cheese [tʃi:z] → チーズ
cream [kri:m] → クリーム free [fri:] → フリー
jeep [dʒi:p] → ジープ key [ki:] → キー
meat [mi:t] → ミート meeting [mi:tiŋ] → ミーティング

needs [ni:dz] → ニーズ peak [pi:k] → ピーク
sheet [ʃi:t] → シート sneaker [sni:kə] → スニーカー
speed [spi:d] → スピード steel [sti:l] → スチール
team [ti:m] → チーム

例外

i : → i beef steak [bi:fsteik] ビフテキ
 equal [i:kwəl] → イコール
 evening [i:vniŋ] → イブニング
 green peas [gri:npi:z] → グリンピース
 squeeze [skwi:z] → スクイズ

i : → e media [mi:diə] → メディア

2) i → i

hint [hint] → ヒント
instant [ɪnstənt] → インスタント
kiss [kis] → キス
kit [kit] → キット
list [list] → リスト
milk [milk] → ミルク
mitt [mit] → ミット
mystery [mɪstəri] → ミステリー
picnic [pɪknɪk] → ピクニック
pin [pin] → ピン
pink [pɪŋk] → ピンク
rinse [rɪns] → リンス
simple [sɪmpl] → シンプル
strip [stri:p] → ストリップ
tip [tip] → チップ

例外

- i → i : cookie [kúki] → クッキー
copy [kópi] → コピー
melody [mélədi] → メロディー
rugby [rʌgbi] → ラグビー
still [stil] → スチール
- i → e : candy [kændi] → キャンデー
hockey [hóki] → ホッケー
money [máni] → マネー
sundae [sʌndi] → サンデー
- i → e digital [dídzítəl] → デジタル
liver [lívər] → レバー
mince [mins] → メンチ
stick [stik] → ステッキ
sticker [stikər] → ステッカー

3) ei→e : / (ei)

- base [beis] → ベース brake [breik] → ブレーキ
cake [keik] → ケーキ chain [tʃein] → チェーン
claim [kleim] → クレーム date [deit] → デート
game [geim] → ゲーム gray [grei] → グレー
maker [méikər] → メーカー radar [rēidar] → レーダー
roommmate [rú:mməit] → ルームメイト sale [seil] → セール
skate [skeit] → スケート table [teibl] → テーブル
tape [teip] → テープ

例外

- ei→e arrange [əréindʒ] → アレンジ
 baby [béibi] → ベビー
 crayon [kréiən] → クレヨン

lady [lɛɪdi] → レディー

stainless [stɛɪnlɪs] → ステンレス

4) e → e

center [sɛntər] → センター denim [dɛnɪm] → デニム

desk [desk] → デスク elegant [ɛlɪgənt] → エレガント

guest [gest] → ゲスト lemon [lɛmən] → レモン

net [net] → ネット pedal [pedəl] → ペダル

pen [pen] → ペン regular [regjulər] → レギュラー

section [sɛkʃən] → セクション sense [sens] → センス

tent [tent] → テント test [test] → テスト

trend [trend] → トレンド

5) æ → a

band [bænd] → バンド bath [bæθ] → バス

camera [kæməɾə] → カメラ catalog [kætəlɔg] → カタログ

chance [tʃæns] → チャンス dance [dæns] → ダンス

frank [fræŋk] → フランク ham [hæm] → ハム

handsome [hænsəm] → ハンサム master [mæstər] → マスター

mat [mæt] → マット pad [pæd] → パッド

racket [rækit] → ラケット rally [ræli] → ラリー

snack [snæk] → スナック

æ → ja

camp [kæmp] → キャンプ cancel [kænsəl] → キャンセル

caramel [kæɾəməl] → キャラメル cash [kæʃ] → キャッシュ

cat [kæt] → キャット gag [gæg] → ギャグ

gallery [gæləri] → ギャラリー gamble [gæmbəl] → ギャンブル

gang [gæŋ] → ギャング gap [gæp] → ギャップ

6) ə : / ɜ : r → a :

bird [bɜ:rd] → バード circus [sɜ:rkəs] → サーカス

curve [kə:rv] → カーブ dessert [dizə:rt] → デザート
earth [ə:rθ] → アース first [fə:rst] → ファースト
herb [hə:rb] → ハーブ pearl [pə:rl] → パール
permanent [pə:rmənənt] → パーマネント
serve [sə:rv] → サーブ
skirt [skə:rt] → スカート
terminal [tə:rmənəl] → ターミナル
third [θə:rd] → サード turn [tə:rn] → ターン
word [wə:rd] → ワード

7) Δ → a

bucket [bʌkit] → バケツ bus [bʌs] → バス
couple [kʌpl] → カップル cup [kʌp] → カップ
double [dʌbl] → ダブル hustle [hʌsl] → ハッスル
muffler [mʌflər] → マフラー mustard [mʌstərd] → マスタード
nuts [nʌts] → ナッツ plus [plʌs] → プラス
pub [pʌb] → パブ puzzle [pʌzl] → パズル
rough [rʌf] → ラフ slum [slʌm] → スラム
slump [slʌmp] → スランプ

8) a: 9) a: / a:r → a:

almond [ɑ:mənd] → アーモンド bar [ba:r] → バー
calf skin [ka:fskin] → カーフスキン car [ka:r] → カー
card [ka:rd] → カード charming [tʃɑ:rmɪŋ] → チャーミング
father [fɑ:ðər] → ファザー half [ha:f] → ハーフ
harp [ha:rp] → ハープ margin [mɑ:rdʒɪn] → マージン
mark [ma:rk] → マーク palm ball [pɑ:mbo:l] → パームボール
party [pa:rti] → パーティー smart [sma:rt] → スマート
star [sta:r] → スター

10) ɔ / a → o

bond [bɒnd] → ボンド constant [kɒnstənt] → コンスタント

hot [hɒt] → ホット knob [nɒb] → ノブ

knock out [nɒkaʊt] → ノックアウト locker [lɒkər] → ロッカー

model [mɒdəl] → モデル monitor [mɒnətər] → モニター

motto [mɒtəʊ] → モットー popular [pɒpjulər] → ポピュラー

pot [pɒt] → ポット socks [sɒks] → ソックス

sponsor [spɒnsər] → スポンサー stop [stɒp] → ストップ

top [tɒp] → トップ

ɔ / a → a

cocktail [kɒkteɪl] → カクテル collar [kɒlə] → カラー

college [kɒlɪdʒ] → カレッジ soccer [sɒkər] → サッカー

11) ɔ : ɪ) ɔ : / ɔ : r → o :

ball [bɔ:l] → ボール border [bɔ:rdər] → ボーダー

call [kɔ:l] → コール cord [kɔ:rd] → コード

corner [kɔ:rnər] → コーナー course [kɔ:rs] → コース

fork [fɔ:rk] → フォーク form [fɔ:rm] → フォーム

gorgeous [gɔ:rdʒəs] → ゴージャス

morning [mɔ:rnɪŋ] → モーニング normal [nɔ:rməl] → ノーマル

report [rɪpɔ:rt] → レポート sort [sɔ:rt] → ソート

sports [spɔ:rts] → スポーツ story [stɔ:ri] → ストーリー

support [sʌpɔ:rt] → サポート torch [tɔ:rtʃ] → トーチ

例外

ɔ : / ɔ : r → o forward [fɔ:rwərd] → フォワード

13) ou → o:

boat [bəʊt] → ボート bonus [bəʊnəs] → ボーナス

brooch [brəʊtʃ] → ブローチ coach [kəʊtʃ] → コーチ

code [kəʊd] → コード dome [dəʊm] → ドーム

folk song [fouksɔŋ] → フォークソング goal [gou] → ゴール
gold [gould] → ゴールド joke [dʒouk] → ジョーク
mode [moud] → モード note [nout] → ノート
rope [roup] → ロープ toast [toust] → トースト
zone [zoun] → ゾーン

例外

ou→o hostess [hóustis] → ホステス
host [houst] → ホスト
opal [óupəl] → オパール
photocopy [fóutəkòpi] → フォトコピー
poster [póustər] → ポスター

14) u → u

book [buk] → ブック bulldog [búldɔg] → ブルドッグ
bulldozer [búldðuzər] → ブルドーザー cookie [kúki] → クッキー
cushion [kúʃən] → クッション football [futbɔ:l] → フットボール
full course [fulkɔərs] → フルコース (和製英語)
good idea [gudaidiə] → グッドアイデア hook [huk] → フック
pudding [púdiŋ] → プディング
pullover [púlðuvər] → プルオーバー sugar [ʃugər] → シュガー
wood [wud] → ウッド

15) u:→u:

boots [burts] → ブーツ canoe [kənú:] → カヌー
cool [ku:l] → クール cue [kju:] → キュー
food [fu:d] → フード human [hjú:mən] → ヒューマン
juice [dʒu:s] → ジュース news [nju:z] → ニュース
pool [pu:l] → プール rule [ru:l] → ルール
shampoo [ʃæmpú:] → シャンプー soup [su:p] → スープ
spoon [spu:n] → スプーン super [sú:pər] → スーパー

taboo [təbú:] → タブー

16) ai→ai

cider [sáidər] → サイダー diet [dáiet] → ダイエット

dry [drai] → ドライ guide [gaid] → ガイド

ice [ais] → アイス idol [áidl] → アイドル

knife [naif] → ナイフ line [lain] → ライン

pie [pai] → パイ rice [rais] → ライス

siphon [sáifən] → サイフォン spy [spai] → スパイ

style [stail] → スタイル timing [táimij] → タイミング

typist [táipist] → タイピスト

17) au→au

blouse [blaus] → ブラウス bound [baund] → バウンド

counter [káuntər] → カウンター down [daun] → ダウン

gown [gaun] → ガウン house [haus] → ハウス

lounge [laundʒ] → ラウンジ mound [maund] → マウンド

out [aut] → アウト pound cake [paundkeik] → パウンドケーキ

powder [páudər] → パウダー round [raund] → ラウンド

scout [skaut] → スカウト sound [saund] → サウンド

townwear [táunwèər] → タウンウェア

18) oi→oi

boiler [bóilər] → ボイラー boycott [bóikot] → ボイコット

broiler [bróilər] → ブロイラー coil [kóil] → コイル

coin [kóin] → コイン foil [fóil] → ホイル

noise [nóiz] → ノイズ oil [óil] → オイル

point [póint] → ポイント

royal box [róiəlbòks] → ロイヤルボックス

toilet [tóilit] → トイレ

voice recorder [vóisrikò:rdər] → ボイスレコーダー

19) iə/iər → i (j) a

career [kə'riə] → キャリア clear [kliə] → クリアー
earring ['iəriŋ] → イヤリング gear [giə] → ギアー
hearing [hiəriŋ] → ヒアリング near miss [niərmis] → ニアミス
pierce [piəs] → ピアス real [riəl] → リアル
severe [siviə] → シビア year [jiə] → イヤー

20) eə/eər → e(j)a

air conditioner [ə'rkəndiʃənə] → エアコン
bearing [beəriŋ] → ベアリング care [keə] → ケア
chair [tʃeə] → チェア fair play [feəplei] → フェアプレー
flared skirt [fleə'dskə:rt] → フレアースカート
hair [heə] → ヘア pair [peə] → ペア
rare [reə] → レア spare [speə] → スペア
wear [weə] → ウェア

21) ɔə/ɔər → oa

core [kɔə] → コア door [dɔə] → ドア
floor [flɔə] → フロア forehand [fɔə'hænd] → フォアハンド
four [fɔə] → フォア score [skɔə] → スコア
store [stɔə] → ストア

22) uə/uər → ua

pure [pjue] → ピュア sure [ʃue] → シュア
tour [tuə] → ツアー

6 子音および半母音の日本語化

6. 1. 概観

母音の日本語化と同じように、子音、半母音も日本語の音韻体系によって受け入れられ、処理される。[p] [b] [k] [g] などのように、日本語に対応

する子音の存在する時には、その子音によって置き換えられるが、英語は子音音素も日本語より多く、日本語化される時には、母音の場合と同じように異なる音素が一つになってしまうこともある。また、外国語の影響により、従来の日本語には見られなかった新しい拍が成立することもある。例えば [ti] [tu] [ɸa] など、外来語にしか現れない拍である。

6. 2. 新しい拍の成立

日本語の音節構造の項目 (III. 2) で説明したように、日本語では拍が最小単位として機能するから、英語の音節も基本的には子音と母音との組み合わせによる開音節を単位として受け入れられ処理される。従来の和語と漢語に見られる拍の種類が五十音図に含まれているとすれば、日本語化の際にはまず五十音図の拍の発音で置き換えられ、表記されると考えてよい。しかしまた外国語をより原語に近い形で受け入れようとする姿勢から、従来の五十音図になかった新しい拍が成立し、それによって入ってきた外国語を処理することもある。

五十音図の拍がどんな発音で使われるのかを示したのが表:21であり、外国語音や外来語に見られる拍の種類と、その発音を表記したのが、表:22である。この二つを比べることによって、外国語の影響を受けた新しい音韻体系ができあがりつつあることがわかる。たとえば [tʃ] [dʃ] は五つの母音 [a, i, u, e, o] との結合が可能になっている。

新:	ta	ti	tu	te	to	tʃa	tʃi	tʃu	tʃe	tʃo
旧:	ta	tʃi	tsu	te	to	tʃa		tʃu		tʃo

(表：21) 和語・漢語（従来の拍）の音声表記

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
a	ka	sa		ta			na	ha		ma	ja	ra		wa	N	Q	:
i	ki	ʃi		tʃi			ni	çi		mi		ri					
u	ku	su		tsu			nu	φu		mu	ju	ru					
e	ke	se		te			ne	he		me		re					
o	ko	so		to			no	ho		mo	jo	ro					
	ga	za	dza	da				ba									
	gi	ʒi		dʒi				bi									
	gu	zu		dzu				bu									
	ge	ze	dze	de				be									
	go	zo	dzo	do				bo									
								pa									
								pi									
								pu									
								pe									
								po									
	kja	ʃa		tʃa			nja	hja		mja		rja					
	kju	ʃu		tʃu			nju	hju		mju		rju					
	kjo	ʃo		tʃo			njo	hjo		mjo		rjo					
	gja	ʒa		dʒa				bja									
	gju	ʒu		dʒu				bju									
	gjo	ʒo		dʒo				bjo									
								pja									
								pju									
								pjo									

(表：22) 外国語・外来語に見られる拍の音声表記

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
a	ka	sa		ta		t	na	ha	ɸa	ma	ja	ra	kwa	wa	N	Q	:
i	ki	si		ti		t	ni	çi	ɸi	mi		ri	kwi	wi			
u	ku	su		tu		t	nu	ɸu		mu	ju	ru					
e	ke	se		te		t	ne	he	ɸe	me	je	re	kwe	we			
o	ko	so		to		t	no	ho	ɸo	mo	jo	ro	kwo	wo			
	ga	za	dza	da				ba	va				gwa				
	gi	zi	dzi	di				bi	vi								
	gu	zu	dzu	du				bu	vu								
	ge	ze	dze	de				be	ve				gwe				
	go	zo	dzo	do				bo	vo								
								pa									
								pi									
								pu									
								pe									
								po									
	kja	ʃa		tʃa			nja	hja		mja		rja					
	kju	ʃu		tʃu	tju		nju	hju	ɸju	mju		rju					
	kje	ʃe		tʃe			nje										
	kjo	ʃo		tʃo			njo	hjo		mjo		rjo					
	gja	ʒa		dʒa				bja									
	gju	ʒu		dʒu	dju			bju	vju								
	gje	ʒe		dʒe													
	gjo	ʒo		dʒo				bjo									
								pja									
								pju									
								pjo									

6. 2. 1. [ti] [tu] [di] [du]

一般的に言って、年代的に早く入ってきた外来語は五十音図表の拍で受け止められ、表記されたと考えていいだろう。つまり下記の例に見られるように、原音が [ti] [tu] [ti:] [tu:] の外来語もタ行の「チ」 [tʃi], 「ツ」 [tsu] を使った語形となっている。

[ti] → [tʃi], [ti:] → [tʃi:]

casting vote [kæstɪŋvɔt] → [kʃasutʃɪŋɡubooto] キャスティングボート

petticoat [pɛtɪkəʊt] → [petʃikoto] ペチコート

romantic [rɒmæntɪk] → [romantʃiɔku] ロマンチック

steal/steel [sti:l] → [sutʃi:ru] スチール

steam [sti:m] → [sutʃi:mu] スチーム

team [ti:m] → [tʃi:mu] チーム

tip [tɪp] → [tʃiɔpu] チップ

[tu:] → [tsu:]

man-to-man [mæntu:mæn] → [mantʃu:man] マンツーマン

stool [stu:l] → [sutʃu:ru] スツール

tool [tu:l] → [tsu:ru] ツール

tour [tuə] → [tsua:] ツアー

two [tu:] → [tsu:] ツー

「パーティー」なども古くは「パーティ」と表記されたこともあったようである（あらかわそおべ『角川外来語辞典』第二版）。しかし年代的に新しいものには次のように五十音図にない拍、「ティ」 [ti] が使われるのが普通である。

almighty [ɔ:lmáiti] → [o:rumaiti:] オールマイティー（トランプ）

batting [bætiŋ] → [baŋtiŋgu] バッティング
party [pɑ:rti] → [pa:ti:] パーティー
personality [pərsənæləti] → [pa:sonariti:] パーソナリティー
teaching [ti:tʃiŋ] → [ti:tʃiŋgu] ティーチング
tea party [ti:pa:rti] → [ti:pa:ti:] ティーパーティー
tee [ti:] → [ti:] ティー
teen [ti:n] → [ti:N] ティーン
tissue [tiʃu:] → [tiʃu] ティッシュ
variety [vəriəti] → [baraeti:] バラエティー

「トゥ」に関しては「ティ」と違って、この音の入った単語そのものが少ないため、例が見つからないが、「ティ」と同じく、年代的に新しいものには「ツ」より「トゥ」が多く現れると考えて良いだろう。

野球放送などで「ツーストライク “two strikes”」を「トゥーストライク」と発音するアナウンサーも結構多い。プロ野球の実況中継で [tu:] が使われているのか [tsu:] が使われているのか、1988年度、大阪ABC朝日放送のプロ野球実況中継で調べてみた。3人のアナウンサーについて調べたところ、各自15回 “two” という語を言うチャンスがあったうち、1人はすべて [tu:], 2人目は10回が [tu:] で5回が [tsu:], 3人目は4回が [tu:] で11回が [tsu:] であった。この3人のうち、[tsu:] の目立った最後の一人はスポーツ専門のアナウンサーではなく、野球中継に関してはいわば素人である。最近ではテレビ・ラジオとも [tu:] の方が圧倒的に [tsu:] より多いようである。

この他に “up to date” “stool” など、表記ではまだ「アップトゥデート」「スツール」が普通だが、「アップトゥーデート」「ストウール」と言う発音もよく聞かれるようになった。

アメリカの言語学者Bloch (1950) は日本語を「保守的日本語 “conservative Japanese”」と「進歩的日本語 “innovating Japanese”」に分け、前者を外国

語の影響がないもの、後者を影響を受けたものとしている。この分類によれば、「チーム」[tʃi:mu]、「ツー」[tsu:]は保守的日本語の枠組みで受け入れられて定着した発音であり、「ティーム」[ti:mu]、「トゥー」[tu:]は進歩的日本語の普及を示す発音である。

ここで一つ問題なのは外来語の入ってきた年代を特定することが非常に難しいということである。早く入ってきたものでもあまり一般的に使われず、英語の分かる専門家によってのみ使われたものにはいわゆる「進歩的日本語」の枠組みで処理された場合があると思われる。「パーティー」のように新しく入った「ティ」の方が定着したものもあるが、「アスレチック、エロチック、オートマチック、ドラマチック」の「-チック」「-tic」のように比較的新しく借用されたと思われる単語においても五十音図の「チ」が見られるものもある。それでは「-tic」はすべて「-チック」となるかというところでもなく、「ジャーナリスティック、ヒューマニスティック、リアリスティック」のように「-ティック」を持つ単語も多い。従って、年代的に早く入ってきたものは従来の音韻体系で、比較的最近入ってきたものは新しい音韻体系で処理されるというのは絶対的な規則ではない。しかし日本語教育においてはかなり応用範囲の広い、役に立つ規則であると考えて良いと思う。

[di] [di:] についても [ti] [ti:] と同じようなことが言えると見て良いだろう。つまり比較的早い時期に入ったものは [dʒi] [dʒi:] (以上、語頭), [ʒi] [ʒi:] (以上、語中) と従来の拍で置き換えられるものと思われる。例は多くはないが「スタジオ、ジレンマ、クレジット」などがある。その他はほとんど新しい枠組みの [di] [di:] で借り入れられている。

[di] → [dʒi] / [ʒi]

credit [krédit] → [kureʒiqto] クレジット

dilemma [dilémə] → [dʒirenma] ジレンマ

Edison [édisən] → [eʒison] エジソン

gladiolus [glædiɔuləs] → [guraʒiorasu] グラジオラス
 studio [stjʊ:diou] → [sutaʒio] スタジオ
 [di] → [di]
 radish [rædiʃ] → [radiɔʃu] ラディッシュ
 pedicure [pédækjʊər] → [pedikjua] ペディキュア
 melody [mélodi] → [merodi:] メロディー
 handicap [hændikæp] → [handikjaɔpu] ハンディキャップ
 disco [dískou] → [disuko] ディスコ
 discount [dískaunt] → [disukaunto] ディスカウント
 director [diréktər] → [direkuta:] ディレクター
 dinner [dínər] → [dina:] ディナー
 defence [diféns] → [diɔənsu] ディフェンス (スポーツ)
 dealer [dí:lər] → [di:ra:] ディーラー
 caddie [kædi] → [kjadi:] キャディー (ゴルフ)
 wedding dress [wedɪŋdres] → [uedingudoresu] ウエディングドレス

[di]の場合、もう一つ面白い現象は、この音節が従来の五十音図の拍を使って日本語化された場合、「ジ」[dʒi] (語頭) / [ʒi] (語中) とならず、「デ」[de] になる場合があることである。例えば、「digital」[didʒitəl] は「デジタル」であり、「ハンディキャップ」の省略語「ハンディ」は往々にして「ハンデ」となる。アルファベットの「D」を「デー」と発音する人も結構多いようである。

[du] [du:] に関しては例が少なく、従来の枠組みで処理されて、[du] が「ズ」、[du:] が「ズー」になった例は見つからない。わずかに「do-it-yourself」など新しい外来語 (外来語として定着したとは言えないかもしれないが) が「ドゥイットユアセルフ」のように新しい拍「ドゥ」を使って処理されている例が見られるぐらいである。

「タ」行の新しい拍「チェ」[tʃe] を含む語には次のようなものがある。

cello [tʃélou] → [tʃero] チェロ
chain [tʃein] → [tʃe:N] チェーン
change [tʃeindʒ] → [tʃeŋʒi] チェンジ
check in [tʃek in] → [tʃeQkuɪN] チェックイン
cherry [tʃéri] → [tʃeri:] チェリー
chess [tʃes] → [tʃesu] チェス

6. 2. 2. [tju] [dju]

「チュ」[tju]「デュ」[dju]も外国語の影響で生まれた拍である。[tju] [dju]が従来の拍で処理されると、「チュ」[tʃu]「ジュ」[dʒu] (語頭) / [ʒu] (語中) となる。

[tju] → [tʃu]

costume [kɔ́stju:m] → [kosutʃu:mu] コスチューム
tube [tju:b] → [tʃu:bu] チューブ
tunic [tjú:nik] → [tʃuniQku] チュニック
tulip [tju:lip] → [tʃu:riQpu] チューリップ

[tju] → [tju]

tuba [tjú:bə] → [tju:ba] テューバ (チューバ)

[dju] → [dʒu/ʒu]

duece [dju:s] → [dʒu:su] ジュース
modular [módjulər] → [moʒura:] モジュール

[dju] → [dju]

dual system [dju:əlsistəm]

→ [djuaruʃisutemu] デュアルシステム (コンピューター)

duet [dju:et] → [djuetQto] デュエット

educate [édjukèit] → [edjuke:to] エデュケート

fondue [fóndju:] → [fóndju:] フォンデュール

graduate [grædjuèit] → [guradjue:to] グラデュエート

6. 2. 3. [f̥a] [f̥i] [f̥e] [f̥o]

日本語にない英語の子音の一つに [f̥] がある。日本語の子音で一番 [f̥] に近いのはハ行「フ」の子音 [f̥] である。[f̥] [f̥] 共に無声の摩擦音であり、違いは前者が唇歯音であるのに対し、後者が両唇音であるという点のみである。[f̥] は従来の音節構造では母音 [u] の前にしか現れないのだが、[f̥] を処理するために、[a] [i] [e] [o] [ju] とも結合するようになった。つまり新しい拍 [f̥a] [f̥i] [f̥e] [f̥o] [f̥ju] が出現し、[f̥] 音を含む外来語はこれらによって取り入れられるのが普通である。

[f̥a]

fashion [fæʃən] → [f̥aʃon] ファッション

file [fail] → [f̥airu] ファイル

first [fɜ:rst] → [f̥a:suto] ファースト

[f̥i]

field [fi:ld] → [f̥i:rudo] フィールド

filter [fíltər] → [f̥iruta:] フィルター

muffin [mʌfin] → [m̥afin] マフィン

[f̥u]

fast food [fæstfu:d] → [f̥a:sutof̥u:do] ファーストフード

football [fútból] → [f̥uqtoboru] フットボール

full [ful] → [f̥uru] フル

[f̥e]

fencing [fénsiŋ] → [f̥eŋsiŋgu] フェンシング

new face [nju:feis] → [nju:φe:su] ニューフェース

perfect [pɔ:rfikt] → [pa:φekuto] パーフェクト

[φo]

formal [fɔ:məl] → [φo:maru] フォーマル

symphony [sɪmfəni] → [jɪNφoni:] シンフォニー

uniform [jū:nəfɔ:m] → [juniφo:mu] ユニフォーム

しかし、従来の五十音図の拍を使って日本語化された例ももちろん存在する。[fa] が [ha] 「ハ」、[fi] が [çi] 「ヒ」、[fo] が [ho] 「ホ」、[fju] が [çju] 「ヒュ」になったものに、次のような例がある。

prefab [pri:fæb]

プレハブ

coffee [kɔ:fi]

コーヒー

aluminium foil [əlu:mənəmfoil]

アルミホイル

telephone card [teləfounka:rd]

テレフォンカード

fuze [fju:z]

ヒューズ

「ホーク」`fork` も国語辞典には載っているが、最近は「フォーク」の方が多く使われるのではないかと思う。

この他、[fi] の場合は「フィ」[φi] と1拍にならず、[φui] と2拍になる場合がある。「フィルム、オフィス」がその例である。この二つの単語は「フィ」と表記されていても、「フイ」と2拍に発音する人が結構多い。同じような現象は「ファン」`fan` にも見られる。「ファン」が「フアン」または「ファン」と3拍に発音されるのをしばしば耳にする。しかしこの現象は「ファ、フィ」を含むすべての語に見られるわけではなく、筆者の気が付いたのは前記の3語のみである。

[fa] → [ha], [fo] → [ho] もごく限られているし、`prefab, foil, tele-

phone”とも「プレファブ、フォイル、テレフォン」が「ホイル、テレホン、プレハブ」と平行して存在するので、日本語教育においてはいずれも例外扱いが可能であり、妥当であるように思う。

6. 2. 4. [ʃe] [ʒe] [dʒe]

「シェ」[ʃe], 「ジェ」[dʒe] (語頭), [ʒe] (語中) は方言には存在するが、いわゆる共通語にはない拍で、共通語においては、これらの拍は外国語を取り入れるに際してできたものである。原語の[ʃe]が従来の枠組みの「セ」[se]で、[ʒe]が「ゼ」[dze] (語頭), [ze] (語中) で処理されたものもある。前者は少ないが、後者の例は多い。二つの処理法の間でゆれの見られる語もある。

[ʃe] → [se]

milk shake [milkʃeɪk] → [mirukuse:ki] ミルクセーキ

[ʃe] → [se] / [ʃe]

shepherd [ʃepərd] → [ʃepa:do] シェパード / [sepa:do] セパード

[ʃe] → [ʃe]

shaker [ʃeɪkər] → [ʃe:ka:] シェーカー

Shakespeare [ʃeɪkspiər] → [ʃe:kusupia] シェークスピア

shape up [ʃeɪpʌp] → [ʃe:puaɔpu] シェープアップ

share [ʃeər] → [ʃea] シェア

shaving cream [ʃeɪvɪŋkri:m]

→ [ʃe:biŋgukuri:mu] シェービングクリーム

sherry [ʃeri] → [ʃeri:] シェリー

[ʒe] → [dze]

gelatin [dʒélətin] → [dzeratʃin] ゼラチン

general strike [dʒenərəlstraɪk] → [dzenesuto] ゼネスト

[dʒe] → [dze] / [dʒe]

jelly [dʒɛli] → [dzeri:] ゼリー / [dʒeri:] ジェリー

generation [dʒɛnərɛiʃən] → [dzenere:ʃON] ゼネレーション /
[dʒenere:ʃON] ジェネレーション

gentleman [dʒɛntlmən] → [dzentoruman] ゼントルマン /
[dʒentoruman] ジェントルマン

gesture [dʒɛstʃər] → [dzesutʃa:] ゼスチャー /
[dʒesutʃa:] ジェスチャー

[dʒe] → [dʒe] [ʒe]

digest [daɪdʒest] → [daiʒesuto] ダイジェスト

jealousy [dʒɛləsi] → [dʒeraʃi:] ジェラシー

jet [dʒet] → [dʒeɔto] ジェット

6. 2. 5. [tʃa] [tʃi] [tʃe] [tʃo]

「ツァ」 [tʃa], 「ツィ」 [tʃi], 「ツェ」 [tʃe], 「ツォ」 [tʃo] は主にイタリア語, ドイツ語などから入ってくる語の処理のためにできた拍である。

[tʃa]

pizza [pitsa] → [piɔtsa] ピッツァ (「ピザ」 [piza] もある)

sforzando [sfortʃa:ndo] (伊)
→ [suɸorutsando] スフォルツァンド (音楽)

[tʃi]

Betsy [betsi] → [beɔtsi:] ベッツィー

[tʃe]

Zeppelin (独) → [tʃeɔperin] ツェッペリン

[tʃo]

scherzoso [skertʃo:zo] (伊)

→ [sukerutso:so] スケルツォーソ (音楽)

canzone [kantso:ne] (伊) → [kantso:ne] カンツォーネ (音楽)

6. 3. 子音の統合

英語の子音には表：23のような種類があり、これを日本語の子音体系と比較すると表：24のようになる。

(表：23) 英語の子音

調音点 place of articulation	調音法 manner of articulation	両唇 Bilabial	唇歯 Labio-dental	歯 Dental	歯茎 Alveolar	歯茎・硬口蓋 Alveolar-palatal	硬口蓋 Palatal	軟口蓋 Velar	声門 Glottal
破裂音 Stop	無声 voiceless 有声 voiced	p b			t d			k g	
破擦音 Affricate	無声 voiceless 有声 voiced				t s d z	tʃ dʒ			
摩擦音 Fricative	無声 voiceless 有声 voiced		f v	θ ð	s z	ʃ ʒ			h
鼻音 Nasal		m			n			ŋ	
側音 Lateral					l				
半母音または接近音 Semi-vowel or Approximant		w			r		j		

(表：24) 日本語と英語の子音の比較

		無 声			有 声						
Stop 破裂音	E	p	t	k	b	d	g				
	J	p	t	k	b	d	g				
Affricate 破擦音	E	(ts) tʃ			dz dʒ						
	J	ts tʃ			dz dʒ						
Fricative 摩擦音	E	f	θ	s	ʃ	h	v	ð	z	ʒ	
	J	ɸ	s	ʃ	ç	h			z	ʒ	
Nasal 鼻音	E						m	n	ŋ		
	J						m	n		N	
Lateral 側音	E						l				
Flap 弾き音	J						r				
Semi-vowel or Approximant 半母音	E				w	r	j				
	J				w						

6. 3. 1. [l] [r]

日本語にない音が入ってくる場合、似ている音に統合されて、原語に見られる音韻がなくなってしまうことがある。ヨーロッパ諸言語に存在する [l] が日本語では [r] になってしまうのはその一例である。この [l] と [r] の統合によって次のような同音異義語が生まれることになる。

fly [flai] (野球), fry [frai] (料理) → [ɸurai] フライ

light [lait], right [rait] → [raitō] ライト

lock [lɔk], rock [rɔk] → [rooku] ロック

lamb [læm], ram [ræm] → [ramu] ラム

leader [lí:dər], reader [rí:dər] → [ri:da:] リーダー

しかし英語から入ってくる語の場合、母音に続く [r] は消去されてしまうため、この位置では [l] と [r] の統合は起きない。

core [kɔər]	→ [koa]	コア
call [kɔ:l]	→ [ko:ru]	コール
pier [piər]	→ [pia]	ピア
pill [pil]	→ [piru]	ピル
score [skɔər]	→ [sukoa]	スコア
squall [skwɔ:l]	→ [suko:ru]	スコール
spare [speər]	→ [supea]	スペア
spell [spel]	→ [superu]	スペル

その外の [l] を含む語に次のようなものがある。

class [klæs]	→ [kurasu]	クラス
flower [flauər]	→ [ɸurawa:]	フラワー
frill [fril]	→ [ɸuriru]	フリル
glass [glæs]	→ [gurasu]	グラス
label [leibəl]	→ [raberu]	ラベル
lace [leis]	→ [re:su]	レース
last [læst]	→ [rasuto]	ラスト
left [left]	→ [reɸuto]	レフト
light [lait]	→ [raito]	ライト
slow [slou]	→ [suro:]	スロー

6. 3. 2. [s] [θ] / [z] [ð]

いわゆる “th” の音、歯間摩擦音 (interdental fricatives) も日本語には存在しない。そして英語の [θ] [ð] の音は歯茎摩擦音 [s] [z] と統合されて

しまう。つまり “bath, bus, bass” は日本語ではすべて「バス」になる。

[θ]

bath [bæθ] → [basu] バス

table cloth [teɪbl̩kloth] → [te:burukurosu] テーブルクロス

marathon [mæɾəθɔ̃n] → [marason] マラソン

theory [θi:əri] → [seori:] セオリー

thermostat [θə:rməstæt̩] → [sa:mosutaqto] サーモスタット

think tank [θɪŋktæŋk] → [ɪŋkutanku] シンクタンク

third [θə:rd] → [sa:do] サード

three [θri:] → [suri:] スリー

thrill [θril] → [suriru] スリル

underhand throw [ʌndərhændθrou]

→ [anda:suro:] アンダースロー (野球)

[ð]

feather [féðər] → [føeza:] フェザー (ボクシング)

mother [mʌðər] → [maza:] マザー

rhythm [ríðəm] → [rizumu] リズム

smooth [smu:ð] → [sumu:zu] スムーズ

6. 3. 3. [b] [v]

有声の唇歯摩擦音 (labiodental fricative) [v] も日本語には存在しない。そして [v] は両唇破裂音 (bilabial stop) の [b] に吸収統合される。しかし表記には「ヴ」を使うこともある。この点については「IV. 2. 1.」を参照されたい。

cover [kʌvər] → [kaba:] カバー

drive [draiv] → [doraibu] ドライブ

naive [na:í:v] → [nai:bu] ナイーブ
 olive [óliv] → [ori:bu] オリーブ
 rival [ráivəl] → [raibar] ライバル
 service [sə:rvis] → [sa:bisu] サービス
 severe [sivíər] → [ʃibia] シビア
 vest [vest] → [besuto] ベスト
 veil [veil] → [be:ru] ベール
 veteran [vétərən] → [beteran] ベテラン
 video [vídiðu] → [bideo] ビデオ
 violin [vàiəlín] → [baiorin] バイオリン
 vocal [vókəl] → [bo:karu] ボーカル
 voice recorder [voisrikɔ:rdər] → [boisureko:da:] ボイスレコーダー
 volunteer [vðləntíər] → [borantia] ボランティア

“best, vest” は「ベスト」に，“boil, voile” は「ボイル」になり，同音異義語を形成する。

6. 4. 鼻音

英語の鼻音 [n, m, ŋ] のうち，[ŋ] には音節の初めには来ないという分布に関する制限がある．[n, m] が次に母音を伴って音節を構成している時は次のように日本語のナ行，マ行の拍で処理される．

mask [mæsk] → [masuku] マスク
 medal [medl] → [medaru] メダル
 milk [milk] → [miruku] ミルク
 mode [moud] → [mo:do] モード
 mood [mu:d] → [mu:do] ムード

net [net] → [neqto] ネット
nice [nais] → [naisu] ナイス
nickname [níknèim] → [niqkune:mu] ニックネーム
note [nout] → [no:to] ノート
nude [nu:d] → [nu:do] ヌード

撥音 /N/ は、日本語ではめずらしく音節末に起こる子音である。そして、後続する音の影響を受け、[m] [n] [ŋ]などいくつかの異音を持つ。英語の音節末及び音節末の子音群の中の鼻音は、撥音 /N/ によって処理されることが多い。

音節末に起こる [n, m, ŋ] はそれぞれ少しずつ違った日本語化の様相を見せるので、次に別々に扱うことにする。

6. 4. 1. [n]

母音に後続する [n] は撥音になる。日本語の語末に来る撥音の異音は [n] ではなく [ŋ] に近い音であるが、なぜか英語の [ŋ] でなく [n] の方が撥音になる。

anchor [æŋkər] → [anka:] アンカー
band [bænd] → [bando] バンド
bench [bentʃ] → [bentʃi] ベンチ
corn [kɔ:rn] → [ko:N] コーン
count [kaunt] → [kaunto] カウント
hint [hint] → [hinto] ヒント
mansion [mæŋʃən] → [manʃon] マンション
pants [pænts] → [pantsu] パンツ
pen [pen] → [pen] ペン
ribbon [rɪbən] → [ribon] リボン

round [raund] → [raundo] ラウンド
tent [tent] → [tento] テント
tone [toun] → [to:N] トーン
trendy [tréndi] → [torendi:] トレンディー
zone [zoun] → [zo:N] ゾーン

6. 4. 2. [m]

音節末、及び子音の前の[m]は通常、開音節化して[mu]になるが、[mu]の次に起こる子音が唇音[p, b, f, v]の時には撥音[N]の異音[m]になる。

[m#] → [mu]

chime [tʃaim] → [tʃaimu] チャイム
cream [kri:m] → [kuri:mu] クリーム
dome [doum] → [do:mu] ドーム
drum [drʌm] → [doramu] ドラム
game [geim] → [ge:mu] ゲーム
ham [hæm] → [hamu] ハム
jam [dʒæm] → [dʒamu] ジャム
lamb [læm] → [ramu] ラム
room [ru:m] → [ru:mu] ルーム
slim [slim] → [surimu] スリム

[mp] → [Np]

amplifier [æmpləfaiə] → [anpu] アンプ
camp [kæmp] → [kjanpu] キャンプ
champion [tʃæmpiən] → [tʃanpiən] チャンピオン
jump [dʒʌmp] → [dʒanpu] ジャンプ

lamp [læmp] → [raŋpu] ランプ
slump [slʌmp] → [suranpu] スランプ
trump [trʌmp] → [toranpu] トランプ
trumpet [trʌmpit] → [toranpeqto] トランペット
umpire [ʌmpaɪər] → [anpaia] アンパイア

[mb] → [Nb]

ambitious [æmbiʃəs] → [anbiʃasu] アンビシャス
combination [kəmbəneɪʃən] → [kɔnbine:ʃɔn] コンビネーション
fumble [fʌmbəl] → [ʔanburu] ファンブル
hamburger [hæmbə:rgər] → [hanba:ga:] ハンバーガー
jumbo [dʒʌmbou] → [dʒanbo] ジャンボ
mambo [má:mbou] → [manbo] マンボ (スペイン語)
number [nʌmbər] → [nanba:] ナンバー
rumba [rʌmbə] → [runba] ルンバ (スペイン語)
scramble [skrʌmbəl] → [sukuranburu] スクランブル
symbol [símbəl] → [ʃinboru] シンボル
tumbler [tʌmblər] → [tanbura:] タンブラー

[mf/mv] → [Nb]

pamphlet [pæmfli:t] → [panʔureqto] パンフレット
symphony [símfəni] → [ʃinʔoni:] シンフォニー

6. 4. 3. [ŋ]

音節末の [ŋ] は通常, [ŋgu] となるが, [ŋ] の次の子音が軟口蓋音 [k, g] である時には単なる撥音 [N] の異音 [ŋ] になる。

[ŋ#] → [ŋgu]

aqualung [ækwəlɒŋ] → [akuaranɡu] アクアラング
folk song [fouksɔŋ] → [fo:kusɔŋɡu] フォークソング

gang [gæŋ] → [gʲaŋgu] ギャング
hanger [hæŋgər] → [hanga:] ハンガー
long [lɔ:ŋ] → [ɾoŋgu] ロング
ring [riŋ] → [riŋgu] リング
singer [sɪŋər] → [ʃiŋga:] シンガー
slang [slæŋ] → [suranɡu] スラング
thrilling [θrɪliŋ] → [suririŋgu] スリリング
young [jʌŋ] → [jaŋgu] ヤング

[ŋk] → [ŋku]

data bank [deɪtəbæŋk] → [de:tabaŋku] データバンク
jinx [dʒiŋks] → [dʒiŋkusu] ジンクス
pink [piŋk] → [piŋku] ピンク
puncture [pʌŋktʃər] → [paŋku] パンク
rank [ræŋk] → [raŋku] ランク
rink [riŋk] → [riŋku] リンク
sink [siŋk] → [ʃiŋku] シンク
skunk [skʌŋk] → [sukaŋku] スカンク
tank [tæŋk] → [taŋku] タンク
trunk [trʌŋk] → [toɾaŋku] トランク

[ŋɡ] → [ŋɡ]

angle [æŋɡl] → [aŋɡuru] アングル

Anglo-Saxon [æŋɡlɔ:sæksn]

→ [aŋɡurosakuson] アングロサクソン

bungalow [bʌŋɡəldu] → [baŋɡaɾo:] バンガロー

hunger strike [hʌŋgərstraɪk]

→ [hanga:sutoɾaiki] ハンガーストライキ

single [siŋɡl] → [ʃiŋɡuru] シングル

例外的に音節末の [ŋ] が [ŋu] とならず, [N] となるものに次のような語がある.

ping-pong [píŋpɔŋ] → [pɪŋpɒŋ] ピンポン

Hong Kong [hɔŋkɔŋ] → [hɒŋkɒŋ] ホンコン

6. 5. 半母音

6. 5. 1. [w]

日本語においては [w] は母音 [a] の前にしか起こらない. 英語の [w] にはこのような制限がない. 母音[a]が後続する以外のコンテキストでは[w]は日本語の母音 [u] になってしまう. 母音 [u] の前では [w] は落ちてしまうこともある.

[wa, wæ] etc. → [wa]

swallows [swɔlɒuz]

→ [suwɔ:ɹu] スワローズ (プロ野球チーム名)

waffle [wafɪ] → [wɑɔ̯ɸuru] ワッフル

wife [waɪf] → [waɪɸu] ワイフ

windup [wáɪndʌp] → [waɪndɔ̯ɸu] ワインドアップ (野球)

[wi] → [ui]

queen [kwɪ:n] → [kui:N] クイーン

quiz [kwɪz] → [kui:zɹu] クイズ

sweet [swi:t] → [sui:to] スイート

suite [swi:t] → [sui:to] スイート

swing [swɪŋ] → [suɪŋgu] スイング

switch [swɪtʃ] → [suiqtʃi] スイッチ

twin [twin] → [tsuin] ツイン
twist [twist] → [tsuisuto] ツイスト (ダンス)
wink [wɪŋk] → [uɪŋku] ウィンク
winter (sports) [wɪntər(spɔːrts)]
→ [uinta:supo:tsu] ウィンタースポーツ
whiskey [hwɪski] → [uisuki:] ウィスキー
[wu, wu:] → [u, u:]
wood [wud] → [uɔdo] ウッド (ゴルフ用語)
wool [wul] → [u:ru] ウール
[we, wei] → [ue]
Quaker [kwɛikər] → [kue:ka:] クエーカー
question mark [kwɛstʃənma:rk]
→ [kuesutʃənma:ku] クエスチョンマーク
wafers [wɛifərz] → [ueɸa:su] ウエファース
([ueha:su] ウエハース)
wet [wet] → [ueqto] ウエット
waist [weist] → [uesuto] ウエスト
waste [weist] → [uesuto] ウエスト (野球)
[wou, wo:] → [uo, uo:]
quarter [kwɔːrtər] → [kuo:ta:] クォーター (スポーツ)
water [wɔ:tər] → [uo:ta:] ウォーター
warm-up [wɔːrmʌp] → [uo:mɪŋuɑpu] ウォーミングアップ
Wall Street [wɔ:lstri:t] → [uo:rusutori:to] ウォールストリート

例外的なものに “quilt” → 「キルト」(「クイルト」ではない)、“sweater”
[swɛtər] → 「セーター」(「スエター」ではない)がある。

[w] が [u] になった後の「イ, エ, オ」は小さく表記されていることも多い(「ウィスキー, ウェディング, ウォームアップ」など)。しかし発音は

大きく表記された時とかわりない。また、いつ小さく書き、いつ大きく書くか、同一辞書の中でもまちまちで、はっきりしていない。

“white, whales” など、“wh” というスペルで書き表される [hw] という音は、後に来る母音が [a] の時は「ホワ [howa]」となるが、[i] 及び [e] の場合は「ホ [ho]」となる。

white [hwait] → [howaito] ホワイト

whip [hwip] → [hoiɸu] ホイップ

whistle [hwisl] → [hoiɸuru] ホイッスル

Whales [hweilz] → [hoe:ruzu] ホエールズ (プロ野球チーム名)

6. 5. 2. [j]

日本語では [j] は [a] [u] [o] の前にしか起こらない。従って、これらの母音の前に来る [j] は日本語従来の拍で処理されるが、[i] の前の [j] は削除され、[e] の前では母音 [i] になる。

従来の拍「ヤ、ユ、ヨ」で処理されたもの

yard [ja:rd] → [ja:do] ヤード

Yankee [jæŋki] → [janki:] ヤンキー

yeast [ji:st] → [i:suto] イースト

young [jʌŋ] → [jangu] ヤング

youth hostel [ju:θhɔstəl] → [ju:suhosuteru] ユースホステル

yodel [joudəl] → [jo:deru] ヨーデル

yoke [jouk] → [jo:ku] ヨーク

[j] が削除されたもの / [j] が [i] になったもの

yes [jes] → [iesu] イエス

yellow [jélou] → [iero:] イエロー

Yemen [jémən] → [iemən] イエメン

アメリカの “Yale University” は少し例外的で, [e] の前で [j] が落ち
て, 「エール大学」と呼ばれることが多いが, 「イエール大学」と言う人もい
る。

7. スペルに基づいた日本語化

外国語の日本語化はこれまでに見てきたように, 原則として原語の発音に
よる。しかし, 明らかに発音ではなく, 表記に基づいていると思われる場合
がある。この章では, スペルに基づく日本語化を見ていくことにする。

7. 1. 母音

英語においてはアクセントのない音節の中の母音は多くの場合, 曖昧母音,
つまり発音記号 [ə] で表記される音である。この曖昧母音は日本語には存在
せず, 日本人には聞き取りにくい音の一つである。そのためか, 曖昧母音は
次に示すようにスペルに従って日本語化される。つまり, アクセントのない
音節の母音はスペルによって決まるということになる。

7. 1. 1. “i” → [i], “ui” → [i]

英語のスペルが “i” で, 発音が [ə] の場合, 日本語の音は [i] になる。
英語のアクセントのない音節の “i” は, 曖昧母音ではなく [i] と発音される
場合もある。その時も日本語では [i] になる。つまり英語のアクセントのない
音節のスペル “i” は日本語ではすべて [i] になる。

英語の発音が [ə] の場合

animal [æ̃nəməl] → [animaru] アニマル

cardigan [kɑ̃:rdəgən] → [ka:digan] カーディガン

stamina [stæ̃mənə] → [sutamina] スタミナ

denim [dénim] → [denimu] デニム

delicate [délikit] → [derike:to] デリケート

personality [pè:rsənæləti] → [pa:sonariti:] パーソナリティ

manicure [mæ̀nəkjùər] → [manikjua] マニキュア

英語の発音が [i] の場合

cartridge [ká:rtridʒ] → [ka:toriqdʒi] カートリッジ

service [sə:rvis] → [sa:bisu] サービス

technical [téknikəl] → [tekunikaru] テクニカル

terrorist [térərist] → [terorisuto] テロリスト

picnic [píknik] → [pikuniqku] ピクニック

margin [má:rdʒin] → [ma:dʒin] マージン

mini [míni] → [mini] ミニ

英語のスペルが `ui`, 発音が [i] の場合, 日本語では [i] になる。

guitar [gitá:r] → [gita:] ギター

circuit [sə:rkit] → [sa:kiqto] サーキット

7. 1. 2. `e" → [e]

英語のスペルが `e" で発音が [ə] の場合, 日本語の発音は [e] になる。ただし, 英語の語尾の発音されない `e" は日本語でも発音されない。

英語のアクセントのない音節の `re" は主として「リ」になるが, 「レ」になるものもあるし, 「リ, レ」の間でゆれのある場合もある。予測はできないので, 個々の語を覚えるよりほか, しかたがない。英語を母語とする人が書く場合には, 自分の発音をもとにして「リ」なり「レ」なりを選べばいいように思われる。

accent [æksent] → [akusento] アクセント

elegant [éləgənt] → [eregənto] エレガント
 garden [gá:rdən] → [ga:den] ガーデン
 camera [kæməərə] → [kamera] カメラ
 cancel [kænsəl] → [kjanseru] キャンセル
 system [sístim] → [ʃisutemu] システム
 nickel [níkəl] → [niŋkeru] ニッケル
 mystery [místəri] → [misuteri:] ミステリー
 model [módəl] → [moderu] モデル
 lavender [lævəndər] → [rabenda:] ラベンダー

発音されない語尾の “e”

single [siŋgl] → [ʃiŋguru] シングル
 zone [zoun] → [zo:n] ゾーン
 date [deit] → [de:to] デート
 pause [pɔ:z] → [pɔ:zu] ポーズ
 rice [rais] → [raisu] ライス

“re” を含む単語の例 (あらかわ (第二版, 1977) の見出し語による)

「リ」「レ」両方が見出し語になっているもの

recreation [rèkriéiʃən] → リクリエーション/レクリエーション
 reserve [rizə:v] → リザーブ/レザーブ
 reception [risépjən] → リセプション/レセプション
 repeat [ripí:t] → リピート/レピート
 report [ripó:rt] → リポート/レポート

「リ」だけが記載されているもの

recession [riséʃən] → リセクション return [ritə:rn] → リターン
 rehearsal [rihə:rsəl] → リハーサル
 reversible [rivə:səbəl] → リバーシブル
 revival [riváivəl] → リバイバル

remote control [rɪməʊt kəntroʊl] → リモートコントロール
「レ」だけが記載されているもの
resistance [rɪzɪstəns] → レジスタンス
receipt [rɪsɪ:t] → レシート

7. 1. 3. "a" → [a]

英語のスペルが "a" で発音が [ə] の場合、日本語の発音は [a] になる。

instant [ɪnstənt] → [ɪnsutanto] インスタント
opera [ɔpərə] → [opera] オペラ
catalog [kætəlɔg] → [katarogu] カタログ
canoe [kənú:] → [kanu:] カヌー
gorilla [gərílə] → [gorira] ゴリラ
soda [sóudə] → [so:da] ソーダ
banana [bənæənə] → [banana] バナナ
parade [pərəíd] → [pare:do] パレード
pedal [pédəl] → [pedaru] ペダル

7. 1. 4. "o" → [o]

英語のスペルが "o" で発音が [ə] の場合、日本語の発音は [o] になる。

ebonite [ébənàit] → [ebonaito] エボナイト
carton [ká:rtən] → [ka:ton] カートン
calory [kæləri] → [karori:] カロリー
gorilla [gərílə] → [gorira] ゴリラ
pistol [pístəl] → [pisutoru] ピストル
fashion [fæʃən] → [ɸaʃon] ファッション
propeller [prəpélər] → [puopera] プロペラ

melody [mélədi] → [merodi:] メロディー

ribbon [rībən] → [ribon] リボン

lemon [lémən] → [remon] レモン

語尾の “o” は英語の発音は [ou] だが、日本語では長音 [o:] と短音 [o] になる場合があり、どちらになるかに関して規則性が見られない。

“o” → [o]

bingo [bínɡou] → [bingo] ビンゴ

dingo [dínɡou] → [dingo] ディンゴ

jumbo [dʒʌmbou] → [dʒanbo] ジャンボ

piano [piænou] → [piano] ピアノ

soprano [səprænou] → [sopurano] ソプラノ

studio [stjú:diou] → [sutazio] スタジオ

tempo [tém pou] → [tenpo] テンポ

“o” → [o:]

banjo [bændʒou] → [bandʒo:] バンジョー

buffalo [bʌfəlou] → [baʒʒaro:] バッファロー

echo [ékou] → [eko:] エコー

motto [mótou] → [moqto:] モットー

7. 1. 5. “u” → [a]

英語のスペルが “u” で発音が [ə] の場合、日本語の発音は [a] になる。

asparagus [əspærəgəs] → [asuparagasu] アスパラガス

campus [kæmpəs] → [kjanpasu] キャンパス

circus [sɜ:rkəs] → [sa:kasu] サーカス

curriculum [kərɪkjuləm] → [karikjuruamu] カリキュラム

focus [fóukəs] → [fɔ:kasɯ] フォーカス
minus [máinəs] → [mainasɯ] マイナス
omnibus [ómni**u**bs] → [omunibasɯ] オムニバス
suspense [səspéns] → [sasupensɯ] サスペンス

7. 1. 6. “u” → [ju]

英語のスペルが “u” で、日本語において [u] になる場合がある。それは母音とその前の子音の間に半母音がある場合で、次のような例がある。

bureaucracy [bju:rókrəsi] → [bju:rokuraʃi:] ビューロクラシー
casual [kæʒuəl] → [kaʒuaru] カジュアル
communism [kómjunizm] → [komjunizumu] コミュニズム
curriculum [kəríkjuləm] → [karikjuramu] カリキュラム
documentary [dòkjuméntəri] → [dokjumentari:] ドキュメンタリー
formula [fó:rmjulə] → [fɔ:mjura] フォーミュラ
humanity [hju:mænəti] → [çju:maniti:] ヒューマニティー
insulin [ínsjulin] → [inʃurin] インシュリン
natural [nætʃərəl] → [natʃuraru] ナチュラル
popular [pópjulər] → [popjura:] ポピュラー
regular [régjulər] → [regjura:] レギュラー
speculation [spèkjuléiʃən] → [suekjure:ʃon] スペキュレーション
visual [víʒuəl] → [biʒuaru] ビジュアル

“-um” で終わる “planetarium” 「プラネタリウム」、 “symposium” 「シンポジウム」 などについては、6. 4. 2. を参照されたい。

7. 1. 7. “y”, “ie”, “ee”, “ey” → [i:]

英語の語尾に来る “-y, -ie, -ee, -ey” は、それが子音に後続するとき、

日本語では長母音の [i:] になる。英語の発音はこれらすべて [i] であるから、語尾の [i] は [i:] になると考えてもよい。

“-ey” は「マネー」 “money” [mʌni], 「ホッケー」 “hockey” [hɔki] のように [e:] になることもあるが、例は多くはない。

“-y”

elegy [élidzi] → [erezɪ:] エレジー
candy [kændi] → [kjændi:] キャンディー
salary [sæləri] → [sarari:] サラリー
speedy [spí:di] → [spi:di:] スピーディー
sexy [séksi] → [sekuʃi:] セクシー
party [pá:rti] → [pa:ti:] パーティー
rugby [rʌgbi] → [ragubi:] ラグビー
lucky [lʌki] → [raqki:] ラッキー
rally [ræli] → [rari:] ラリー

“ie”

caddie [kædi] → [kjadi:] キャディー
cookie [kúki] → [kuqki:] クッキー
talkie [tɔ:ki] → [to:ki:] トーカー
birdie [bɔ:rdi] → [ba:di:] バーディー

“ee”

committee [kɔmíti] → [komiqtɪ:] コミッティー

“ey”

Disney [dízni] → [dizuni:] ディズニー
honey [hʌni] → [hani:] ハニー
jersey [dʒɔ:rzi] → [dʒa:zi:] ジャージー
jockey [dʒɔki] → [dʒoqki:] ジョッキー

7. 1. 8. "er", "or", "ar", "re", "our" → [a:]

英語のアクセントがない音節の "er, or, ar, re, our" は日本語では [a:] になる。このうち "-our" は "colour, glamour" など、イギリス英語のスペルで、アメリカ英語では普通 "-or" が使われる。

一つ注意しなければならないのは、上記のようなスペルが母音に続き、二重母音を形成している場合で、この時には母音+「ア」で表記される。「ジュニア」「junior」「カリカチュア」「caricature」などがこれに当たる。しかし表記では短母音の [a] になっていても、発音すると長母音を使う人も多く、発音のゆれの見られるところである。

"er"

cider [sáidər] → [saida:] サイダー

counter [káuntər] → [kaunta:] カウンター

cover [kávər] → [kaba:] カバー

international [ɪntərnæʃənəl] → [inta:naʃonarɯ] インターナショナル

leather [léðər] → [reza:] レザー

paper [péipər] → [pe:pa:] ペーパー

partner [pá:rtnər] → [pa:tona:] パートナー

percent [pərsént] → [pa:sento] パーセント

pitcher [pítʃər] → [piqtʃa:] ピッチャー

tanker [tæŋkər] → [tanka:] タンカー

"or"

error [érər] → [era:] エラー

Oxford [ɔksfərd] → [oqkusufo:do] オックスフォード

horror [hórər] → [hora:] ホラー

minor [máinər] → [maina:] マイナー

mirror [mírər] → [mira:] ミラー

“ar”

arcade [a:rkéid] → [a:ke:do] アーケード

calendar [kæ̀lindər] → [karenda:] カレンダー

radar [réida:r] → [re:da:] レーダー

lavendar [læ̀vəndər] → [rabenda:] ラベンダー

“re”

gesture [dʒéstʃər] → [dʒesutʃa:] ジェスチャー

measure [méʒər] → [meʒa:] メジャー

leisure [lí:zər] → [reʒa:] レジャー

adventure [ədventʃər] → [adobentʃa:] アドベンチャー

culture [kʌltʃər] → [karutʃa:] カルチャー

“our”

colour [kʌlər] → [kara:] カラー

fruit parlour [fru:tpa:rɪlər] → [ʔuru:tsupa:ra:] フルーツパーラー

glamour [glæmə̀r] → [gurama:] グラマー

例外

spanner [spæ̀nər] → [supana] スパナ

slipper [slípər] → [suriqpa] スリッパ

poplar [pópłər] → [popura] ポプラ

propeller [prəpélər] → [puropera] プロペラ

二重母音の例

amateur [æ̀mətʃuər] → [amatʃua] アマチュア

caricature [kæ̀rɪkətʃuər] → [karikatʃua] カリカチュア

umpire [ʌ̀mpaɪər] → [anpaia] アンパイア

interior [ɪ̀ntɪəriər] → [interia] インテリア

senior [sí:njər] → [ʃinia] シニア

junior [dʒú:njər] → [dʒunia] ジュニア

terrier [tériər] → [teria] テリア

flared skirt [fleərdskə:rt] → [φurea:suka:to] フレアースカート

floor [flɔər] → [φuroa] フロア

manicure [mænikjûər] → [manikjua] マニキュア

7. 1. 9. その他

上記以外に数は多くはないが、次のようなものがある。

“ous” → [asu]

body-conscious [bɒdikɔnʃəs] → [bodi:kɔnʃasu] ボディコンシャス

delicious [dɪlɪʃəs] → [deriʃasu] デリシャス

humorous [hju:mərəs] → [ju:orasu] ユーモラス

gorgeous [gɔ:rdʒəs] → [gɔ:ʒasu] ゴージャス

jealousy [dʒeləsi] → [dʒeraʃi:] ジェラシー

“au” → [o:]

audition [ɔ:diʃən] → [o:diʃɔn] オーディション

aurora [ɔ:rɔ:rə] → [o:rora] オーロラ

Australia [ɔ:streɪljə] → [o:sutoraria] オーストラリア

authority [ɔ:θɔ:rəti] → [o:soriti] オーソリティ

automation [ɔ:təmeiʃən] → [o:tomeiʃɔn] オートメーション

7. 2. 子音

7. 2. 1. “ng” → 「ング」

“ng” というスペルは英語では “single [sɪŋɡl]” のように、[ŋɡ] と発音される場合と、 “singer [sɪŋər], hanger [hæŋər]” のように、[ŋ] と発音される場合があるが、日本語ではどちらも「ン」+ガ行音という形になる。これは “ng” というスペルによるものと考えられる。

aqualung [ækwəlŋ] → [akuarangu] アクアラング

cleaning [klí:nɪŋ] → [kuri:nɪngu] クリーニング

singer [síŋər] → [ʃɪŋa:] シンガー

training [tréɪnɪŋ] → [tore:nɪngu] トレーニング

hanger [hæŋər] → [hanga:] ハンガー

hunger strike [hʌŋgərstraɪk]

→ [hanga:sutoraiki] ハンガーストライキ

folk song [fouksɔŋ] → [fø:kusɔngu] フォークソング

long [lɔŋ] → [rongu] ロング

7. 2. 2. “-mm-”, “-nn-” → 「-ン-」

“-mm-”, “-nn-”のように鼻音を表すアルファベットが続いても、英語では鼻音が一つしかない。たとえば “runner” の発音は [rʌnər], “dilemma” の発音は [dɪlémə] である。しかし日本語では、これらの初めの “n, m” が「ン」となり、「ランナー、ジレンマ」のようになることがある。ただし、“-nn-”, “-mm-”を有する語がすべてこのような日本語化をされるわけではない。「ディナー」 “dinner”, 「スイミングスクール」 “swimming school”のように「ン」の入らない場合も多い。いつ「ン」が入るかは一定していないので、覚えるよりほか、手がない。次に「ン」の入る例、入らない例をあげておく。

「ン」の入るもの

“mm”

ammonia [əməʊnjə] → [anmonia] アンモニア

dilemma [dɪlémə] → [dʒɪrenma] ジレンマ

hammer [hæmər] → [hanma:] ハンマー

mammoth [mæməθ] → [manmosu] マンモス

“nn”

canna [kæ̃nə] → [kanna] カンナ
cunning [kʌ̃niŋ] → [kanningu] カンニング
planner [plæ̃nər] → [puranna:] プランナー
Madonna [mæ̃dɔ̃nə] → [madonna] マドンナ
runner [rʌ̃nər] → [ranna:] ランナー
running [rʌ̃niŋ] → [ranningu] ランニング
thinner [θĩnər] → [ʃinna:] シンナー

「ン」の入らないもの

“mm”

commercial [kə̃mɔ̃:rʃəl] → [koma:ʃaru] コマーシャル
commissioner [kə̃mi:ʃənər] → [komiʃona:] コミッショナー
communication [kə̃mjū:nəkeiʃən]
→ [komjunike:ʃon] コミュニケーション
summer [sʌ̃mər] → [sama:] サマー
swimming school [swimiŋsku:l]
→ [suimingu:ʃu:ru] スイミングスクール
programming [prə̃u:græmiŋ] → [puroguramingu] プログラミング

“nn”

spanner [spæ̃nər] → [supana] スパナ
dinner [dĩnər] → [dina:] デイナー
inning [ĩniŋ] → [iningu] イニング
tennis [tē̃nis] → [tenisu] テニス
Tennessee [tē̃nəs:i:] → [teneʃi:] テネシー
manner [mæ̃nər] → [mana:] マナー

7. 3. 繰り返し現れる連鎖

英語には “-tion, -ate, -age” など、繰り返し現れる連鎖がある。これら

は日本語化される形も決まっている。次にその中の主なものとその例をあげておく。

7. 3. 1. "tion" "sion" "shion" → 「ション (チョン, ジョン)」

上記連鎖の "i" はその前のアルファベットと共に "ti" が [tʃ] または [ʃ], "si" が [ʃ] または [ʒ], "shi" が [ʃ] と軟口蓋音を示し、次の "on" が [ən] と発音される。日本語では "on" がすべて [ON] となるため、前の子音により「ション」「チョン」「ジョン」となる。

"tion"

attraction [ətrækʃən] → [atorakuON] アトラクション

inflation [ɪnfləɪʃən] → [ɪnɸure:ʃON] インフレーション

auction [ɔ:kʃən] → [o:kuʃON] オークション

communication [kəmju:nəkeɪʃən]

→ [komjunike:ʃON] コミュニケーション

collection [kələkʃən] → [korekuʃON] コレクション

question [kwɛstʃən] → [kuesutʃON] クエスチョン

section [sɛkʃən] → [sekuʃON] セクション

suggestion [sədʒɛstʃən] → [sazesutʃON] サジェスチョン

"sion"

transmission [trænsmɪʃən] → [toransumiQʃON] トランスミッション

discussion [dɪskʌʃən] → [disukaQʃON] ディスカッション

fusion [fju:ʒən] → [ɸju:ʒON] フュージョン

illusion [ɪljúʒən] → [ɪrju:ʒON] イリュージョン

passion [pæʃən] → [paQʃON] パッション

mansion [mæʃən] → [manʃON] マンション

mission [mɪʃən] → [miQʃON] ミッション

vision [vɪʒən] → [biʒON] ビジョン

“shion”

cushion [kʊʃən] → [kuʃON] クッション

fashion [fæʃən] → [ʃaʃON] ファッション

7. 3. 2. “age” → 「エージ」

advantage [ədʒvæntɪdʒ] → [adobante:ʒi] アドバンテージ

average [ævərɪdʒ] → [abere:ʒi] アベレージ

image [ɪmɪdʒ] → [ime:ʒi] イメージ

sausage [sɔ:sɪdʒ] → [so:se:ʒi] ソーセージ

percentage [pɜ:sɛntɪdʒ] → [pa:sente:ʒi] パーセンテージ

manager [mænidʒər] → [mane:ʒa:] マネージャー

message [mɛsɪdʒ] → [meʒse:ʒi] メッセージ

「マネージャー “manager”」は7. 1. 8. で述べた “er” の日本語化と “age” の日本語化がいっしょになった例である。

7. 3. 3. “ate” → 「エート」

escalate [ɛskəlɛɪt] → [esukare:to] エスカレート

classmate [klæsmeɪt] → [kurasume:to] クラスメート

syndicate [sɪndɪkət] → [ʃɪnʒɪke:to] シンジケート

chocolate [tʃɔkələt] → [tʃokore:to] チョコレート

delicate [dɛlɪkət] → [derike:to] デリケート

private [praɪvət] → [praɪbe:to] プライベート

“escalator, elevator” の “at” の部分が「エスカレーター, エレベーター」と長くなることもこの延長で理解できそうである。

7. 3. 4. “cial” “tial” → 「シャル」

initial [inɪʃəl] → [iniʃaru] イニシャル
official [əfɪʃəl] → [oʃiʃaru] オフィシャル
commercial [kəməˈɜːrʃəl] → [koma:ʃaru] コマーシャル
social [səʊʃəl] → [so:ʃaru] ソーシャル
potential [pəˈtɛnʃəl] → [potenʃaru] ポテンシャル

7. 3. 5. “ing” → 「イング」

“ng” の日本語化はすでに 6. 4. 1. で触れ, “-ing” もその一例に過ぎないが, 例が多いため, もう一度まとめておく。

cleaning [klɪːniŋ] → [kuri:ningu] クリーニング
cycling [sáikliŋ] → [saikuringu] サイクリング
shocking [ʃɔkiŋ] → [ʃoqkingu] ショッキング
dining [dáiniŋ] → [dainingu] ダイニング
diving [dáiviŋ] → [daibingu] ダイビング
timing [táimiŋ] → [taimingu] タイミング
charming [tʃá:rmɪŋ] → [tʃa:mingu] チャーミング
hiking [háikiŋ] → [haikingu] ハイキング
parking [pá:rkɪŋ] → [pa:kingu] パーキング
fencing [fénsɪŋ] → [ʃɛnʃingu] フェンシング
pudding [púdiŋ] → [pudingu] プディング
bowling [bóuliŋ] → [bo:ringu] ボーリング

boxing [bɔ́ksɪŋ] → [bokuʃɪngu] ボクシング
morning [mɔ́:rniŋ] → [mo:niŋgu] モーニング

7. 3. 6. “wer” → 「ワー」

“flower, power” など英語では [flauər] [pauər] と母音が続くが、日本語ではこれらの最後の部分が [wa:] となる。これはスペルの “w” によるものと考えられる。

flower [flauər] → [ɸurawa:] フラワー
power [pauər] → [pawa:] パワー
shower [ʃauər] → [ʃawa:] シャワー
tower [tauər] → [tawa:] タワー

7. 4. 人名, 地名

人名, 地名など固有名詞は聞いたことがないままに片仮名で書く必要が生じることも多く、いきおいスペルに頼ることが多いようである。従ってアクセントがある, なしに関わらず, 母音はスペルのままに “a” なら「ア」, “o” なら「オ」となったようなものが数多く見られる。

Asia [éiʒə, éiʃə] → [aʒia] アジア
Australia [ɔ:stɹéiljə] → [o:sutoraria] オーストラリア
Coca Cola [koukəkoulə] → [kokako:ra] コカコーラ
Guam [gwa:m] → [guamu] グアム
Hobart [hɔ́bərt] → [hoba:to] ホバート (タスマニア州の州都)
Kodak [kɔ́udæk] → [kodaɔku] コダック
Oklahoma [ɔ́ukləhóumə] → [okurahoma] オクラホマ
Orient [ɔ́:riənt] → [oriento] オリエン特
Pennsylvania [pənsilvේinjə] → [penʃirubania] ペンシルバニア

Sarah [sɛəɾə] → [sara] サラ

Tasmania [tæzméiniə] → [tasumania] タスマニア

(オーストラリアの州名)

8. アクセントの日本語化

日本語のアクセントは英語などの強弱アクセントと違い、高低アクセントである。高低アクセントと言っても、中国語のように一つの音節の中に上がり下がりがあるというような複雑なものではなく、各拍は高いか低いかのいずれかである。また、いわゆる共通語アクセントには次のようなきまりもある。まず、一つの単語の中で高い拍が分散して存在することはない。つまり4拍の語を例に採ると、「低高低高」というようなものは存在しない。次に、第1拍目と第2拍目は必ず高低が違う。三つ目に、最後の拍が「高」のとき、次に付く助詞が高く発音されるか低く発音されるかによって、「低高高・・・」型の単語が二つに分かれる。これらを総合すると、共通語には各単語の拍数+1のアクセントの型が存在することになる。つまり、2拍の語には三つ、3拍の語には四つの型がある。次に3拍、4拍の語で例を示すことにする。↑は、その前の拍が高くその後低いことを示す。↓はその後に続く拍が高くつくことを示す。

3拍の語

低高高 (高)	レモン [↓] 、バケツ [↓] 、りんご [↓]	(平板型)
高低低	ア [↑] ウト、コ [↑] ピー、み [↑] かん	(頭高型)
低高低	スロ [↑] ー、グレ [↑] ー、たま [↑] ご	(中高型)
低高高 (低)	(外来語にない)	あわせ [↑] (尾高型)

4拍の語

低高高高 (高)	テーブル [↓] 、ガソリン [↓] 、がくせい [↓]	(平板型)
高低低低	ラ [↑] グビー、メ [↑] ーカー、た [↑] んぼ	(頭高型)

低高低低	スピ [↑] ーチ, ソケ [↑] ット, ねま [↑] わし (中高型)
低高高低	アイデ [↑] ア, コンベ [↑] ア, ねと [↑] り (中高型)
低高高高 (低)	(外来語にない) おとうと [↑] (尾高型)

共通語のアクセントでポイントになるのは、いつ「高」から「低」に変わるかという点である。この位置が分かれば、初めに挙げた共通語アクセントに関するいくつかの制限から、その単語のアクセントの型が分かる。この「低」に変わる前の「高」のある拍はアクセント核と呼ばれる。外来語のアクセントを見ていくにあたって、この核という呼び名を使うことにする。

外来語のアクセントはその原語のアクセントを残しているもの、平板型になるもの、語尾から3拍目にアクセント核が来るものの三つに分かれる (McCawley 1968)。

8. 1. 原語のアクセントのある音節にアクセント核が来るもの

原語のアクセントのある音節にアクセント核が来るものが数としては一番多い。強弱アクセント、高低アクセントの違いはあるにしろ、原語のアクセントをそのまま残していると言っていい。

原語のアクセントのある音節が長母音または二重母音であるときは日本語になると2拍になるが、その時は1拍目にアクセント核が来る (「ジ[↑]ープ, クリ[↑]ーム, ナ[↑]ーフ, ダ[↑]イエット」等)。これは共通語においては長母音や二重母音の2拍目にアクセント核が来るということはないからである。

次に例を挙げておく。

2拍	car	→	カ [↑] ー	gas	→	ガ [↑] ス
	[ka:]			[gæs]		
	ham	→	ハ [↑] ム	miss	→	ミ [↑] ス
	[hæm]			[mis]		

	rough	→	ラフ		
	[rʌf]				
3 拍	jeep	→	ジープ	jump	→ ジャンプ
	[dʒi:p]			[dʒʌmp]	
	score	→	スコア	slow	→ スロウ
	[skɔə]			[slou]	
	test	→	テスト	knife	→ ナ이프
	[test]			[naif]	
4 拍	cancel	→	キャンセル	cream	→ クリーム
	[kænsəl]			[kri:m]	
	system	→	システム	scout	→ スカウト
	[sístəm]			[skaut]	
	speech	→	スピーチ	hostess	→ ホステス
	[spi:tʃ]			[hóustis]	
	margin	→	マージン		
	[má:rdʒin]				
5 拍	ecology	→	エコロジー	elegant	→ エレガント
	[ikólədʒi]			[éligənt]	
	carpet	→	カーペット	diet	→ ダイエット
	[ká:rpit]			[daiət]	
	matress	→	マットレス	mystery	→ ミステリー
	[mætris]			[místəri]	
6 拍	admission	→	アドミッション		
	[ədmiʃən]				
	adventure	→	アドベンチャー		
	[ədventʃər]				
	waitress	→	ウェイトレス		
	[wéitris]				

tournament → ト^ˈーナメント

[túərnəmənt]

commissioner → コミ^ˈッションナー

[kəmiʃənər]

8. 2. 原語のアクセントと違う場合

原語のアクセントと違うものには二つの型がある。一つはアクセント核がない、平板型になるもの、もう一つは最後から3拍目にアクセント核が来るものである。

8. 2. 1. 平板型

秋永(1985)は、古く入った語など日常生活によく使われて、日本語になりきったようなものは平板型になる傾向があるとしている。秋永の挙げている例の半分程が「アメリカ^ˉ、アフリカ^ˉ、フランス^ˉ」など、地名である点が面白い。地名にはこの他にも「アリゾナ^ˉ、カリフォルニア^ˉ、フロリダ^ˉ、マイマミ^ˉ」など確かに平板型になるものが多いようである。

次に拍数別に例を挙げることにする。

3拍 bucket → バケツ^ˉ band → バンド^ˉ

[bákɪt] [bænd]

ball → ボール^ˉ button → ボタン^ˉ

[bɔ:l] [bátən]

lemon → レモン^ˉ

[lémən]

4拍 iron → アイロン^ˉ cashmere → カシミア^ˉ

[áɪən] [kæʃmɪər]

gasoline → ガソリン^ˉ catalogue → カタログ^ˉ

[gæsəli:n] [kætəlɔg]

cutlet	→	カツレット	caramel	→	キャラメル
[kʌtlit]			[kæɾəməl]		
stamina	→	スタミナ	speed	→	スピード
[stæmənə]			[spi:d]		
sponge	→	スポンジ	cement	→	セメント
[spʌndʒ]			[simént]		
table	→	テーブル	hurdle	→	ハードル
[teibl]			[hə:rdl]		
panorama	→	パノラマ	pistol	→	ピストル
[pænrəmə]			[pístəl]		
minus	→	マイナス			
[máinəs]					
5拍 alcohol	→	アルコール	ammonia	→	アンモニア
[ælkəhð:l]			[əməunjə]		
insulin	→	インシュリン	docking	→	ドッキング
[ínjulin]			[dókiŋ]		
harmonica	→	ハーモニカ	violin	→	バイオリン
[hɑ:rmónikə]			[vàiəlín]		
bowling	→	ボーリング			
[bóuliŋ]					

全部調べあげたわけではないが、なぜか4拍の語が多いようである。この他に、辞書に二通りのアクセントの型が記載されていて、その一つは原語と同じで、もう一つが平板のものに次のような語がある。

3拍 ハート^ˈ / ハ^ˈート ベルト^ˈ / ベ^ˈルト
 レール^ˈ / レ^ˈール

4拍 スタジオ^ˈ / スタ^ˈジオ スペード^ˈ / スペ^ˈード

セカンド^ˈ / セ^ˈカンド パテント^ˈ / パテ^ˈント

8. 2. 4. アクセント核が語尾から3拍目にあるもの

アクセント核を有していて、それが原語のアクセントと違うところに来るものはほとんど、語尾から3拍目に来る。ただし、共通語のアクセント核は長母音や二重母音の2拍目、撥音、促音のところには来ないので、語尾から3拍目がこのような音に当たる場合には一つ前にずれる。「シャ^ˈンパー、カレ^ˈンダー、エスカレ^ˈーター、エレベ^ˈーター、コンプレ^ˈックス、ディスカ^ˈッション、アドバ^ˈイザー」など、その例である。

3拍 canoe → カ ^ˈ ヌー [kənú:]	class → ク ^ˈ ラス [klæs]
glass → グ ^ˈ ラス [glæs]	club → ク ^ˈ ラブ [klʌb]
graph → グ ^ˈ ラフ [græf]	gorilla → ゴ ^ˈ リラ [gərílə]
Smith → ス ^ˈ ミス [smiθ]	Slav → ス ^ˈ ラブ [slæv]
slum → ス ^ˈ ラム [slʌm]	swan → ス ^ˈ ワン [swæn]
drum → ド ^ˈ ラム [drʌm]	dress → ド ^ˈ レス [dres]
pajamas → パ ^ˈ ジャマ [pədʒá:mə]	banana → バ ^ˈ ナナ [bənæənə]
vanilla → バ ^ˈ ニラ [vənílə]	plug → プ ^ˈ ラグ [plʌg]
brush → ブ ^ˈ ラシ [brʌʃ]	frill → フ ^ˈ リル [fril]

- 4 拍 image → イメ¹ージ orange → オレ¹ンジ
 [ɪmɪdʒ] [ɔːrɪndʒ]
- heroine → ヒロ¹イン fascist → ファシ¹スト
 [hɛrɔɪn] [fæʃɪst]
- pocket → ポケ¹ット manicure → マニ¹キュア
 [pɒkɪt] [mænikjuə]
- racket → ラケ¹ット research → リサ¹ーチ
 [rækɪt] [rɪːsəːrtʃ]
- rocket → ロケ¹ット
 [rɒkɪt]
- 5 拍 extra → エキ¹ストラ Eskimo → エスキ¹モー
 [ɛkstrə] [ɛskəmoʊ]
- escort → エスコ¹ート escape → エスケ¹ープ
 [ɛskɔːrt] [ɪskéɪp]
- convert → コンバ¹ート compact → コンパ¹クト
 [kɒnvɜːrt] [kəmpækt]
- pessimist → ペシミ¹スト
 [pésəmist]
- 6 拍 contrast → コントラ¹スト
 [kɒntræst]
- nationalist → ナショナリ¹スト
 [næʃənəlɪst]

原語の語尾から考えると“-ist”（「ヒューマニスト、フェミニスト」等），“-ism”（「ナショナリズム、リアリズム」等），“-ate”（「デリケート、プライベート」等）で終わるものなど、ほとんどこの型になるし、「バスケット、ソケット」など、“-et”で終わるものにもこの型になるものが多い。

一つ注目されるのは3拍の語で、この拍数の語は原語のいかに関わらず、この語尾

から3拍目にアクセント核がくる型、つまり頭高の語がほとんどである。頭高型で原語とアクセントが一致しない語の大半は“class, dress, graph, slum”など、語頭に子音が続いているものである。これらは語頭及び語尾の子音の後に母音が入り、CVCVCVCVと3拍の語になる。この第1拍目は挿入された母音を持つ拍であるから、ここにアクセント核が来るということは原語のアクセントとは違うということになる。原語のアクセントを保つためには、第2拍目にアクセント核を持ってきて、中高型にする必要がある。3拍の語で原語のアクセントを残し、中高型になっている語はなぜかほとんどが母音で終わるものである。

clay → クレ ¹ ー [klei]	gray → グレ ¹ ー [glei]	star → スタ ¹ ー [star]
three → スリ ¹ ー [θri:]	slow → スロ ¹ ー [slou]	draw → ドロ ¹ ー [dɹɔ:]
free → フリ ¹ ー [fri:]	play → プレ ¹ ー [plei]	spy → スパ ¹ イ [spai]
score → スコ ¹ ア [skɔər]	spare → スペ ¹ ア [speər]	try → トラ ¹ イ [traɪ]
dry → ドラ ¹ イ [draɪ]	floor → フロ ¹ ア [flɔər]	

母音で終わらない中高型のものには次のような語がある。

spanner → スパ ¹ ナ [spænər]	spin → スピ ¹ ン [spin]	twin → ツイ ¹ ン [twin]
Chicago → シカ ¹ ゴ [ʃikɑ:gou]		
thrill → スリ ¹ ル(明解)／ス ¹ リル(NHK, 明解, 新明解, 大辞林) [θril]		

drill → ドリ¹ル(明解, 新明解) / ド²リル(NHK, 明解, 新明解, 大辞林)

[dril]

press → プレ¹ス(NHK, 明解, 新明解, 大辞林)

[pres] / プ²レス(NHK, 明解, 新明解, 大辞林)

このうち、「スパナ、スピン、シカゴ」は初めの拍の母音が無声化するのに伴い、アクセント核が後ろに動いたものとも考えられる。残りは上に記したように辞書でもゆれが見られる語である。つまり、3拍で中高型のもは母音で終わる語と言ってもいいようである。唯一の例外は大辞林・新明解に記載されている“twin”の「ツイ¹ン」である。

IV. 表記における問題

1. 表記の基準

外国語の音が日本語化すると、従来の日本語の拍に似た拍になる場合と従来の日本語にはなかった新しい拍が成立する場合があることは上述したとおりである。従来の日本語の拍に似た拍であれば五十音図にある拍からそれに近いものを選んで表記することができる。しかし新しく成立した拍は五十音図では間に合わない。従って、新しい表記法が考えられなければならない。どういう工夫がなされているかといえば、[ti] [di]を日本語の音韻体系に既存する「チ」「ジ」で表記せずに [ti] を「ティ」、[di] を「ディ」、[tu] を「トゥ」、[du] を「ドゥ」と書くことなどである。

国語審議会が昭和29年に外来語を片仮名で書き表す場合の原則をまとめた報告書を発表したのが、それが、現在までの外来語表記の基準となっている。しかし、外来語の激増にともない、同報告書に付記された「外来語用例集」だけでは対処できなくなり、新聞社、通信社、企業などでは独自の基準を設定するようになった。例えば、報告書は「ファ、フィ、フェ、フォ、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ」をなるべく「ハ、ヒ、(フ)、ヘ、ホ、バ、ビ、ブ、ベ、ボ」、そして「ティ、ディ」を「チ、ジ」と従来の日本語の拍に置き換えて書くことを勧告しているのに対し、新聞社、通信社、企業などでは、より原音に近い表記を選ぶ立場をとっている(NHK(1987)『NHK放送のことばハンドブック』、日本新聞協会(1984)『外来語の書き方』改訂版、(財)日本規格協会(1982)『J I S工業用語大辞典』、富士通編(1985)『情報処理用語辞典』第三版、IBM『IBM情報処理用語英和対訳集』等)。

実例を挙げると、上記報告書の「外来語を書くときに用いるかなと符号の表」には上記の「ティ」「ディ」はあるが、「トゥ」「ドゥ」は含まれていない。これに対し『NHK放送のことばハンドブック』(1987)の「外国語をカナ書きするときに使うカナと符号」には「ティ」「ディ」に加え「トゥ」「ド

ウ」もある。この二つの表に見られる相違は何に起因するかといえば、[tu] [du]も発音できる日本人が増えてきたこと、以前と異なり最近では外国人と接触したり生の英語を聞く機会が増えてきたこと、そして、英語教育の影響もあって原音意識を持つ日本人が増えてきたことが指摘できよう。

このような原音意識を持つ日本人は [v] と [b] の違いを聞き分けることができなくても、それぞれを「ヴ」と「ブ」で書き分けたりするのである。ちなみに、「ヴ」は上記の報告書の表にも含まれているが、現在の日本人にとっても発音は困難である。発音の上で区別できる拍を表記でも区別することには問題はない。しかし、普通の日本人が発音できない、または発音が困難な拍も表記されるようになってきている例は「ヴ」の他にも、「クァ」「ツイ」「ツェ」があるが、これらの場合は発音よりも表記のほうが日本語での定着という点で先行していると言える。

国語審議会の報告書発表から30数年たった現在、その報告書に示された表記法がかなり現状とずれているのも致し方ないことであろう。拍の表記にしても、国語審議会の表記法とNHKが基準としている表記法では、NHKがより多くの拍の種類を示しているのもうなずける。しかし、NHKの表にも更に追加してもいい拍、「クィ」[kwi]「グィ」[gwi]「スイ」[si]「ズィ」[zi]等が考えられる。

以上のような現状を踏まえて国語審議会は外来語表記委員会を設置し、昭和62年以来、外来語の表記について再検討中である。第17期国語審議会(昭和63年)での中間報告では、従来の日本語の音韻になかった音の表記も許容する、そして複数の表記も認める方向で審議がなされていることが窺われる。文相への具体的な内容の答申に備えて、日本語教師には今までとは異なる新しい方針にも対処できるような柔軟な姿勢が要求されよう。

(なお、本書印刷中平成2年3月に国語審議会外来語表記委員会試案『外来語の表記(案)』が発表されたことを付記する)。

2. 発音と表記におけるゆれとずれ

上に述べた [v] [kwa] [tsi] [tse] のように日本人にはなかなか発音できない外国語の音についても表記の方法があるが、その使用の実態には統一が見られない。そして語例、使用の場面、個人の好みなどにより異なる複数の表記が見られる。その代表的なものを下にまとめてみる。

2. 1. [v]

従来日本語には [v] は存在しない。従って日本人にはこの音を発音することも聞き分けることも極度に難しい。国語審議会の報告書によれば [v] を「バ行」を使って表記することが望ましいとされているが、「ヴァ行」が近代的で西欧的な雰囲気を持つとされ、その効果をねらって一般には使用されている。従って、発音は同じだが複数の表記が可能である。

stove [stouv]	→ ストーブ	ストーヴ
curve [kə:rv]	→ カーブ	カーヴ
Eve [i:v]	→ イブ	イヴ
naive [na:i:v]	→ ナীব	ナীব
veil [veil]	→ ベール	ヴェール
violin [v̥aiəlín]	→ バイオリン	ヴァイオリン
olive [óliv]	→ オリーブ	オリーブ

2. 2. 拍数の点での表記のゆれ

小さな片仮名の「ア、イ、エ、オ」を平常の片仮名に添えて用いることにより、それが拍の一部であることを示す場合もあるが、実際の発音では独立した1拍であることが多い。

2. 2. 1. [w] を含む音節

2. 2. 1. 1. 語頭の [w]

「ウイ」「ウイ」、「ウエ」「ウエ」、「ウォ」「ウォ」などは表記に関わりなく全て2拍で発音される。

wink [wɪŋk]	→ ウィンク	ウインク	
whiskey [ˈwɪski]	→ ウィスキー	ウイスキー	※ウキスキー
winter [ˈwɪntər]	→ ウィンター	ウインター	
week [wi:k]	→ ウィーク	ウイーク	
wet [wet]	→ ウェット	ウエット	
water [ˈwɔ:tər]	→ ウォーター	ウォーター	
wall [wɔ:l]	→ ウォール	ウォール	
Wall Street [wɔ:lstri:t]	→ ウォールストリート	ウォールストリート	

※「キ」は特定の語に、慣用的に使用されている。

2. 2. 1. 2. [kw-] [gw-]

原語の [kwa] は日本語化して [kuwa] と2拍になり「クワ」と書くが、表記の上では「ク」と1拍であるかのように書くこともある。したがって発音は同じであるが2種の表記が見られる。英語では [kwa] などは1音節であることを意識して「クワ」とするのであろう。おなじようなことが「クイ、クエ、グエ、クオ」についても見られる。

aquamarine [ækwəmərɪ:n]	→ アクアマリン	アクアマリン	
Guam [gwa:m]	→ グアム	グアム	
queen [kwi:n]	→ クイーン	クイーン	
question [kwéstʃən]	→ クェスチョン	クェスチョン	
Gwen [gwen]	→ グェン	グェン	

quarter [kwɔ́ərtə̀r]	→ クォーター	クォーター
quality [kwɔ́ləti]	→ クォリティー	クォリティー

2. 2. 1. 3. 語頭の [sw]

原語が [sw] を含む語に対しては多様な表記が見られるが、発音は同じである。

sweet [swi:t]	→ スイート	スイート	スエート
	スウェート	スウィート	
sweater [swétə̀r]	→ スウェーター	セーター	
switch [switʃ]	→ スイッチ	スウィッチ	
swing [swiŋ]	→ スイング	スウィング	

2. 2. 1. 4. [tw]

原語が [tw] を含む語に対して次のような表記が見られる。発音は同じである。(例は、吉沢 1979 による)

twin [twin]	→ ツイン	
tweeter [twi:tə̀r]	→ ツイーター	
tweed [twi:d]	→ ツウィード	ツイード
twill [twil]	→ ツウィル	ツィル

2. 2. 2. 語頭の [je]

「イエ」「イエ」なども表記に関わりなく同じように2拍で発音される。

yes [jes]	→ イエス	イエス
yellow [jélou]	→ イエロー	イエロー
Yale [jeil]	→ イェール	イエール

2. 3. 発音と表記のずれ

以上は、同じ発音に複数の表記がある例であったが、以下は発音と表記が必ずしも一対一の対応をしない例である。

2. 3. 1. [ɸ] と母音

「ファ、フィ、フェ、フォ」は1拍で発音されるのが一般的であり、下記のような例があげられる（その他の例はIII. 6. 2. 3. を参照されたい）。

ファ	ファースト	フィ	フィットネス
フェ	フェミニスト	フォ	フォード

しかし、“fan”は「ファン」「ファン」と表記され、[ɸan] [ɸuan] [ɸua:n] と3種類の発音が聞かれる。そして、“film”は「フィルム」「フィルム」、 “office”は「オフィス」「オフィス」と表記されるが発音は、それぞれ1拍のときと2拍のときとがある。

fan [fæn]	→	ファン	ファン
film [film]	→	フィルム	フィルム
office [ɔ:fis]	→	オフィス	オフィス

2. 3. 2. [tsa] [tse]

「ツァ、ツァ、ツェ、ツェ」なども表記に関わりなく1拍のときと2拍のときとがある。

Mozart (独)	→	モーツァルト	モーツァルト
Zeppelin (独)	→	ツェッペリン	ツェッペリン

2. 4. 母音の長短に関するゆれとずれ

外来語のなかには短い母音として表記されたものを長音化して発音する、または長音で発音してもそれを表記しない場合がある。

2. 4. 1. 語尾が [ti:] または [di:] の場合

以下の例は表記に関わりなくすべて長音で発音される。

tea [ti:]	→ ティ	ティー
party [pɑ:rti]	→ パーティ	パーティー
variety [vəriəti]	→ バラエティ	バラエティー
birdie [bɔ:rdi]	→ バーディ	バーディー
parody [pærədi]	→ パロディ	パロディー
lady's golf [leidizgɒlf]		
	→ レディスゴルフ	レディースゴルフ
caddie [kædi]	→ キャディ	キャディー
dandy [dændi]	→ ダンディ	ダンディー

2. 4. 2. 語尾が "-er, -or" の場合

最近の科学技術の進歩、特に電子工学関係の発展がめざましいが、各企業は独自の表記法を採択している。語尾の母音を短音化するのは J I S 規格であるが、発音は長音のままであるのが普通である。

computer [kəmpjú:tər]	→ コンピュータ	コンピューター
typewriter [taɪpraɪtər]	→ タイプライタ	タイプライター
printer [prɪntər]	→ プリンタ	プリンター
adapter [ədæptər]	→ アダプタ	アダプター
elevator [élévəitər]	→ エレベータ	エレベーター

sensor [sénsər]	→ センサ	センサー
transistor [trænzístər]	→ トランジスタ	トランジスター
processor [próusesər]	→ プロセッサ	プロセッサー

2. 5. 二重母音の場合

2. 5. 1. [ei]

「エイ」を「エー」とするのは、共通語に見られる現象であるから、表記に関わりなく長音化した発音が一般的である。

raincoat [réinkòut]	→ レインコート	レーンコート
play [plei]	→ プレイ	プレー
wave [weiv]	→ ウェイブ	ウェーブ
classmate [klæsmèit]	→ クラスメイト	クラスメート
homestay [hóumstèi]	→ ホームステイ	ホームステー
straight [streit]	→ ストレイト	ストレート
main street [meinstri:t]	→ メインストリート	メーンストリート
interface [íntərfèis]	→ インターフェイス	インターフェース

2. 5. 2. [j] の挿入

[ea] [ia] には [j] が挿入されて発音されるのが普通であるが、下記のような表記がみられる。

diamond [dáiəmənd]	→ ダイヤ	tire [taiə]	→ タイヤ
veneer [vəníər]	→ ベニヤ	wire [waiər]	→ ワイヤ
piano [piænou]	→ ピアノ		
Graecia [grí:ʃiə]	→ ギリシヤ	ギリシア	ギリシャ
Italia (伊) [itá:lja]	→ イタリアヤ	イタリア	
Niagara [naiægərə]	→ ナイヤガラ	ナイアガラ	

Russia [rʌʃə]	→ ロシヤ	ロシア
cashmere [kæʃmiə]	→ カシミヤ	カシミヤ
hair [heə]	→ ヘア	
cattleya [kætleiə]	→ カトレヤ	カトレヤ

2. 5. 3. “-ow” の場合

原語の綴りが “-ow” で、発音が [ou] の場合、2通りの表記がある。

show [ʃou]	→ ショウ	ショー
bowling [bɔʊliŋ]	→ ボウリング	ボーリング
bowl [bɔʊl]	→ ボウル	ボール

2. 5. 4. “-um” の場合

ギリシャ語に由来する語尾の “-um” は「ウム」または「アム」と表記されるが、「ウム」と表記された場合の発音は [ju:mu] であり、従って、「アルミニウム」「カルシウム」などと書かれる場合もある。

aluminium [æljəmɪniəm]	→ アルミニウム	
calcium [kælsiəm]	→ カルシウム	
symposium [sɪmpɔʊziəm]	→ シンポジウム	
uranium [juərəɪniəm]	→ ウラニウム	
planetarium [plæniteəriəm]	→ プラネタリウム	
magnesium [mæɡnɪ:ziəm]	→ マグネシウム	
Colosseum [kɒləsɪ:əm]	→ コロセウム	コロシウム
stadium [stɛɪdiəm]	→ スタジアム	
premium [pri:miəm]	→ プレミアム	
moratorium [mɔ:retɔ:riəm]	→ モラトリアム	

3. 社会言語学的ゆれとずれ

“mitt, set, mat” のように C V C の語形を持つ原語が日本語化すると、促音が挿入されて [miqto] [seqto] [maqto] と発音され、「ミット」「セット」「マット」のように「ッ」が表記の上でも挿入される。この場合、発音と表記が一致しているから指導上の問題はない。一方、“bed, dog, bag, badge” のように原語の語尾が有声の子音である場合も原則として促音が挿入されて「ベッド、ドッグ、バッグ、バッジ (バッヂ)」と表記されるが、それと並行して「ベット、ドック、バック、バッチ」の表記も共存している。そして発音にもバラツキがある (III. 4. 参照)。

この現象は、かならずしも発音自体が難しいのではなく、社会言語学的な要因が絡んだ変容であることが筆者の調査でもはっきりしている (カッケンブッシュ 1989)。これは Labov (1972) が開発したニューヨークでの調査方法と、それに準じた Trudgill (1974) のノリッジでの調査方法に準拠して行ったものである。筆者の調査では東京在住の 40 名のインフォーマントにインタビューを実施した (表: 25 参照)。

(表: 25) インフォーマントの内訳

グループ	A	B	C	D	E	F	G	H
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	5	5	5	5	5	5	5	5
年齢	12		20~25		35~45		35~45	
職業	小学生		大学生		公務員/ サラリーマン		自営業 (小売商店)	

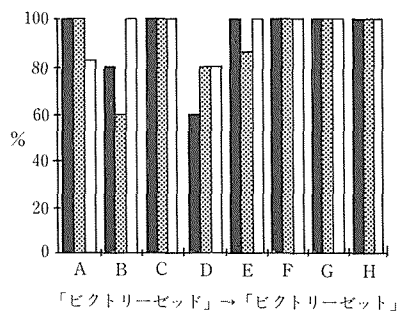
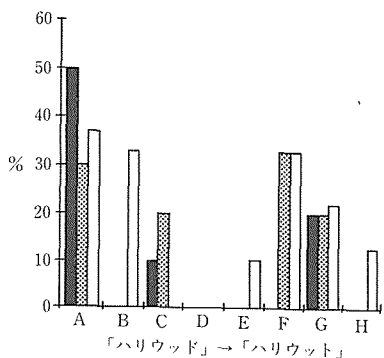
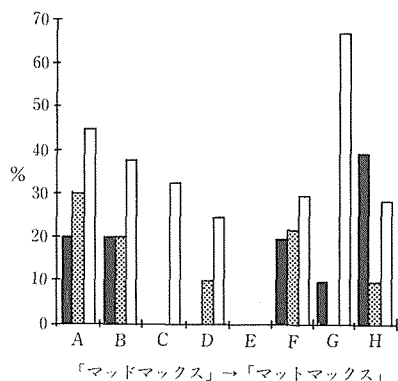
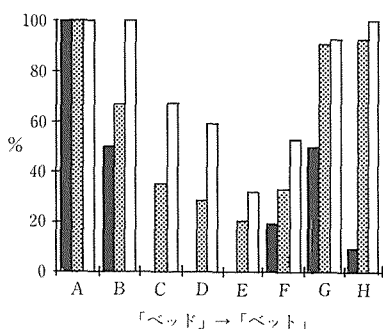
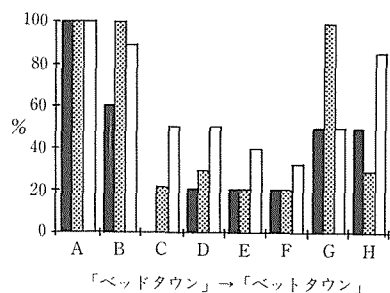
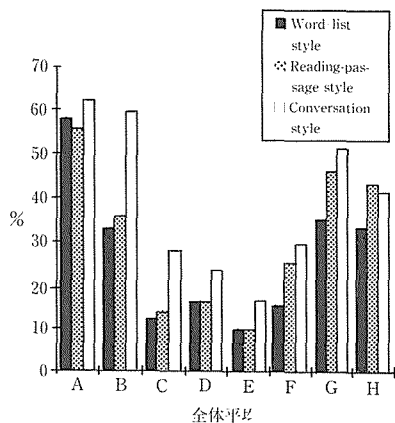
上記のようなインフォーマントの協力を得た上で、いくつかの外来語について、単語として読むとき (Word-list style)、ストーリーのなかで読むとき (Reading passage style)、そして会話をするとき (Conversation style)、の

三つのスタイルでの発音を，これらのインフォーマントの性別，年齢別，職業別に調べたのである。

調査した単語のうち，“bed, Hollywood, bed town, Mad Max, Victory-Z”は語尾 [d]，“bulldog, Boston bag, shoulder bag, hand bag”は語尾の [g] が外来語としてはどう発音されるかを調べたものである。すなわち、「ベッド，ハリウッド，ベッドタウン，マッドマックス，ビクトリーゼッド；ブルドッグ，ボストンバッグ，ショルダーバッグ，ハンドバッグ」において，語尾の拍が無声化されるかどうか，発音の社会言語学的分布の実態を調べたのである。グラフは調査結果の全体平均を，語尾の [d]（グラフ：1），[g]（グラフ：2）について示すものである。

グラフ：1 語尾の〔d〕が無声化する割合

(注) グループの名称については表：25を参照

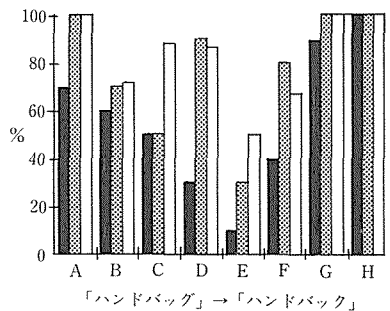
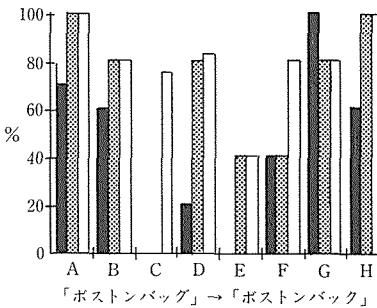
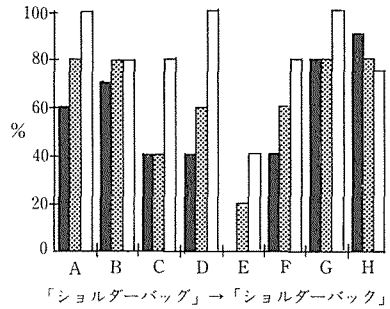
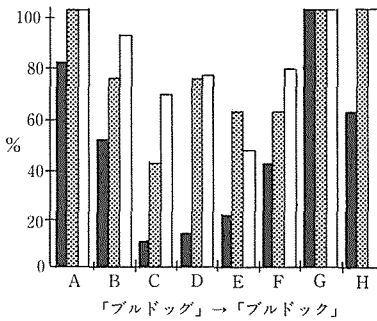
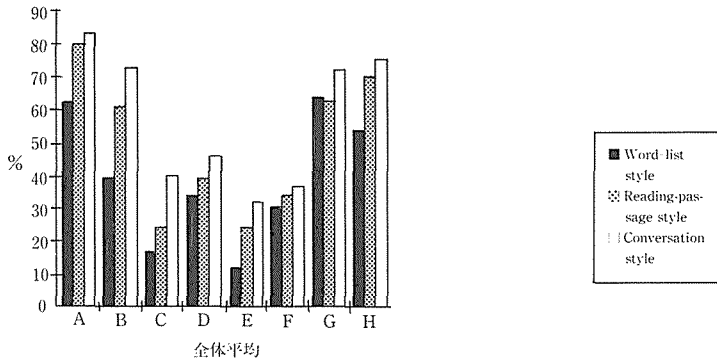


グラフ：1を見て分かるように、単語によって分布のパターンが違い、さらに場面による無声化の度合いもかなり異なった様相を呈している。しかしながら、五つの単語を総合した全体平均の図（グラフ：1-a）では、かなりはっきりした一つのパターンが現われている。すなわち、語尾の [d] に関しては、小学生は無声化の率が一番高く、大学生、それに中年の公務員・サラリーマンは無声化の率が一番低いという事実である。小学生は「ベット、ハリウッド、ベットタウン」と無声化した発音を多く行ない、それに対して大学生並びに中年の公務員・サラリーマンは「ベッド、ハリウッド、ベッドタウン」と有声の発音を多く使っていることが分かる。

さらに、スタイルの点でも、単語を読むとき、すなわち最も緊張しているとき、または注意が払われているときは無声化の率が一番低く、反対にリラックスした会話のときは、無声化の率が一番高い。単語を読み上げるときは「ベット、ハリウッド、ベットタウン」と発音するが、会話の中では「ベット、ハリウッド、ベットタウン」と発音することが多い。

この無声化の現象は、語尾の [g] を含む「ブルドッグ、ポストンバッグ、シオルダーバッグ、ハンドバッグ」の4語についても同様に認められる（グラフ：2）。

グラフ：2 語尾の〔g〕が無声化する割合



なお、促音に後続する位置の他にも、有声子音、無声子音が交替する例は見られ、次のような有声、無声の両形を持つ語がある。

bromide [bróumaid]	→ プロマイド	プロマイド
department [dipá:rtmənt]	→ デパート	デパート
Gips [gips] (独)	→ ギプス	ギプス
jumper [dʒʌmpər]	→ ジャンパー	ジャンパー
loose [lu:s]	→ ルース	ルーズ
pickles [piklz]	→ ピクルス	ピクルズ
smooth [smu:ð]	→ スムース	スムーズ

以上のようなことから、外来語の発音にも表記にもゆれがあり、実際の発音と表記の間にもずれが見られることが分かる。耳のよい日本語学習者にこのようなことを指摘されても、教師は自信をもって、そのゆれとずれの社会言語学的な要因をも説明できるようになりたいものである。

V. 学習者のための練習問題

次の練習問題は英語の音が一定の規則によって日本語化される場合を扱っている。学習者が順を追って取り組むことによって、英語の単語の日本語化の法則を自然に身に付けるといふ狙いで作成したものである。

表記にゆれがあったり、表記と発音の間にずれがある場合は（たとえば、「ウイ」と「ウィ」、「クオ」と「クォ」、「ブ」と「ヴ」等）ごく一般の日本人の発音と一致するもの（「ウイ」、「クオ」、「ブ」等）しか扱っていない。従って異なる表記に関しては、教師の必要に応じた指導が望まれる。

各問題のところに、本文の関連する節を参考のために記しておいた。

なお英語の指示に関してはミドルベリー大学のロバート・キャンベル氏にご協力いただいた。

1. 英語でアクセントのある音節の母音の扱い方 (III. 5. 参照)

How to write syllables with a stress in English

(英語でアクセントのある音節の母音はその発音によって日本語の発音、書き方が決まる。)

(For vowels in syllables with a stress in English, the way the Japanese is pronounced and written is derived from the English pronunciation.)

1.1. 英語の単語の _____ の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

beat → ビート meat sauce → ミートソース

jeep → ジープ speech → スピーチ

(練習) (Practice)

<u>peak</u> → [] [] ク	<u>cheese</u> → [] [] ズ
<u>green</u> → グ [] [] ン	<u>cream</u> → ク [] [] ム
<u>sneaker</u> → ス [] [] カ []	<u>sheets</u> → [] [] ツ
<u>beach</u> → [] [] チ	<u>jeans</u> → [] [] ン ズ

B. (例) (Examples)

r <u>in</u> se → リンス	pink → ピンク
n <u>ym</u> ph → ニンフ	mitt <u>e</u> n → ミトン

(練習) (Practice)

<u>h</u> int → [] ン ト	<u>g</u> in → [] ン
<u>m</u> ink → [] ン ク	<u>r</u> ibbon → [] ボ ン
<u>p</u> iston → [] ス ト ン	<u>k</u> iss → [] ス

1.2. どちらが正しいですか。Which is correct ?

beach → <input type="checkbox"/> ビーチ, <input type="checkbox"/> ビチ	jinx → <input type="checkbox"/> ジーンクス, <input type="checkbox"/> ジンクス
miss → <input type="checkbox"/> ミース, <input type="checkbox"/> ミス	risk → <input type="checkbox"/> リースク, <input type="checkbox"/> リスク
speed → <input type="checkbox"/> スピード, <input type="checkbox"/> スピド	keeper → <input type="checkbox"/> キーパー, <input type="checkbox"/> キパー

1.3. 英語の単語の_____の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

<u>arc</u> ade → アークード	<u>da</u> te → デート
------------------------	--------------------

gray → グレー

raisin → レーズン

(練習) (Practice)

case → ス

maker → カ

game → ム

skate → ス ト

race → ス

stage → ス ジ

B. (例) (Examples)

separates → セパレーツ

bench → ベンチ

center → センター

pen → ペン

(練習) (Practice)

sense → ス

rent-a-car →

hem → ム

guest → ス ト

test → ス ト

memo → モ

1.4. どちらが正しいですか。 Which is correct ?

- second → セーカンド, セカンド tape → テープ, テブ
- desk → デースク, デスク parade → パレード, パレド
- suspenders → サスペンダー, サスベンダー
- safe → セーフ, セフ

1.5. 英語の単語の _____ の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

shampoo → シャンプー

juice → ジュース

shoes → シューズ

canoe → カヌー

soup → スープ

rookie → ルーキー

(練習) (Practice)

taboo → タ

super → パ

mood → ド

spoon → ス ン

boots → ツ

fruits → フ ツ

B. (例) (Examples)

hook → フック

bulldog → ブルドッグ

push → プッシュ

football → フットボール

(練習) (Practice)

cookie → ッ キ

pudding → ディ ン グ

Bush → ッ シュ

sugar → ガ

1.6. どちらが正しいですか。Which is correct ?

book → ブーク, ブック

cooking → クーキング, クッキング

Snoopy → スヌーピー, スヌピー room → ルーム, ルム

1.7. 英語の単語の_____の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

boat → ボート

tone → トーン

home → ホーム

note → ノート

(練習) (Practice)

rope → プ

toast → ス ト

coat → ト

dome → ム

zone → ン

soda → ダ

joke → ク

poker → カ ー

B. (例) (Examples)

trawl → トロール

hall → ホール

pause → ポーズ

balk → ボーク (野球)

course → コース

short → ショート

port (wine) → ポート

dark horse → ダークホース

(練習) (Practice)

talk → ク

crawl → ク ル

sauce → ス

straw → ス ト

corner → ナ ー

sports → ス ツ

surfboard → サ ー フ ド

torch → チ

morning → ニ ン グ

gorgeous → ジャ ス

C. (例) (Examples)

constant → コンスタント

knob → ノブ

doctor → ドクター

bond → ボンド

(練習) (Practice)

monitor → ニ タ ー

toss → ス

topic → ピ ッ ク

rocket → ケ ッ ト

soft →

	フ	ト
--	---	---

contrast →

	ン	ト	ラ	ス	ト
--	---	---	---	---	---

1.8. どちらが正しいですか。 Which is correct?

sponsor → スポンサー, スポンサー

pork → ポーク, ポク escort → エスコート, エスコト

copy → コーピー, コピー cord → コード, コド

chalk → チョーク, チョク

1.9. 英語の単語の _____ の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

ham → ハム gasoline → ガソリン

pass → パス racket → ラケット

(練習) (Practice)

gas →

	ス
--	---

catalogue →

	タ	ロ	グ
--	---	---	---

rally →

	リ	ー
--	---	---

handsome →

	ン	サ	ム
--	---	---	---

panic →

	ニ	ッ	ク
--	---	---	---

mask →

	ス	ク
--	---	---

(注：[kæ] [gæ] は「キャ, ギャ」になることも多い。いつ「カ, ガ」になっていつ「キャ, ギャ」になるか規則がないから、覚えなければいけない。)

(Note : [kæ] [gæ] often become キャ, ギャ. There is no way to predict when these syllables become カ, ガ and when they become キャ, ギャ. So each word must be memorized individually.)

(例) (Examples)

<u>camper</u> → キャンパー	<u>campus</u> → キャンパス
<u>caddie</u> → キャディー	<u>gang</u> → ギャング
<u>gag</u> → ギャグ	<u>gap</u> → ギャップ

B. (例) (Examples)

<u>country</u> → カントリー (as in “country club”)
<u>mutton</u> → マトン <u>bust</u> → バスト <u>punk</u> → パンク

(練習) (Practice)

<u>tough</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> フ	<u>punch</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> ン <input type="text"/> チ
<u>number</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> ン <input type="text"/> バ <input type="text"/> ー	<u>bunt</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> ン <input type="text"/> ト (野球)
<u>cuffs</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> フ <input type="text"/> ス	<u>duct</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> ク <input type="text"/> ト

C. (例) (Examples)

<u>sharp</u> → シャープ	<u>smart</u> → スマート
<u>park</u> → パーク	<u>harp</u> → ハープ
<u>father</u> → ファザー	<u>half</u> → ハーフ

(練習) (Practice)

<u>bar</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> ー	<u>scarf</u> → ス <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> フ
<u>mark</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ク	<u>garden</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> デ <input type="text"/> ン
<u>heart</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ト	<u>tartan</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> タ <input type="text"/> ン
<u>calf-skin</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> フ <input type="text"/> ス <input type="text"/> キ <input type="text"/> ン	
<u>almond</u> → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> モ <input type="text"/> ン <input type="text"/> ド	

D. (例) (Examples)

<u>skirt</u> → スカート	<u>pearl</u> → パール
<u>circuit</u> → サーキット	<u>terminal</u> → ターミナル

(練習) (Practice)

circus → カ ス

turn → ン

herb → プ

earth → ス (電気)

dessert → デ ト

birdie → ディ (ゴルフ)

1. 10. どちらが正しいですか。 Which is correct ?

order → オーダー, オダー

permanent → パーマネント, パマネント

master → マスター, マースター

dummy → ダーミー, ダミー

rough → ラフ, ラーフ

Santa (Claus) → サークラウス, サンタ

par → パー, パ

margin → マージン, マジン

darts → ダーツ, ダツ

1. 11. 英語の単語の _____ の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

ice → アイス cider → サイダー

guide → ガイド dynamite → ダイナマイト

(練習) (Practice)

nice → ス

pie → イ

knife → フ

sky → ス

sign → ン

timing → ミ ン グ

B. (例) (Examples)

gown → ガウン counter → カウンター

house → ハウス sound → サウンド

(練習) (Practice)

round → ン ド mouth piece → ス ピ ー ス

out → ト pound cake → ン ド ケ ー キ

now → town wear → ン ウ エ ア

C. (例) (Examples)

coin → コイン point → ポイント

choice → チョイス oil → オイル

(練習) (Examples)

noise → ズ boiler → ラ ー

boycott → コ ッ ト coil → ル

royal box → ヤ ル ボ ッ ク ス

1.12. 英語の単語の_____の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

career → キャリア real → リアル

hearing → ヒアリング

(練習) (Practice)

near miss → ミ ス pierce → ス

earring → リ ン グ gear → ア

B. (例) (Examples)

hair → ヘア air con(ditioner) → エアコン

spare → スペア chair → チェア

(練習) (Practice)

rare → intensive care → イ ン テ ン シ ブ

pair → ア bearing → リ ン グ

C. (例) (Examples)

core curriculum → コアカリキュラム floor → フロア

store → ストア

(練習) (Practice)

door → ア score → ス

D. (例) (Examples)

pure → ピュア

sure → シュア

2. 子音の扱い方 How to write consonants (III. 6. 参照)

2.1. 子音で終わる音節の扱い方

How to treat syllables ending in a consonant

英語の単語の___の部分の発音に気をつけて、片仮名で書いてください。

Think of the original pronunciation of the underlined portion of

the following words, and rewrite them in katakana.

A. (例) (Examples)

bar → バー star → スター

spare → スペア score → スコア

(練習) (Practice)

par → rare → pair →

car →

B. (例) (Examples)

pen → ペン corn → コーン

tone → トーン spin → スピン

(練習) (Practice)

pin →

turn →

zone →

spoon → ス

C. (例) (Examples)

card → カード out → アウト

bound → バウンド tent → テント

parade → パレード

(練習) (Practice)

nude →

heart →

side →

mood →

part →

date →

D. (例) (Examples)

bench → ベンチ page → ページ

coach → コーチ stage → ステージ

(練習) (Practice)

pinch →

gauge →

march →

cage →

beach →

torch →

E. (例) (Examples)

harp → ハープ

pub → パブ

scarf → スカーフ

love → ラブ

cream → クリーム

miss → ミス

quiz → クイズ

bell → ベル

sports → スポーツ

bath → バス

push → プッシュ

beige → ベージュ

peak → ピーク

tag → タグ

[-ŋ] は「ング」になる。 [-ŋ] becomes ング。

ring → リング

song → ソング

(練習) (Practice)

soup →

ham →

rank →

race →

pants →

king →

game →

jab →

(ボクシング用語)

pace →

jazz →

peak →

2.2. 子音が続く場合 Consonant clusters

A. [r] は無くなる。 [r] is deleted.

(例) (Examples)

card → カード

bird → バード

sharp → シャープ

part → パート

course → コース

turn → ターン

(練習) (Practice)

sort →

torch →

mark →

heart →

harp →

corn →

B. [mp-, mb-] の [m], [ŋk-, ŋg-] の [ŋ], 子音の前の [n] は「ン」になる。

The [m] of [mp-, mb-], [ŋ] of [ŋk-, ŋg-] and [n] followed by a consonant becomes ン.

(例) (Examples)

camp → キャンプ

combination → コンビネーション

hint → ヒント

brand → ブランド

fence → フェンス

lens → レンズ

pinch → ピンチ

sponge → スポンジ

trunk → トランク

single → シングル

(練習) (Practice)

pink → ク

panda → パ

angle → グル

champion → ピオン

hamburger → バーガー

center → ター

trench(coat) → トチ

C. その他の子音の場合は2.1.Cと同じような方法で母音が挿入される。

For the other consonant clusters, vowels are inserted in the same manner as 2.1.C. through E.

(例) (Examples)

<u>d</u> rama → ドラマ	t <u>r</u> y → トライ
<u>c</u> rank → クランク	<u>s</u> peed → スピード
<u>p</u> ride → プライド	<u>m</u> ask → マスク
<u>b</u> rand → ブランド	<u>s</u> pring → スプリング

(練習) (Practice)

<u>t</u> rade → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>d</u> rive → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> プ
<u>r</u> isk → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>s</u> coop → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
<u>s</u> pray → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>d</u> ogma → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
<u>b</u> rass <u>b</u> and → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	

2.3. 日本語にない子音の扱い方

How to treat consonants not present in Japanese

A. [l] と [r] は [r] になる。ただし、音節末の [r] は無くなる。(III.

6.3.1. 参照)

[l] becomes [r]. However, the syllable final [r] is deleted.

(例) (Examples)

<u>l</u> ight → ライト	<u>l</u> ast → ラスト
<u>b</u> ell → ベル	<u>l</u> ist → リスト

(練習 1) (Practice 1)

<u>l</u> ine → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>l</u> ib → <input type="text"/> プ
<u>d</u> ribble → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>l</u> oop → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
<u>l</u> ace → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>s</u> lim → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
<u>h</u> all → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<u>c</u> rawl → <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> (水泳)

(練習 2) 次の単語は英語の何に当たるでしょうか。二つ考えてください

い.

(Practice 2) What do the following words correspond to in English?

Think of two possibilities.

(例) (Examples) ライト (light, right)

リスト (,) ロード (,)

レース (,) ロック (,)

リーダー (,) ラム (,)

B. [f] 「ファ, フィ, フ, フェ, フォ」(III. 6. 2. 3. 参照)

(例) (Examples)

fight → ファイト ferry → フェリー

filter → フィルター fork → フォーク

full → フル rough → ラフ

(練習) (Practice)

new face →

Ford → fair →

file → field →

tough → half →

fund →

feedback → バ ッ ク

form → floor →

France →

C. [v] は [b] になる. [v] becomes [b].

(例) (Examples)

cover → カバー veil → ベール

visa → ビザ vocal → ボーカル
drive → ドライブ

(練習) (Practice)

clove → valve →
naive → vest →
Venus → revival →
voice recorder →

D. [θ] [ð] は [s] [z] になる. [θ] [ð] becomes [s] or [z].

(例) (Examples)

Smith → スミス mother → マザー
bath → バス leather → レザー

(練習) (Practice)

third →
feather → (ボクシング用語)
therapy →
think tank →
thrill → throttle → (車)

2.4. 日本語にない子音・半母音と母音の連鎖の扱い方

How to treat sequences of a consonant plus a vowel and a semi-vowel plus a vowel not present in Japanese.

A. [i] [i:] の前の [s] は [ʃ] に, [z] は [dʒ] になる.

Before [i] or [i:], [s] becomes [ʃ], and [z] becomes [dʒ].

(例) (Examples)

seal → シール Cinema Scope → シネマスコープ
scene → シーン silk → シルク
musician → ミュージシャン zigzag → ジグザグ
crazy → クレージー

(練習) (Practice)

season → seesaw →
seam → sink →
zipper → singer →

B. [ʃe] [ʃe:] は「シエ, シエー」, [dʒe] [dʒe:] は「ジェ, ジェー」と書く。

[ʃe] [ʃe:] are written シエ, シエー; [dʒe] [dʒe:], ジェ, ジェー.

(例) (Examples)

sherry → シェリー jet → ジェット

(練習) (Practice)

shaker → gesture →
shepherd → eject →
shape-up →

C. [ti] [ti:] [di] [di:] [tu] [tu:] [du] [du:] は「ティ, ティー, デイ, ディー, トゥ, トゥー, ドゥ, ドゥー」と書く。ただし, 「トゥ, トゥー, ドゥ, ドゥー」の例は少ない。

[ti] [ti:] [di] [di:] [tu] [tu:] [du] [du:] are written ティ, ティー, デイ, ディー, トゥ, トゥー, ドゥ, ドゥー. However, examples of トゥ, トゥー, ドゥ, ドゥー are rare.

(例) (Examples)

teach-in → ティーチイン routine → ルーティン

birdie → バーディー (ゴルフ)

body blow → ボディーブロー (ボクシング)

dinner show → ディナーショー two → トゥー

(練習) (Practice)

tea party →

disc → dealer → ラー

Tiffany → ニー teen →

D. [w] は後に来る母音によって、次のようになる。

[w] comes out as shown, depending on the following vowel.

ワ, ウイ, ウ, ウエ, ウオ

(例) (Examples)

wife → ワイフ waiter → ウエーター

week → ウイーク West Coast → ウエストコースト

wink → ウィンク water-proof → ウォータープルーフ

wool → ウール

queen → クイーン switch → スイッチ

quick → クイック swimming school → スイミングスクール

quarter → クォーター

(練習) (Practice)

wide(show) → (テレビ用語)

wind(breaker) → wild →

weight → quiz →

Walkman →

Quaker → swing →

E. [i] [i:] の前の [j] はなくなり, [e] [e:] の前の [j] は [i] になる.
(III. 6.5.2. 参照)

[j] drops before [i] or [i:]; [j] becomes [i] before [e] or [e:].

(例) (Examples)

<u>y</u> east → イースト	<u>Y</u> es man → イエスマン
<u>y</u> ellow → イエロー	<u>Y</u> ippie → イッピー
<u>Y</u> emen → イエメン	

2.5. 促音挿入 Double consonants (III. 4. 参照)

2.5.1. 語尾の短母音の後の「プ, ト, ク, ツ, チ, シュ」の前には促音が挿入される。

In word final position after a short vowel, the consonant of the final syllable in Japanese (the [p], [t], etc. of プ, ト, ク, ツ, チ, シュ) comes out as a double consonant.

語尾の子音が促音化するかしらないかに気を付けて, 片仮名で書いてください。

Write out the practice words in katakana, paying attention to whether or not the final consonant becomes a double consonant.

A. (例) (Examples)

hip → ヒップ	mitt → ミット	kick → キック
pitch → ピッチ	coquettish → コケティッシュ	

(長母音の後の例。この場合は促音が入らない。)

(Examples where the vowel is long. Here the double consonant does not appear in Japanese.)

jeep → ジープ beat → ビート peak → ピーク

speech → スピーチ pleats → プリーツ

(練習) (Practice)

skip → hit → rich →

keep → seat → reach →

fish → stick → speech →

B. (例) (Examples)

step → ステップ set → セット check → チェック

Metts → メッツ sketch → スケッチ mesh → メッシュ

(長母音の後の例) (Examples where the vowel is long.)

grapefruit → グレープフルーツ

rate → レート make → メーク

(練習) (Practice)

net → pet → neck →

jet → fresh → tape →

date →

C. (例) (Examples)

lap → ラップ mat → マット pack → パック

cats → キャッツ catch → キャッチ cash → キャッシュ

guts → ガッツ

(長母音および二重母音の後の例)

(Examples of words with a long vowel or a diphthong)

carp → カープ type → タイプ smart → スマート

right → ライト strike → ストライク park → パーク

parts → パーツ arch → アーチ scout → スカウト

(練習) (Practice)

tap → bat → truck →

match → rush → smash →

heart → march → search →
 snack → scrap → flash →
 touch → nuts →

D. (例) (Examples)

top → トップ pot → ポット rock → ロック
 watch → ウォッチ

(長母音の後の例) (Examples where the vowel is long)

rope → ロープ coat → コート talk → トーク
 coach → コーチ

(練習) (Practice)

shop → spot → stock →
 broach → dock → knot → (海)
 stroke → drop → (菓子)
 soap →

E. (例) (Examples)

foot → フット book → ブック push → プッシュ

(長母音の後の例) (Examples where the vowel is long)

soup → スープ scoop → スクープ route → ルート

(練習) (Practice)

hook → loop →
 group → shoot → (スポーツ)

2.5.2. 語尾の短母音の後の [ks, kl, pl, sl] の前にも促音が挿入される。

After a short vowel [k, p, s] of [ks, kl, pl, sl] also come out as double consonants.

(例) (Examples)

mix → ミックス couple → カップル tackle → タックル
 box → ボックス apple → アップル castle → キャッスル

(練習) (Practice)

socks → wax → sex →
looks → x → slacks →
buckle → hustle →

2.5.3. 語中の短母音に続く [p, t, k, s, tʃ, ʃ] の前にも促音が挿入される。ただし、語尾の子音が促音化する場合には語中の子音は促音化しない。

After a short vowel [p, t, k, s, tʃ, ʃ] inside of a word also come out as double consonants. However, in words with both medial and final consonants, only the final consonant comes out as a double consonant.

(例) (Examples)

upper (cut) → アッパー setter → セッター
cracker → クラッカー pitcher → ピッチャー
pressure → プレッシャー

(促音化しない例：語尾の子音が促音化している。)

(Examples with both medial and final consonants: only the final consonant comes out as a double consonant.)

racket → ラケット pocket → ポケット
picnic → ピクニック cassette → カセット
topic → トピック classic → クラシック

練習はアクセントのない音節において母音がどう日本語化されるかを練習した後ですることになります。

Exercises for this section will appear later in Section 5.1.

3. 英語でアクセントのない音節の母音の扱い方 (III. 7. 参照)

How to write vowels in syllables with no stress in English

(英語でアクセントのない音節においては、英語のスペルによって発音、書き方が決まる。)

(For syllables with no stress in English, the way the Japanese is pronounced and written is derived from the English spelling.)

例を参考にして片仮名で書いてください。

Write out the practice words in katakana while referring to the examples.

3.1. スペルが "i" のとき、発音は [i] になる。

When the spelling is "i", the Japanese pronunciation is [i].

(例) (Examples)

stamina	→ スタミナ	mon <u>i</u> tor	→ モニター
cartr <u>i</u> dge	→ カートリッジ	delic <u>a</u> te	→ デリケート
card <u>i</u> gan	→ カーディガン	margin <u>i</u>	→ マージン

(練習) (Practice)

mini	→ <input type="text"/>	service	→ <input type="text"/>
denim	→ <input type="text"/>	feminist	→ <input type="text"/>

3.2. スペルが "e" のとき、発音は [e] になる。語尾の発音されない "e" は日本語においても発音されない。そして、表記もされない。

When the spelling is "e", the Japanese pronunciation is [e]. The silent "e" at the end of a word is not written in Japanese.

(例) (Examples)

acc <u>e</u> nt	→ アクセント	system	→ システム
g <u>a</u> rden	→ ガーデン	car <u>e</u> t	→ カーペット

elite → エリート drive → ドライブ
circle → サークル

(練習) (Practice)

patent → model →
cancel → deSSERT →
cement → baset →
cricket → nickel →
sense → serve →

3.3. スペルが "a" のとき、発音は [a] になる。

When the spelling is "a", the Japanese pronunciation is [a].

(例) (Examples)

assistant → アシスタント opara → オペラ
cana → カヌー canas → カンバス
stamina → スタミナ soda → ソーダ

(練習) (Practice)

pedal → parade →
instant → banana →
veteran → rival →

3.4. スペルが "o" のとき、発音は [o] になる。

When the spelling is "o", the Japanese pronunciation is [o].

(例) (Examples)

economic → エコノミック ebonite → エボナイト

carton → カートン calory → カロリー
gorilla → ゴリラ percolator → パーコレーター

(練習) (Practice)

carbon → panorama →
pistol → lemon →
boycott →

3.5. スペルが "u" の場合 When the spelling is "u"

A. スペルが "u" で発音が [ə] のとき、日本語の発音は [a] になる。

When the vowel is spelled "u", but pronounced [ə], the Japanese pronunciation is [a].

(例) (Examples)

campus → キャンパス chorus → コーラス
consensus → コンセンサス focus → フォーカス
minus → マイナス asparagus → アスパラガス

(練習) (Practice)

circus → consensus →
bonus → ominibus →
lettuce →

B. スペルが "u" でも次のような場合がある。

When "u" has a pronunciation other than [ə], the Japanese is as follows.

(例) (Examples)

curriculum → カリキュラム naturul → ナチュラル
figuru skate → フィギュアスケート populur → ポピュラー

manual → マニユアル formula → フォーミュラ
 casual → カジュアル

(練習) (Practice)

situution → ショ

communism →

circuulation → ショ

reguular → insuulin →

docuumentary →

3.6. アクセントがない音節の “ar, er, or, our” はすべて [a:] という発音になる。

When the spelling is “ar, er, or, our”, the Japanese pronunciation is [a:].

(例) (Examples)

popular → ポピュラー	calendar → カレンダー
speaker → スピーカー	corner → コーナー
counter → カウンター	cider → サイダー
concert → コンサート	escort → エスコート
doctor → ドクター	horror → ホラー
glamour → グラマー	colour → カラー

(練習) (Practice)

radar →	arcade →
master →	tanker →
partner →	percent →
error →	sponsor →

minor → factor →
(fruit) parlour →

3.7. 語尾の “-y, -ie, -ey, -ee” はすべて [i:] になる.

When the spelling is “-y, -ie, -ey, -ee” in word final position, the Japanese pronunciation is [i:].

(例) (Examples)

party → パーティー	mystery → ミステリー
calory → カロリー	ecology → エコロジー
trophy → トロフィー	speedy → スピーディー
caddie → キャディー	cookie → クッキー
jockey → ジョッキー	committee → コミッティー

(練習) (Practice)

academy →	story →
personality →	lobby →
elegy →	irony →
birdie →	talkie →
Disney →	honey →
jersey →	

4. 繰り返し現れるスペルの扱い方 (III. 7. 3. 参照)

(次のようにくりかえし現れる部分は例のように発音, 表記が決まっている.)

(The Japanese pronunciation and spelling of the following frequently occurring parts of words is fixed as seen in the examples.)

例を参考にして片仮名で書いてください.

Write out the practice words in katakana while referring to the exam-

ples.

4.1. "-age"

(例) (Examples)

advantage → アドバンテージ average → アベレージ

image → イメージ percentage → パーセンテージ

(練習) (Practice)

sausage →

--	--	--	--	--	--

 message →

--	--	--	--	--	--

package →

--	--	--	--	--	--

4.2. "ate" "ator"

(例) (Examples)

escalate → エスカレート classmate → クラスメート

syndicate → シンジケート private → プライベート

escalator → エスカレーター

(練習) (Practice)

chocolate →

チ	ョ	コ				
---	---	---	--	--	--	--

delicate →

--	--	--	--	--	--	--

elevator →

--	--	--	--	--	--	--

operator →

--	--	--	--	--	--	--

4.3. "tion, sion, shion"

(例) (Examples)

collection → コレクション auction → オークション

communication → コミュニケーション reaction → リアクション

discussion → ディスカッション passion → パッション

vision → ビジョン fashion → ファッション

question → クエスチョン

(練習) (Practice)

section →

production →

dictation →

inflation →

mansion →

narration →

4.4. `cial, tial`

(例) (Examples)

official → オフィシャル

initial → イニシャル

(練習) (Practice)

commercial →

potential →

special →

4.5. `ing`

(例) (Examples)

charming → チャーミング

fencing → フェンシング

boxing → ボクシング

bowling → ボーリング

(練習) (Practice)

cleaning →

cycling →

diving →

morning →

5. 総合練習 Comprehensive Exercises

5.1. 2.5.3.で見た、語中の短母音に続く [p, t, k, s, tʃ, ʃ] の前に促音が挿入される場合の練習。もう一度147ページの例をよく見てから、片仮名で書いてください。

Double consonants in the middle of a word. Write out the practice words in katakana while referring to the examples in Section 2.5.3.

zipper →	stopper →	fritter →
mattress →	cotton →	hitter →
docking →	catcher →	Thatcher →
passion →	pressure →	mission →
dressing →	massage →	kitchen →

5.2. 次の短文の英語で書いてある単語を片仮名で書いてください。そして片仮名で書いてある語は元になった英語の語を考えてください。

In the following passages, write out the English words in katakana. Write the English equivalents of the words written in katakana.

A. きうbusでdepart (ment store)へ行きました。わたしはAmericaのcrackerとFranceのcheeseとDenmarkのcookieを買いました。

SmithさんはSpainのwineを買いました。それからdepartのそばのマクドナルドでhamburgerを食べました。

B. Lindaさんはsportsが好きです。よくtennisやgolfやjoggingをします。LindaさんはAmericaからtennisのracketを持ってきました。

今、大学のtennis clubに入っています。

C. 花子はone room mansionに住んでいる。窓にはlaceのカーテン。

tableの上にはpinkのtableクロス。今日は日曜日だ。九時ごろ起きて、パジャマのまま、stretch。シャワーをあびたら、朝ごはん。今朝の朝ごはんはcheeseにtoast、レタスとトマトのサラダにmilk tea。あ、ボーイfriendとのdateに遅れそう。急いで、blueのknitのdressに着替え、バッグをつかんで、とびだしていく。

- D. テレビ局のスタジオではnewsの時間がせまっている。スタジオの中央にはスーツの胸にmikeをつけたannouncerがすわっている。directorのstartの合図とともにcameraがannouncerをupでとらえる。
- E. 先日、久しぶりに家族でfamilyレストランへ行った。waitressが持ってきたmenuを見て子供たちは大喜びだ。上の子はhamburgerとコココーラ。下の子はスパゲッティがいいという。家内とぼくはステーキを注文する。dessertにはみんなでice creamを食べた。

【参考文献】

- 秋永一枝編 (1985) 『明解日本語アクセント辞典 第2版』三省堂
- 天沼 寧・大坪一夫・水谷 修 (1978) 『日本語音声学』くろしお出版
- あらかわそおべえ (1977) 『外来語辞典 第二版』角川書店
- 石田敏子 (1988) 『日本語教授法』大修館書店
- 石綿敏雄 (1985) 『日本語の中の外国語』岩波新書
- 遠藤織枝 (1989) 「外来語の表記」(『講座日本語と日本語教育第8巻 日本語の文字・表記(上)』) 明治書院
- カッケンブッシュ寛子(1989)「外来語の促音化について」(『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』) 広島大学教育学部
- 川上 泰 (1983) 『日本語音声概説』桜楓社
- 金田一京助他編 『新明解国語辞典』 第4版 三省堂
- 郡司利男編著 (1967) 『英語学習逆引き辞典』開文社
- 小泉 保 (1978) 『日本語の正書法』大修館書店
- 国語審議会 (1954) 報告『外来語の表記について』
- (1988) 『外来語表記委員会の審議経過について(報告)』
- 国際交流基金 (1978) 『日本語かな入門』(各国語版)
- (1981) 『教師用日本語教育ハンドブック⑤ 語彙』
- (1989) 『教師用日本語教育ハンドブック⑥ 発音』改訂版
- 国立国語研究所 (1981) 『日本語教育指導参考書8 日本語の指示詞』大蔵省印刷局
- (1984) 『日本語教育指導参考書12 語彙の研究と教育(上)』大蔵省印刷局
- (1988) 『日本語教育指導参考書14 文字・表記の教育』大蔵省印刷局
- 小西友七他編 (1985) 『プログレッシブ英和中辞典』小学館
- 柴谷方良 (1982) 「社会言語学と変形文法」(月刊『言語』vol.11 No.10) 大

修館書店

- 自由国民社 (1989) 『現代用語の基礎知識 1989年版』
- シュービゲル著 小泉保訳 (1982) 『新版音声学入門』大修館書店
- 新聞用語懇談会編 (1984) 『外来語の書き方 改訂版』日本新聞協会
- 新村出編 (1983) 『広辞苑 第3版』岩波書店
- 武部良明 (1979) 『角川小辞典29 日本語の表記』
- 田島毓堂・丹羽一彌編 (1978) 『日本語尾音索引普及版』笠間書院
- 日本IBM 『IBM情報処理用語英和対訳集』
- 日本規格協会 (1982) 『JIS工業用語大辞典』電波新聞社
- 日本語教育学会 (1982) 『日本語教育事典』大修館書店
- 日本放送協会編 (1985) 『発音アクセント辞典 改訂新版』日本放送出版協会
- (1987) 『NHK放送のことばハンドブック』日本放送出版協会
- ブロック著 ミラー編 (1975) 『ブロック日本語論考』西光義弘他訳, 研究社
- 服部四郎 (1984) 『音声学』岩波書店
- 林大監修 (1982) 『図説日本語』角川書店
- 飛田良文編著 (1981) 『英米外来語の世界』南雲堂
- 富士通編 (1985) 『情報処理用語辞典 第3版』
- 文化庁 (1970) 『日本語教育指導参考書1 音声と音声教育』大蔵省印刷局
- (1975) 『国語シリーズ別冊3 日本語と日本語教育 — 発音・表現編一』大蔵省印刷局
- 文化庁 (1976) 『「ことば」シリーズ4 外来語』大蔵省印刷局
- 牧野 勤 (1977) 『英語の発音 — 指導と学習 —』東京書籍
- 松村明編 (1989) 『大辞林』三省堂
- 吉沢典男 (1979) 『図解外来語辞典』角川書店
- Bloch, B. (1950) 'Studies in Colloquial Japanese IV: Phonemics'
Language Vol.26
- Catford, J.C. (1988) A Practical Introduction to Phonetics, Oxford :

Clarendon Press.

- Gimson, A. C. (1970) An Introduction to the Pronunciation of English, London : Edward Arnold.
- Hudson, R. A. (1983) Sociolinguistics, Cambridge : Cambridge University Press.
- Kenyon, J. S., Knott, T. A. (1951) A Pronouncing Dictionary of American English, Springfield, Mass. : G. & C. Merriam Press.
- Labov, W. (1972) Sociolinguistic Patterns, Philadelphia : University of Pennsylvania Press.
- Ladefoged, P. (1975) A Course in Phonetics, New York : Harcourt Brace Jovanovich
- Lovins, J. B. (1973) Loanwords and the Phonological Structure of Japanese, Unpublished Ph. D. dissertation, University of Chicago.
- McCawley J. D. (1968) Phonological Component of a Grammar of Japanese, Mouton
- Ohso, M. (1971) A Phonological Study of Some English Loanwords in Japanese. Unpublished M. A. Thesis, The Ohio State University.
- Quackenbush, H. C. (1977) 'English Loanwords in Japanese'. Journal of the Association of Teachers of Japanese Vol. XII No. 2, 3
- Quackenbush, H. C. & Ikeda S., (1989) Katakana in 48 minutes, Curriculum Development Centre, A. C. T., Australia.
- Trudgill, P. (1976) Sociolinguistics : An Introduction, Middlesex : Penguin.

【外来語語形索引】

この索引は本文中に語例として挙げられた外来語および外来語を含む混種語を五十音順に配列したものである。

アーケード III-7.1.8, V-1.3.A.
 アース III-5.3.
 アーチ III-3.4.1, V-2.5.1.C.
 アーモンド III-5.3.
 アイス III-5.3, V-1.11.A.
 アイデア III-8.
 アイドル III-5.3.
 アイドル歌手 II-4, III-8.3.
 アイロン III-8.2.1.
 アウト III-5.3, III-8, V-2.1.C.
 アクアマリン IV-2.2.1.2.
 アクアマリン IV-2.2.1.2.
 アクアラング III-6.4.3, III-7.2.1.
 アクセント III-7.1.2, V-3.2.
 アコースティック II-2.1.
 朝シャン II-4.
 アジア III-7.4.
 アジる II-1.2.2.
 アシスタント V-3.3.
 アスパラガス III-7.1.5, V-3.5.A.
 アスラチット (E. T. 語) III-1.
 アスレチック III-6.2.1.
 アダプタ IV-2.4.2.
 アダプター IV-2.4.2.
 アッパー V-2.5.3.
 アップ II-3.
 アップする II-3.
 アップトゥデート・III-6.2.1.
 アップトゥデート III-6.2.1.
 アップル III-4.2.3, V-2.5.2.
 アドバイスする II-1.2.
 アドバイザー III-8.2.2.
 アドバンテージ III-7.3.2, V-4.1.
 アドベンチャー III-7.1.8, III-8.1.
 アドミッション III-8.1.
 アトラクション III-7.3.1.
 アニマル III-7.1.1.
 アニメーション II-2.2.1.
 アニメ II-2.2.1.
 アパート II-2.2.1, II-2.2.1.
 ?アパートメント II-2.2.1.
 アフリカ III-8.2.1.
 アプローチ III-3.4.1.
 アベックアーチ II-3.
 アベレージ III-7.3.2, V-4.1.
 アマ II-2.2.1.
 アマチュア II-2.2.1, III-7.1.8.
 アメフト II-2.2.3, III-8.3.
 アメリカ III-8.2.1.
 アメリカンフットボール II-2.2.3.
 アリゾナ III-8.2.1.
 アルコール III-8.2.1.
 アルバイター II-3.
 アルバイト II-2.2.2.
 アルバイトサロン II-3.

アルミニウム IV-2.5.4.
 アルミホイール III-6.2.3.
 アレンジ III-3.4.2, III-5.3.
 アンカー III-6.4.1.
 アングル III-6.4.3.
 アングロサクソン III-6.4.3.
 アンダースロー III-6.3.2.
 アンパイア III-6.4.2, III-7.1.8.
 アンビシャス III-6.4.2.
 アンブ III-6.4.2.
 アンモニア III-7.2.2, III-8.2.1.
 イースト III-6.5.2, V-2.4.E.
 イヴ IV-2.1.
 イェール IV-2.2.2.
 イェール IV-2.2.2.
 イェール大学 III-6.5.2.
 イェス IV-2.2.2.
 イェス III-6.5.2, IV-2.2.2.
 イェスマン V-2.4.E.
 イェメン III-6.5.2, V-2.4.E.
 イェロー IV-2.2.2.
 イェロー III-6.5.2, IV-2.2.2, V-2.4.E.
 イコール III-5.3.
 板チョコ II-4.
 イタリア IV-2.5.2.
 イタリア IV-2.5.2.
 イッピー V-2.4.E.
 イニング III-7.2.2.
 イニシャル III-7.3.4, V-4.4.
 イブ IV-2.1.
 イブニング III-5.3.
 イメージ III-3.4.2, III-7.3.2,
 III-8.2.2, III-8.3, V-4.1.
 イメージアップ II-3.
 イメージダウン II-3, III-8.3.
 イメージチェンジ II-2.2.3.
 イメチェン II-2.2.3.
 イヤー III-5.3.
 イヤリング III-5.3.
 イラスト II-2.2.1.
 イラストレーション II-2.2.1.
 イリュージョン III-7.3.1.
 インキ III-3.6.1, III-3.6.2.
 インク III-3.6.1.
 インシュリン III-7.1.6, III-8.2.1.
 インスタント III-5.3, III-7.1.3.
 インターナショナル III-7.1.8.
 インターフェイス IV-2.5.1.
 インターフェース IV-2.5.1.
 インタビューする II-1.2.
 インテリア III-7.1.8.
 インフレ II-2.2.1, II-2.2.1.
 インフレーション II-2.2.1, II-2.2.1,
 III-7.3.1.
 ヴァイオリン IV-2.1.
 ウィーク IV-2.2.1.1, IV-2.2.1.1,
 V-2.4.D.
 ウィスキー III-6.5.1, IV-2.2.1.1.
 ウィスキー III-6.5.1, IV-2.2.1.1.
 ウィンク III-6.5.1, IV-2.2.1.1.

ウインク IV-2.2.1.1, V-2.4.D.
ウインター IV-2.2.1.1.
ウインター IV-2.2.1.1.
ウインタースポーツ III-6.5.1.
ウーマンリブ II-2.1.
ウール III-6.5.1, V-2.4.D.
ウエア III-5.3.
ウエイトレス III-8.1.
ウェイブ IV-2.5.1.
ウェーブ IV-2.5.1.
ウェーター V-2.4.D.
ヴェール IV-2.1.
ウエスト III-6.5.1.
ウエスト III-6.5.1.
ウエストコースト V-2.4.D.
ウェット IV-2.2.1.1.
ウェット III-6.5.1, IV-2.2.1.1.
ウェディング III-6.5.1.
ウェディングドレス III-6.2.1.
ウエハース III-6.5.1.
ウエファース III-6.5.1.
ウォーター IV-2.2.1.1.
ウォーター III-6.5.1, IV-2.2.1.1.
ウォーターブルー V-2.4.D.
ウォーミングアップ III-6.5.1.
ウォームアップ III-6.5.1.
ウォール IV-2.2.1.1.
ウォール IV-2.2.1.1.
ウォールストリート IV-2.2.1.1.
ウォールストリート III-6.5.1,
IV-2.2.1.1.
ウォッチ III-4.1.
ウォッチ V-2.5.1.D.
ウッド III-5.3, III-6.5.1.
ウラニウム IV-2.5.4.
ウキスキー IV-2.2.1.1.
エアコン II-2.2.3, II-2.2.3, III-5.3,
III-8.3, V-1.12.B,
エアコンディショナー II-2.2.3,
II-2.2.3.
エアロビ II-2.2.1.
エアロビクス II-2.2.1.
エル大学 III-6.5.2.
駅コン II-2.2.3.
エキス III-3.6.2.
エキストラ III-3.6.2, III-8.2.2.
エキゾル II-1.2.2.
エキゾチック III-3.6.2.
エコ III-7.1.4.
エコノミック V-3.4.
エコロジー III-8.1, V-3.7.
エジソン III-6.2.1.
エスカレーター III-7.3.3, III-8.2.2,
V-4.2.
エスカレート III-7.3.3, V-4.2.
エスキモー III-8.2.2.
エスケープ III-8.2.2.
エスコート III-8.2.2, V-3.6.
エックス III-4.2.3.
エッジ III-3.4.2, III-4.1.

エデュケート III-6.2.2.
エボナイト III-7.1.4, V-3.4.
エラー III-7.1.8.
エリート III-3.2.1, V-3.2.
エレガント III-5.3, III-7.1.2, III-8.1.
エレキギター III-3.6.2.
エレジー III-7.1.7.
エレベータ IV-2.4.2.
エレベーター III-7.3.3, III-8.2.2,
IV-2.4.2.
エロ II-1.3.2.
エロい II-1.3.2.
エロチズム II-1.3.2.
エロチック II-1.3.2, III-6.2.1.
エンスト II-3.
エンド III-3.2.2.
オイル III-5.3, V-1.11.C.
オークション III-7.3.1, V-4.3.
オーストラリア III-7.1.9, III-7.4.
オースドックス III-4.2.3.
オーソリティ III-7.1.9.
オーディション III-7.1.9.
オートマ II-2.2.1.
オートマチック II-2.2.1, III-6.2.1.
オートメ II-2.2.1.
オートメーション II-2.2.1, III-7.1.9.
オーブンする I II-1.2.
オールド III-3.2.2.
オールドファッション II-2.1.
オールドミス II-3.
オールマイティー III-6.2.1.
オーロラ III-7.1.9.
オクラホマ III-7.4.
オックスフォード III-7.1.8.
オフエンバッハ III-4.2.2.
乙女チック II-4.
オパール III-5.3.
オフィシャル III-7.3.4, V-4.4.
オフィス III-6.2.3, IV-2.3.1.
オフィス IV-2.3.1.
オフシーン II-2.1.
オフホワイトの II-1.3.1.
オフレコ II-2.1.
オペラ III-7.1.3, V-3.3.
オムニバス III-7.1.5.
オリヴ IV-2.1.
オリブ III-6.3.3, IV-2.1.
オリエント III-7.4.
オレカ II-2.2.3.
オレンジ III-3.4.2, III-8.2.2.
オレンジカード II-2.2.3.
オンエア II-2.1.
オンザロック II-2.1, II-2.1.
オンレコ II-2.1.
カー III-5.3, III-8.1.
カーディガン III-7.1.1, V-3.1.
カーテン V-5.2.C.
ガーデン III-7.1.2, V-3.2.
カード III-5.3, V-2.1.C, V-2.2.A.
ガード III-3.2.2, III-8.3.

カートリッジ III-7.1.1, V-3.1.
 ガードレール III-8.3.
 カートン III-7.1.4, V-3.4.
 カーブ III-3.5, III-5.3, IV-2.1.
 カーブ III-4.1, V-2.5.1.C.
 カーブスキン III-5.3.
 カーベット III-8.1, V-3.2.
 カーヴ IV-2.1.
 ガイド III-3.2.2, III-5.3, V-1.11.A.
 カウンター III-5.3, III-7.1.8,
 V-1.11, B, V-3.6.
 カウント III-6.4.1.
 ガウン III-5.3, V-1.11, B.
 カクテル III-5.3.
 貸ビル II-4.
 カシミア III-8.2.1, IV-2.5.2.
 カシミヤ IV-2.5.2.
 カジュアル III-7.1.6, V-3.5, B.
 ガス III-8.1.
 カセット V-2.5.3.
 ガソリン III-8, III-8.2.1, III-8.3,
 V-1.9, A.
 ガソリンスタンド II-3, III-8.3.
 カタログ III-5.3, III-7.1.3, III-8.2.1.
 ガッツポーズ II-3.
 ガッツ V-2.5.1.C.
 カット III-3.2.1, III-4.1.
 ガット III-3.2.1.
 カットする II-1.2.
 カップ III-4.1, III-5.3.
 カップル III-4.2.3, III-5.3, V-2.5.2.
 カツレツ III-3.3, III-8.2.1.
 家庭サービス II-4.
 カトレア IV-2.5.2.
 カトレヤ IV-2.5.2.
 カヌー III-5.3, III-7.1.3, III-8.2.2,
 V-1.5, A, V-3.3.
 カバー III-6.3.3, III-7.1.8, V-2.3, C.
 カフス II-2.1.
 カフスポタン II-3.
 カムフラージュ III-3.6.4.
 カムフラージュ III-3.6.4.
 カメラ III-5.3, III-7.1.2.
 カメラリハーサル II-2.2.3.
 カメリハ II-2.2.3, III-8.3.
 カモフラージュ III-3.5.
 カラー III-5.3.
 カラー III-7.1.8, V-3.6.
 からオケ II-4.
 カリカチュア III-7.1.8, III-7.1.8.
 カリキュラム III-7.1.5, III-7.1.6,
 V-3.5, B.
 カリフォルニア III-8.2.1.
 カルキ III-3.6.2.
 カルシウム IV-2.5.4.
 カルチャー III-7.1.8.
 ガレージ III-3.4.2.
 カレッジ III-3.4.2, III-5.3.
 カレンダー III-7.1.8, III-8.2.2, V-3.6.
 カロリー III-7.1.4, V-3.4, V-3.7.
 革ジャン II-4.
 カンツォーネ III-6.2.5.
 カントリー V-1.9, B.
 カンナ III-7.2.2.
 カンニング III-7.2.2.
 カンバス V-3.3.
 頑張りズム II-4.
 カンフル III-3.5.
 かんもんトンネル III-8.3.
 ギアー III-5.3.
 キー III-5.3.
 キス III-5.3.
 帰省ラッシュ II-4.
 ギター III-7.1.1.
 キック III-3.5, III-4.1, V-2.5.1, A.
 キッス III-4.1, III-4.2.2.
 キッズ III-4.1.
 キット III-5.3.
 ギブス IV-3, IV-3.
 ギャグ III-5.3, V-1.9, A.
 キャスター II-2.2.2.
 キャスティングボート III-6.2.1.
 キャッシュ III-3.6.3.
 キャッシュ III-3.5, III-3.6.3,
 III-4.1, III-4.2.2, III-5.3,
 V-2.5.1, C.
 キャッスル III-4.2.3, V-2.5.2.
 キャッチ III-3.4.1, III-4.1, V-2.5.1, C.
 キャッチャー II-3.
 キャッツ III-4.2.2, V-2.5.1, C.
 キャット III-5.3.
 ギャップ III-5.3, V-1.9, A.
 キャディ IV-2.4.1.
 キャディ III-6.2.1, III-7.1.7,
 IV-2.4.1, V-1.9, A, V-3.7.
 キャバクラ II-2.2.3.
 キャバレークラブ II-2.2.3.
 キャラメル III-5.3, III-8.2.1.
 ギャラリー III-5.3.
 キャリア III-5.3, V-1.12, A.
 ギャング III-5.3, III-6.4.3, V-1.9, A.
 キャンセル III-5.3, III-7.1.2, III-8.1.
 キャンディー III-7.1.7.
 キャンデー III-5.3.
 キャンドル III-3.2.2.
 キャンパー V-1.9, A.
 キャンパス III-7.1.5, V-1.9, A,
 V-3.5, A.
 キャンプ III-5.3, III-6.4.2, V-2.2, B.
 ギャンブル III-5.3.
 キュー III-5.3.
 ギリシア IV-2.5.2.
 ギリシャ IV-2.5.2.
 ギリシャ IV-2.5.2.
 キルト III-6.5.1.
 クール III-5.3.
 クールに II-1.4.1.
 グラム IV-2.2.1.2.
 グラム III-7.4, IV-2.2.1.2.
 クィーン IV-2.2.1.2.

コンビ II-2.2.1,
コンビーフ II-2.1,
コンビネーション II-2.2.1, III-6.4.2,
V-2.2.B,
コンピュータ IV-2.4.2,
コンピューター III-8.3, IV-2.4.2,
コンプレックス III-8.2.2,
コンペ II-2.2.1,
コンペア III-8,
コンボ II-2.2.1,
コンポーネント II-2.2.1,
サーカス III-5.3, III-7.1.5,
サーキット III-7.1.1, V-1.9.D,
サークル V-3.2,
サード III-5.3, III-6.3.2,
サービス III-6.3.3, III-7.1.1,
サービスする II-1.2,
サブ III-3.5, III-5.3,
サーモスタット III-6.3.2,
サイクリング III-7.3.5,
サイダー III-5.3, III-7.1.8,
V-1.11, A, V-3.6,
財テク II-4,
サイド III-3.2.2, III-8.3,
サイドブレーキ II-3, III-8.3,
サイフォン III-5.3,
サインする II-1.2,
サウンド III-5.3, V-1.11, B,
サキソホン III-3.6.2,
サジェスチョン III-7.3.1,
サスペンス III-7.1.5,
サッカー III-5.3,
サブ III-4.1,
サボート III-5.3,
サボタージュ III-3.6.4,
サボタージュ III-3.5, III-3.6.4,
サボる II-1.2.2,
サマー III-7.2.2,
サラ III-7.4,
サラダ V-5.2.C,
サラダ油 II-4,
サラブレッド III-3.2.2, III-3.2.2,
サラリー III-7.1.7,
サラリーマン II-3,
サングラス II-2.1,
サンデー III-5.3,
サンド III-3.2.2,
サンドイッチ III-3.4.1,
シート III-5.3,
ジープ III-4.1, III-5.3, III-8.1,
III-8.1, V-1.1.A, V-2.5.1.A,
シール V-2.4.A,
シーン V-2.4.A,
シェア III-6.2.4,
シェーカー III-6.2.4,
シェークスピア III-6.2.4,
シェービングクリーム III-6.2.4,
シェーブアップ III-6.2.4,
ジェスチャー III-6.2.4, III-7.1.8,
ジェット III-6.2.4, V-2.4.B,

ジェネレーション III-6.2.4,
シェバード III-6.2.4,
ジェラシー III-6.2.4, III-7.1.9,
シェリー III-6.2.4, V-2.4.B,
ジェリー III-6.2.4,
ジェントルマン III-3.2.1, III-6.2.4,
シカゴ III-8.2.2,
ジグザグ V-2.4.A,
システムチックに II-1.4.1,
システム III-7.1.2, III-8.1, V-3.2,
シップ II-3,
シニア III-7.1.8,
シネマスコープ V-2.4.A,
シビア III-5.3, III-6.3.3,
ジャージー III-7.1.7,
ジャーナリストイック III-6.2.1,
シャープ V-1.9.C, V-2.2.A,
社交ダンス II-4,
ジャッキ III-3.6.2,
シャッターチャンス II-3,
ジャブ III-4.1,
ジャム III-6.4.2,
じゃりたれ II-4,
シャワー III-7.3.6, V-5.2.C,
ジャンパー IV-3,
ジャンパー IV-3,
ジャンプ III-6.4.2, III-8.1,
ジャンプ III-5.3, III-8.2.2, V-1.5.A,
ジャンボ III-6.4.2, III-7.1.4,
シユア III-5.3, V-1.12, D,
シユース V-1.5.A,
ジユース III-6.2.2,
ジユース III-5.3, V-1.5.A,
じゅうたくローン III-8.3,
シュガー III-5.3,
ジュニア III-7.1.8, III-7.1.8,
ショウ IV-2.5.3,
省エネ II-4,
ショー IV-2.5.3,
ジョーク III-5.3,
ショート V-1.7.B,
女子プロ II-4,
ジョッキー III-7.1.7, V-3.7,
ジョッキング III-7.3.5,
シオルダーバッグ IV-3,
シリアスに II-1.4.1, II-1.4.1,
*シリアスリーに II-1.4.1,
シルク V-2.4.A,
シルバーシート II-3,
ズレンマ III-6.2.1, III-7.2.2, III-7.2.2,
シンガー III-6.4.3, III-7.2.1,
シンク III-6.4.3,
ジックス III-6.4.3,
シンクタンク III-6.3.2,
シンクロ II-2.2.1,
シンクロナイズドスイミング II-2.1,
II.2.2.1,
シングル III-6.4.3, III-7.1.2, V-2.2.B,
シンジケート III-7.3.3, V-4.2,
シンシナチレッズ III-3.5,

スベキュレーション III-7, 1, 6.
スベル III-6, 3, 1.
スポーツ III-5, 3, V-2, 1, E.
スポンサー III-5, 3.
スポンジ III-3, 4, 2, III-8, 2, 1, V-2, 2, B.
スマート III-5, 3, V-1, 9, C, V-2, 5, 1, C.
スマートな II-1, 3, 1.
スマートに II-1, 4, 1.
スマッシュ III-3, 6, 3.
スマイス III-3, 5, III-8, 2, 2, V-2, 3, D.
スムース IV-3.
スムーズ III-6, 3, 2, IV-3.
スムーズに II-1, 4, 1.
スモークサーモン II-2, 1.
スラックス III-4, 2, 3.
スラブ III-8, 2, 2.
スラム III-5, 3, III-8, 2, 2.
スラング III-6, 4, 3.
スランプ III-5, 3, III-6, 4, 2.
スリー III-3, 5, III-6, 3, 2, III-8, 2, 2.
スリッパ II-2, 1, III-7, 1, 8.
スリム III-3, 5, III-6, 4, 2.
スリリング III-6, 4, 3.
スリル III-3, 1, III-6, 3, 2, III-8, 2, 2.
スリル満点 II-4.
スロー III-6, 3, 1, III-8, III-8, 1,
III-8, 2, 2.
スロットル III-3, 5.
スワローズ III-6, 5, 1.
スワン III-8, 2, 2.
スエート IV-2, 2, 1, 3, IV-2, 2, 1, 3.
セーター III-6, 5, 1, IV-2, 2, 1, 3.
セール III-5, 3.
セオリィ III-6, 3, 2.
セカンド III-8, 2, 1.
セクシー III-7, 1, 7.
セクシュアルハラズメント II-2, 2, 3.
セクシオン III-5, 3, III-7, 3, 1.
セクハラ II-2, 2, 3.
ゼスチャー III-6, 2, 4.
セックス III-4, 2, 3.
セッター V-2, 5, 3.
セット III-4, 1, III-4, 1, IV-3,
V-2, 5, 1, B.
セットローション II-2, 1.
セツルメント III-3, 3.
ゼネスト III-6, 2, 4.
ゼネレーション III-6, 2, 4.
セバード III-6, 2, 4.
セバレツ II-2, 1, V-1, 3, B.
ゼミ II-2, 2, 1.
ゼミナル II-2, 2, 1.
セメント III-8, 2, 1.
ゼラチン III-6, 2, 4.
ゼリー III-6, 2, 4.
センサ IV-2, 4, 2.
センサー IV-2, 4, 2.
センス III-5, 3.
*センセーションナリに II-1, 4, 1.
センセーションナルに II-1, 4, 1, II-1, 4, 1.

センター III-5, 3, V-1, 3, B.
ゼントルマン III-6, 2, 4.
ソーシャル III-7, 3, 4.
ソーセージ III-3, 4, 2, III-7, 3, 2.
ソード III-7, 1, 3, V-3, 3.
ソート III-5, 3.
ゾーン III-5, 3, III-6, 4, 1, III-7, 1, 2.
ソケット III-8, III-8, 2, 2.
ソックス II-2, 1, III-5, 3.
ソプラノ III-7, 1, 4.
ソング V-2, 1, E.
ダークグリーンの II-1, 3, 1.
ダークホース V-1, 7, B.
ターミナル III-5, 3, V-1, 9, D.
ターン III-5, 3, V-2, 2, A.
タイアップする II-1, 2.
だいいちスタジオ III-8, 3.
ダイエット III-5, 3, III-8, 1, III-8, 1.
ダイエットする II-1, 2.
ダイカスト II-2, 1.
ダイジェスト III-6, 2, 4.
タイツ II-2, 1, III-3, 5.
タイトル III-3, 2, 1.
ダイナマイト V-1, 11, A.
ダイナミックな II-1, 3, 1.
ダイナミックに II-1, 4, 1.
ダイニング III-7, 3, 5.
タイピスト III-5, 3.
ダイビング III-7, 3, 5.
タイプ V-2, 5, 1, C.
タイプライタ IV-2, 4, 2.
タイプライター IV-2, 4, 2.
タイミング III-5, 3, III-7, 3, 5.
タイヤ IV-2, 5, 2.
ダイヤ "diamond" II-2, 2, 1, IV-2, 5, 2.
ダイヤ "diamond, diagram" II-2, 2, 1.
?ダイヤグラム "diagram" II-2, 2, 1,
II-2, 2, 1.
ダイヤモンド II-2, 2, 1, II-2, 2, 1.
ダウン II-3, III-5, 3, III-8, 3.
ダウンする II-1, 2, II-3.
タウンウエア III-5, 3.
タキシー III-3, 6, 1.
タキシード III-3, 6, 2.
タグ III-4, 1, V-2, 1, E.
タクシー III-3, 6, 1.
タスマニア III-7, 4.
タックル III-4, 2, 3, V-2, 5, 2.
腕サラ II-4.
ダッシュ III-3, 6, 3.
ダッシュ III-3, 6, 3.
タッチ III-3, 4, 1, III-4, 1.
タフ III-3, 5.
タブー III-5, 3.
ダブる II-1, 2, 2.
ダブル III-5, 3.
ダブる I II-1, 2, 2.
ダブルス II-2, 1.
ダブルパンチ II-3.
タルト III-3, 5.

タワー III-7.3.6.
 タンカー III-7.1.8.
 タンク III-6.4.3.
 ダンス III-5.3.
 ダンスパーティ II-2.2.3.
 ダンディ IV-2.4.1.
 ダンディー IV-2.4.1.
 ダンパ II-2.2.3.
 タンプラー III-6.4.2.
 チーズ III-5.3.
 チープシック II-3.
 チーム III-5.3. III-6.2.1. III-6.2.1. III-8.2.2. III-8.3.
 チームリーダー III-8.3.
 チューン III-5.3. III-6.2.1.
 チェア III-5.3. V-1.12. B.
 チェス III-6.2.1.
 チェック III-4.1. V-2.5.1. B.
 チェックイン III-6.2.1.
 チェリー III-6.2.1.
 チェロ III-6.2.1.
 チェンジ III-3.4.2. III-6.2.1.
 チッキ III-3.6.2.
 チック III-6.2.1.
 チップ III-5.3. III-6.2.1.
 チャーミング III-5.3. III-7.3.5. V-4.5.
 チャイム III-6.4.2.
 チャレンジ III-3.4.2.
 チャンス III-5.3.
 チャンピオン III-6.4.2.
 チューバ III-6.2.2.
 チューブ III-6.2.2.
 チューリッヒ III-4.2.2.
 チューリップ III-6.2.2.
 チュニック III-6.2.2.
 チョイス V-1.11. C.
 ちょうきょりバス III-8.3.
 チョコ II-2.2.1.
 チョコパ II-2.2.3.
 チョコレート II-2.2.1. III-3.2.1. III-7.3.3.
 チョコレートパフェー II-2.2.3.
 賃貸マンション II-4.
 ツアー III-5.3. III-6.2.1.
 ツアーコンダクター II-2.2.3.
 ツアコン II-2.2.3.
 ツイーター IV-2.2.1.4.
 ツイード IV-2.2.1.4.
 ツイスト III-6.5.1.
 ツイル IV-2.2.1.4.
 ツイン III-6.5.1.
 ツイン III-8.2.2. IV-2.2.1.4.
 ツー III-6.2.1. III-6.2.1.
 ツウィード IV-2.2.1.4.
 ツウィル IV-2.2.1.4.
 ツーストライク III-6.2.1.
 ツーペア II-2.1.
 ツール III-6.2.1.
 ツェッペリン III-6.2.5. IV-2.3.2.
 ツェッペリン IV-2.3.2.
 ツリー III-3.3.
 ティー IV-2.4.1.
 ティー "tea" IV-2.4.1.
 ティー "tee" III-6.2.1.
 ティーチン V-2.4. C.
 ティーチング III-6.2.1.
 ティーパーティ III-6.2.1.
 ティーム III-6.2.1.
 ティーラー III-6.2.1.
 ティーン III-6.2.1.
 ディスカウント III-6.2.1.
 ディスカッション III-7.3.1. III-8.2.2. V-4.3.
 ディスコ III-6.2.1.
 ディズニー III-7.1.7.
 ティック III-6.2.1.
 ティッシュ III-6.2.1.
 ディナー III-6.2.1. III-7.2.2. III-7.2.2.
 ディナーショー V-2.4. C.
 ディフェンス III-6.2.1.
 ディレクター III-6.2.1.
 ディング III-7.1.4.
 デー III-6.2.1.
 データバンク III-6.4.3.
 デート III-3.2.1. III-5.3. III-7.1.2. V-1.3. A.
 テープ III-4.1. III-5.3.
 テーブル III-5.3. III-8. III-8.2.1.
 テーブルクロス III-6.3.2.
 テーブルスピーチ II-3.
 テーマソング II-3.
 テーラードスーツ II-2.1.
 でかパン II-4.
 テキサス III-3.6.2.
 テキスト III-3.6.1.
 テクスト III-3.6.1.
 テクニカル III-7.1.1.
 デザート III-5.3.
 デジタル III-5.3. III-6.2.1.
 デスク III-5.3.
 デスト III-5.3. III-8.1.
 デッキ III-3.6.2.
 デニス III-7.2.2.
 デニム III-5.3. III-7.1.1.
 テネシー III-7.2.2.
 デパート IV-3.
 デパート II-2.2.1. II-2.2.1. IV-3.
 ?デパートメントストア II-2.2.1.
 デビューする II-1.2.
 デフォルメする II-1.2.
 デマ II-2.2.1.
 デマゴギー II-2.2.1.
 デモる II-1.2.2.
 デュアルシステム III-6.2.2.
 テューバ III-6.2.2.
 デュエット III-6.2.2.
 デラックスな II-1.3.1.
 テリア III-7.1.8.
 デリケート III-7.1.1. III-7.3.3. III-8.2.2. V-3.1.

デリケートな II-1.3.1.
 デリケートに II-1.4.1.
 デリシャス III-7.1.9.
 テレカ II-2.2.3.
 テレビ II-2.2.1.
 テレビ局 V-5.2.D.
 テレビジョン II-2.2.1.
 テレビっ子 II-4.
 テレフォン III-6.2.3.
 テレフォンカード II-2.2.3. III-6.2.3.
 テレホン III-6.2.3.
 テロ II-2.2.1.
 テロリスト III-7.1.1.
 テロリズム II-2.2.1.
 テント III-5.3. III-6.4.1. V-2.1.C.
 テンポ III-7.1.4.
 ドア III-5.3.
 トイレ II-2.2.1. III-5.3.
 トイレット II-2.2.1.
 ドイツットユアセルフ III-6.2.1.
 トゥー III-6.2.1. V-2.4.C.
 トゥーストライク III-6.2.1.
 トーキョー III-7.1.7.
 トーク V-2.5.1.D.
 トースト III-5.3.
 トーチ III-5.3.
 トーナメント III-8.1.
 ドーム III-5.3. III-6.4.2.
 トーン III-6.4.1. V-1.7.A. V-2.1.B.
 ドキュメンタリー III-7.1.6.
 ドクター V-1.7.C. V-3.6.
 ドッキング III-8.2.1.
 ドック IV-3.
 ドッグ III-4.1. IV-3.
 *トピック III-4.2.3.
 トップ III-4.1. III-5.3. V-2.5.1.D.
 トピック III-4.2.3. V-2.5.3.
 トマト V-5.2.C.
 トライ III-3.2.1. III-8.2.2. V-2.2.C.
 ドライ III-3.2.2. III-5.3. III-8.2.2.
 ドライに II-1.4.1.
 ドライバー II-2.2.2. III-8.3.
 ドライビングコンテスト II-2.2.3.
 ドライビングスクール II-2.1.
 ドライブ III-3.2.2. III-3.5.
 III-6.3.3. V-2.3.C. V-3.2.
 ドライフルーツ II-2.1.
 ドラゴン II-2.2.3.
 ドラック III-3.2.1. III-4.1.
 ドラブル III-3.2.1.
 トラブる II-1.2.2.
 ドラマ III-3.2.2. V-2.2.C.
 ドラマチック III-6.2.1.
 ドラム III-6.4.2. III-8.2.2.
 ドランク III-6.4.3. V-2.2.B.
 トランジスタ IV-2.4.2.
 トランジスター III-3.2.1. IV-2.4.2.
 トランスミッション III-7.3.1.
 トランプ III-6.4.2.
 トランペット III-6.4.2.

トリプル III-4.2.3.
 ドリル III-3.2.2. III-8.2.2.
 ドル高 II-4.
 ドル箱 II-4.
 トレーナー III-3.2.1.
 トレーニング III-7.2.1.
 ドレス III-3.2.2. III-8.2.2.
 トレンディー III-6.4.1.
 トレンド III-3.2.1. III-5.3.
 ドロー III-8.2.2.
 トロール V-1.7.B.
 ドロップショルダー II-2.1.
 トロフィー V-3.7.
 トネル III-8.3.
 ナイアガラ IV-2.5.2.
 ナイヴ IV-2.1.
 ナイブ III-6.3.3. IV-2.1.
 ナイブな II-1.3.1.
 ナイス III-6.4.
 ナイスミドル II-3.
 ナイト III-4.1.
 ナイフ III-5.3. III-8.1. III-8.1.
 III-8.3.
 ナイヤガラ IV-2.5.2.
 ナウ II-1.3.2.
 ナウい I II-1.3.2.
 ナウな II-1.3.2.
 投げキッス II-4.
 ナシヨナリスト III-8.2.2.
 ナシヨナリズム III-8.2.2.
 ナチュラル III-7.1.6. V-3.5.B.
 ナックル III-4.2.3.
 ナッツ III-5.3.
 ナツメグ III-3.3.
 なつメロ II-4.
 缶コン II-2.2.3.
 生ビール II-4.
 ナンバー III-6.4.2.
 ニアミス III-5.3.
 ニーズ III-3.5. III-5.3.
 ニクロム線 II-4.
 ニッカーボッカー II-2.1.
 ニックネーム III-6.4.
 ニッケル III-7.1.2.
 ニップル III-4.2.3.
 ニュース III-5.3.
 ニューフェース III-6.2.3.
 ニンプ V-1.1.B.
 ヌード III-3.2.2. III-6.4.
 ネームバリュー II-3.
 ネガ II-2.2.1.
 ネグる II-1.2.2.
 ネット II-2.2.2.
 ネット III-3.2.1. III-5.3. III-6.4.
 ネル II-2.2.2.
 ノイズ III-3.5. III-5.3.
 ノーコン II-2.2.3.
 ノーコントロール II-2.2.3.
 ノート III-4.1. III-5.3. III-6.4.
 V-1.7.A.

ノーマル III-5.3.
 ノズル III-3.5.
 ノックアウト III-5.3.
 ノップ III-4.1, III-4.2.2.
 ノブ III-4.1, III-5.3, V-1.7. C.
 ノー III-5.3, V-2.1. A.
 ノーキング III-7.3.5.
 ノーク V-1.9. C, V-2.5.1. C.
 ノーコレクター V-3.4.
 ノーセント III-7.1.8.
 ノーセンテージ III-7.3.2, V-4.1.
 ノーソナリティ III-7.1.1.
 ノーソナリティー III-6.2.1.
 ノーソナルコンピューター II-2.2.3.
 ノーチィ III-6.2.1.
 ノーツ V-2.5.1. C.
 ノーティィ IV-2.4.1.
 ノーティィー III-5.3, III-6.2.1,
 III-6.2.1, III-6.2.1, III-7.1.7,
 V-3.7.
 ノーディィ IV-2.4.1.
 ノーディィー III-7.1.7, IV-2.4.1,
 V-2.4. C.
 ノート III-3.2.1, III-8.2.1.
 ノート III-3.2.1, V-2.2. A.
 ノード III-5.3, V-2.2. A.
 ノードな II-1.3.1.
 ノートナー III-7.1.8.
 ノードル III-3.2.2, III-8.2.1.
 ノーフ III-5.3, V-1.9. C.
 ノーフ III-5.3.
 ノーフ III-3.5, III-5.3, V-1.9. C,
 V-2.1. E.
 ノーフェクト III-6.2.3.
 ノーマ II-2.2.1.
 ノーマネント II-2.2.1, III-5.3.
 ノームボール III-5.3.
 ノーモニカ III-8.2.1.
 ノール III-5.3, V-1.9. D.
 ノーィ III-5.3.
 ノーオリン III-6.3.3, III-8.2.1, IV-2.1.
 ノーキング III-7.3.5.
 ノーィク III-4.1.
 ノーィセンス II-3.
 ノーィソ II-2.2.3.
 ノーィソサエティィー II-2.2.3.
 ノーィテク II-2.2.3, III-8.3.
 ノーィテクノロジー II-2.2.3.
 ノーィト II-2.2.2.
 ノーィナップル III-4.2.3.
 ノーィブ III-4.1.
 ノーィミス II-3.
 ノーィウス III-5.3, V-1.11, B.
 ノーィウダー III-5.3.
 ノーィウンド III-3.2.2, III-5.3, V-2.1. C.
 ノーィウンドケーキ III-5.3.
 ノーィカンスウエア II-3.
 ノーィグ III-4.1.
 ノーィケツ III-5.3, III-8, III-8.2.1,
 III-8.3.

ノーィケツリレー III-8.3.
 ノーィゲヅィトラブル II-2.2.3.
 ノーィゲトラ II-2.2.3.
 ノーィジャマ II-2.1, III-8.2.2, V-5.2. C.
 ノーィス "bass" III-6.3.2.
 ノーィス "bath" III-3.5, III-5.3,
 III-6.3.2, V-2.1. E, V-2.3. D.
 ノーィス "bus" III-5.3, III-6.3.2, III-8.3.
 ノーィス "pass" III-3.1, V-1.9. A.
 ノーィスケ II-2.2.1.
 ノーィスケット III-8.2.2.
 ノーィスケットボール II-2.2.1.
 ノーィスト III-3.1, V-1.9. B.
 ノーィスボール II-2.1.
 ノーィズル III-3.5, III-5.3.
 ノーィソコン II-2.2.3.
 ノーィバック "bag" III-4.1, IV-3.
 ノーィバック III-4.1, V-2.5.1. C.
 ノーィバッグ III-3.5, III-4.1, III-4.1,
 III-4.2.2, IV-3, V-5.2. C.
 ノーィバックアップする II-1.2.
 ノーィバックル III-4.2.3.
 ノーィバッジ III-3.4.2, III-4.2.2, IV-3.
 ノーィバッション III-7.3.1, V-4.3.
 ノーィハッスル III-4.2.3, III-5.3.
 ノーィバッチ "badge" III-3.4.2, IV-3.
 ノーィバッチィ III-4.1, IV-3.
 ノーィバッチィング III-6.2.1.
 ノーィバット III-4.2.2.
 ノーィバット "pad" III-3.2.2.
 ノーィバッド III-3.2.2, III-5.3.
 ノーィバッハ III-4.2.2.
 ノーィハッピーエンド II-2.1.
 ノーィバッファロー III-7.1.4.
 ノーィパテント III-8.2.1.
 ノーィバトンタッチ II-3.
 ノーィバナナ III-7.1.3, III-8.2.2.
 ノーィハニー III-7.1.7.
 ノーィバニラ III-8.2.2.
 ノーィバノラマ III-8.2.1.
 ノーィバブ III-3.5, III-4.1, III-5.3,
 V-2.1. E.
 ノーィハム III-5.3, III-6.4.2, III-8.1,
 V-1.9. A.
 ノーィハムエッグ II-2.1.
 ノーィハムレット III-3.5.
 ノーィハモる II-1.2.2.
 ノーィバラエティィ IV-2.4.1.
 ノーィバラエティィー III-6.2.1, IV-2.4.1.
 ノーィバリアブルコンデンサー II-2.2.3.
 ノーィハリウット IV-3, IV-3, IV-3.
 ノーィバリコン II-2.2.3.
 ノーィバレード III-7.1.3, V-2.1. C.
 ノーィパロディィ IV-2.4.1.
 ノーィパロディィー IV-2.4.1.
 ノーィパワー III-7.3.6.
 ノーィパワーアップ II-3.
 ノーィハンガー III-6.4.3, III-7.2.1.
 ノーィハンガーストライキィ II-2.2.3,
 III-6.4.3, III-7.2.1.

ハンカチ II-2,2,1.
ハンカチーフ II-2,2,1.
バンガロー III-6,4,3.
バンク III-6,4,3. V-1,9,B.
ハンサム III-5,3.
バンジョー III-7,1,4.
ハンスト II-2,2,3.
パンスト II-2,2,3.
パンチ III-3,4,1.
パンツ II-2,1. III-3,5. III-6,4,1.
ハンデ III-6,2,1.
ハンディ III-6,2,1.
バンティーストッキング II-2,2,3.
ハンディキャップ III-6,2,1.
ハンド III-3,2,2.
バンド III-3,2,2. III-5,3. III-6,4,1.
III-8,2,1. III-8,3.
半ドア II-4.
ハンドバッグ IV-3.
バンドマスター II-2,2,3.
ハンドル III-3,2,2.
ハンバーガー III-6,4,2.
パンプス II-2,1.
パンフレット III-6,4,2.
ハンマー III-7,2,2.
パンマス II-2,2,3.
ピーク III-4,1. III-5,3. V-2,1,E.
V-2,5,1,A.
ピーズ III-3,5.
ピート III-4,1. III-5,3. V-1,1,A.
V-2,5,1,A.
ピア III-6,3,1.
ピアス III-5,3.
ピアノ III-7,1,4. IV-2,5,2.
ヒアリング III-5,3. V-1,12, A.
ピクトリーゼッド IV-3.
ピクニック III-4,2,3. III-5,3.
III-7,1,1. V-2,5,3.
ピクルス II-2,1. III-3,1. III-4,2,3.
IV-3.
ピクルズ IV-3.
ピザ V-2,3,C.
ピザ III-6,2,5.
ビジュアル III-7,1,6.
ビジョン III-7,3,1. V-4,3.
ヒス II-2,2,1.
ヒステリー II-2,2,1.
ピストル III-7,1,4. III-8,2,1.
ピックアップ III-4,2,3.
*ピクニック III-4,2,3.
ピッチ III-4,1. V-2,5,1,A.
ピッチャー II-3. III-7,1,8. V-2,5,3.
ピッツァ III-6,2,5.
ピッツバーグ III-3,5.
ヒット III-3,2,1.
ヒット曲 II-4.
ヒップ III-4,1. V-2,5,1,A.
ヒップポケット III-4,2,3.
ビデオ III-6,3,3.
ビフテキ III-5,3.

ビヤ樽 II-4.
ピュア III-5,3. V-1,12, D.
ヒューズ III-3,5. III-6,2,3.
ヒューマニスティック III-6,2,1.
ヒューマニスト III-8,2,2.
ヒューマニティー III-7,1,6.
ヒューマン III-5,3.
ヒューロクラシー III-7,1,6.
ビル II-2,2,1.
ビル III-6,3,1.
ビルディング II-2,2,1.
ヒロイン III-8,2,2.
ピン III-5,3.
ピンク III-3,5. III-5,3. III-6,4,3.
V-1,1,B.
ピンクの II-1,3,1.
ピンゴ III-7,1,4.
ピンチ III-3,4,1. V-2,2,B.
ヒント III-5,3. III-6,4,1. V-2,2,B.
ピンぼけ II-4.
ピンポン III-6,4,3.
ファザザー III-5,3. V-1,9,C.
ファースト III-5,3. III-6,2,3. IV-2,3,1.
ファーストフード III-6,2,3.
ファイト V-2,3,B.
ファイル III-6,2,3.
ファシスト III-8,2,2.
ファッション III-6,2,3. III-7,1,4.
III-7,3,1. V-4,3.
ファミコン II-2,2,3. II-2,2,3.
ファミリコンピューター II-2,2,3.
II-2,2,3.
ファン III-6,2,3. IV-2,3,1.
ファン IV-2,3,1.
ファンブル III-6,4,2.
フィールド III-3,2,2. III-6,2,3.
フィギュア III-8,3.
フィギュアスケート III-8,3. V-3,5,B.
フィッシュ III-4,1.
フィットネス IV-2,3,1.
フィルター III-6,2,3. V-2,3,B.
フィルム III-6,2,3. IV-2,3,1.
フィルム IV-2,3,1.
ブーツ III-3,5. III-5,3.
ブード III-5,3.
ブープ III-4,1.
ブル III-5,3.
フェアプレー^o III-5,3.
フェザー III-6,3,2.
フェミニスト III-8,2,2. IV-2,3,1.
フェリー V-2,3,B.
フェンシング III-6,2,3. III-7,3,5.
V-4,5.
フェンス V-2,2,B.
フォーカス III-7,1,5. V-3,5,A.
フォア III-5,3.
フォアハンド III-5,3.
foil III-6,2,3.
フォーク III-5,3. III-6,2,3. V-2,3,B.
フォークソング III-5,3. III-6,4,3.

III-7.2.1.
 フォード IV-2.3.1.
 フォーマル III-6.2.3.
 フォミュラ III-7.1.6. V-3.5.B.
 フォーム III-5.3.
 フォトコピー III-5.3.
 フォワード III-5.3.
 フォンデュール III-6.2.2.
 フック III-5.3. V-1.5.B.
 ブック III-4.1. III-4.2.2. III-5.3.
 V-2.5.1.E.
 ブッシュ III-3.5. III-3.6.3. III-4.1.
 V-1.5.B. V-2.1.E. V-2.5.1.E.
 ブット III-4.1. V-2.5.1.E.
 ブットボール III-5.3. III-6.2.3.
 V-1.5.B.
 ブディング III-5.3. III-7.3.5.
 フェージョン III-7.3.1.
 フライ "fly" III-6.3.1.
 フライ "fry" III-3.5. III-6.3.1.
 フライド III-3.2.2. V-2.2.C.
 フライドポテト II-2.1.
 フライベート III-7.3.3. III-8.2.2.
 V-4.2.
 ブラウス III-5.3.
 ブラグ III-8.2.2.
 ブラシ III-8.2.2.
 ブラシ III-8.3. III-5.3.
 ブラスタックモデル II-2.2.3.
 ブラスマイナス III-8.3.
 フラッシュ III-3.6.3.
 ブラネタリウム III-7.1.6. IV-2.5.4.
 ブラモ II-2.2.3.
 フラワー III-6.3.1. III-7.3.6.
 ブラン III-3.5.
 フランク III-5.3.
 フランス III-8.2.1.
 ブランド III-3.2.2. III-3.5.
 V-2.2.B. V-2.2.C.
 ブランナー III-7.2.2.
 フリーランサー II-3.
 フリー III-5.3. III-8.2.2. III-8.3.
 フリースタイル III-8.3.
 フリーツ V-2.5.1.A.
 フリキ III-3.6.2.
 ブリッジ III-3.4.2.
 ブリッチ "bridge" III-3.4.2.
 フリル III-6.3.1. III-8.2.2.
 プリンタ IV-2.4.2.
 プリンター IV-2.4.2.
 フル III-6.2.3. III-8.3. V-2.3.B.
 フルート III-3.2.1.
 フルーツポンチ III-3.4.1.
 フルーツパーラー III-7.1.8.
 ブルーの II-1.3.1.
 ブルオーバー III-5.3.
 フルコース III-5.3.
 ブルジョワ III-3.5.
 ブルドーザー III-5.3.
 ブルドッグ III-3.5. III-5.3.

ブルドッグ IV-3. V-1.5.B.
 フルマラソン III-8.3.
 フレアースカート III-5.3. III-7.1.8.
 ブレイ IV-2.5.1.
 ブレー III-8.2.2. IV-2.5.1.
 ブレーキ III-3.6.2. III-5.3. III-8.3.
 ブレキヤストコンクリート II-2.2.3.
 プレコン II-2.2.3.
 プレス III-8.2.2.
 プレゼントする II-1.2.
 プレッシュャー V-2.5.3.
 フレッシュ III-3.6.3.
 フレッシュな II-1.3.1.
 プレハブ III-6.2.3. III-6.2.3.
 プレファブ III-6.2.3.
 プレミアム IV-2.5.4.
 フレンド III-3.2.2. III-3.5.
 プロ II-2.1. III-3.5.
 プロア III-2.3. III-7.1.8. III-8.2.2.
 V-1.12. C.
 プロイラー III-5.3.
 プロー III-3.5.
 プローチ III-3.4.1. III-5.3.
 プログラミング III-7.2.2.
 プロセッサ IV-2.4.2.
 プロセッサー IV-2.4.2.
 プロフェッショナル II-2.2.1.
 プロペラ III-7.1.4. III-7.1.8.
 プロマイド IV-3.
 プロマイド IV-3.
 フロリダ III-8.2.1.
 ヘア III-5.3. IV-2.5.2. V-1.12. B.
 ペア II-2.2.3.
 ペア III-5.3.
 ヘアリキッド III-3.2.2. III-3.2.2.
 ペアリング III-5.3.
 ページ III-3.6.4.
 ページ III-3.4.2. V-2.1.D.
 ページ III-3.5. III-3.6.4. V-2.1.E.
 ベース III-5.3.
 ベースアップ II-2.2.3.
 ベースメーカー III-8.3.
 ベーパー III-3.1. III-7.1.8. III-8.3.
 ベーパードライバー II-3. III-8.3.
 ベール III-6.3.3. IV-2.1. V-2.3.C.
 ベジミスト III-8.2.2.
 ベスト III-6.3.3.
 ベスト III-6.3.3. III-6.3.3.
 ベダル III-5.3. III-7.1.3.
 ベチコート III-6.2.1.
 ベツィー III-6.2.5.
 ヘッド III-4.1.
 ベット "bed" III-3.2.2. IV-3. IV-3.
 ベッド III-3.2.2. III-4.1. III-4.2.2.
 IV-3. IV-3.
 ベット III-3.2.1.
 ベットタウン IV-3.
 ベッドタウン IV-3. IV-3.
 ベディキュア III-6.2.1.
 ベテラン III-6.3.3.

ベニヤ IV-2, 5, 2.
ベビー III-5, 3.
ベル V-2, 1, E, V-2, 3, A.
ヘルスセンター II-3.
ベルト III-8, 2, 1.
ベン III-5, 3, III-6, 4, 1, V-1, 3, B,
V-2, 1, B.
ベンシルバニア III-7, 4.
ベンチ III-3, 4, 1, III-6, 4, 1,
V-1, 3, B, V-2, 1, D.
ボイコット III-5, 3.
ボイコットする II-1, 2.
ボイスレコーダー III-5, 3, III-6, 3, 3.
ホイッスル III-4, 2, 3, III-6, 5, 1.
ホイップ III-6, 5, 1.
ボイラー III-5, 3.
オイル III-5, 3, III-6, 2, 3.
ボイル "boil" III-6, 3, 3.
ボイル "voile" III-6, 3, 3.
ボイルドハム II-2, 1.
ポイント III-5, 3, V-1, 11, C.
ボウリング IV-2, 5, 3.
ボウル IV-2, 5, 3.
ホエールズ III-6, 5, 1.
ボーイ V-5, 2, C.
ボーカル III-6, 3, 3, V-2, 3, C.
ボーキサイト III-3, 6, 2.
ホーク "fork" III-6, 2, 3.
ボーク V-1, 7, B.
ボーズ III-7, 1, 2, V-1, 7, B.
ボダー III-5, 3.
ボート III-5, 3, V-1, 7, A.
ボート V-1, 7, B.
ボーナズ III-5, 3.
ホーム V-1, 7, A.
ホームステイ IV-2, 5, 1.
ホームステイ IV-2, 5, 1.
ホームドラマ II-3, II-3.
ボーリング III-7, 3, 5, III-8, 2, 1,
IV-2, 5, 3, V-4, 5.
ホール V-1, 7, B.
ボール "ball" III-5, 3, III-8, 2, 1.
ボール "bowl" IV-2, 5, 3.
ホールド III-3, 2, 2.
ボクシング III-7, 3, 5, V-4, 5.
ポケット III-4, 2, 3, III-8, 2, 2, V-2, 5, 3.
ポケットマネー II-3.
ボスター III-5, 3.
ボステス III-5, 3, III-8, 1.
ホスト III-5, 3.
ボストンバッグ IV-3.
ボタージュ III-3, 6, 4.
ボタージュ III-3, 6, 4.
ボタン III-8, 2, 1.
ボックス III-4, 2, 3, V-2, 5, 2.
ホッケー III-5, 3, III-7, 1, 7.
*ポケット III-4, 2, 3.
ホット III-5, 3.
ポット III-4, 1, III-5, 3, V-2, 5, 1, D.
ホットドッグ III-4, 2, 3.

ポップ III-4, 2, 2.
ボディーコンシャス II-2, 2, 3, II-2, 2, 3.
ボディーブロー V-2, 4, C.
ボディコン II-2, 2, 3, II-2, 2, 3,
III-8, 3.
ボディコンシャス III-7, 1, 9.
ポテンシャル III-7, 3, 4.
ボトル III-3, 2, 1.
ボトルキーブ II-3, II-3.
ホバート III-7, 4.
ボビュラー III-5, 3, III-7, 1, 6,
V-3, 5, B, V-3, 6.
ボブ III-4, 1.
ボブラ III-7, 1, 8.
ホモ牛乳 II-4.
ホラー III-7, 1, 8, V-3, 6.
ボランティヤ III-6, 3, 3.
ホワイト III-6, 5, 1.
ホンコン III-6, 4, 3.
ボンド III-5, 3, V-1, 7, C.
マーク III-4, 1, III-4, 1, III-5, 3.
マージン III-5, 3, III-7, 1, 1, III-8, 1,
V-3, 1.
マーチ III-3, 4, 1.
マト III-4, 1.
マイクロコンピューター II-2, 2, 3.
マイコン II-2, 2, 3.
マイナー III-7, 1, 8.
マイナス III-7, 1, 5, III-8, 2, 1,
III-8, 3, V-3, 5, A.
マイアミ III-8, 2, 1.
マウンド III-5, 3.
マクドナルド V-5, 2, A.
マグネシウム IV-2, 5, 4.
マザー III-6, 3, 2, V-2, 3, D.
マザーコンプレックス II-2, 2, 3.
マザコン II-2, 2, 3.
マスク III-6, 4, V-2, 2, C.
マスコミ II-2, 2, 3.
マスコミュニケーション II-2, 2, 3.
マスター III-5, 3.
マスターする II-1, 2.
マスタード III-5, 3.
マッサージ III-3, 4, 2.
マッシュポテト II-2, 1.
マッシュルーム III-3, 5.
マッチ III-3, 4, 1, III-4, 2, 2.
マッチする II-1, 2.
マット III-3, 2, 1, III-4, 1, III-4, 1,
III-5, 3, IV-3, V-2, 5, 1, C.
マッドマックス IV-3.
マットレス III-3, 2, 1, III-8, 1.
マトン V-1, 9, B.
マドンナ III-7, 2, 2.
マナー II-2, 1, III-7, 2, 2.
マニキュア III-7, 1, 1, III-7, 1, 8,
III-8, 2, 2.
マニュアル V-3, 5, B.
マネー III-5, 3, III-7, 1, 7.
マネージャー III-7, 3, 2.

マフィン III-6,2,3.
マフラー III-5,3.
マラソン III-6,3,2. III-8,3.
マンション III-6,4,1. III-7,3,1.
満タン II-4.
マンツーマン III-6,2,1.
マントルピース III-3,2,1.
マンネリ II-2,2,1.
マンネリズム II-2,2,1.
マンボ III-6,4,2.
マンモス III-7,2,2.
ミーティング III-5,3.
ミート III-4,2,1. III-5,3.
ミートソース III-8,3. V-1,1,A.
ミス III-3,5. III-8,1. V-2,1,E.
ミステリー III-5,3. III-7,1,2.
III-8,1. V-3,7.

ミスる II-1,2,2.
ミックス III-4,2,3. V-2,5,2.
ミックスする II-1,2.
ミッション III-7,3,1.
ミット III-4,1. III-4,1. III-4,2,1.
III-5,3. IV-3. V-2,5,1,A.
*ミト "mitt, meat" III-4,2,1.
ミドル III-3,2,2.
ミトン V-1,1,B.
ミニ III-7,1,1.
ミュージシャン V-2,4,A.
ミラー III-7,1,8.
ミルク III-5,3. III-6,4.
ミルクセーキ III-6,2,4.
ムード III-6,4.
メインストリート IV-2,5,1.
メーカー III-5,3. III-8.
メーク V-2,5,1,B.
メート III-4,1.
メートル III-3,5.
メーンストリート IV-2,5,1.
メジャー III-7,1,8.
メジャーカップ II-2,1.
メタモル II-1,2,2.
メダル III-6,4.
メッシュ III-3,6,3. V-2,5,1,B. III-4,1.
メッセージ III-3,4,2. III-7,3,2.
メッツ V-2,5,1,B.
メディア III-5,3.
メドレー III-3,2,2.
メモる II-1,2,2.
メルヘン III-3,5.
メルヘンチック II-3.
メロディー III-5,3. III-6,2,1. III-7,1,4.
メンズショップ II-2,1.
メンチ III-5,3.
モーツァルト IV-2,3,2. IV-2,3,2.
モード III-5,3. III-6,4.
モーニング III-5,3. III-7,3,5.
モーニングサービス II-3.
モジュラー III-6,2,2.
モダンな II-1,3,1.
モットー III-5,3. III-7,1,4.

モデル III-5,3. III-7,1,2.
モニター III-5,3. V-3,1.
モラトリアム IV-2,5,4.
モンタージュ III-3,6,4.
ヤード III-6,5,2.
ヤンキー III-6,5,2.
ヤング III-6,4,3. III-6,5,2.
ユースホステル III-6,5,2.
ユーモラス III-7,1,9.
ユーモラスな II-1,3,1.
ユニークな II-1,3,1.
ユニフォーム III-6,2,3.
ヨーク III-4,1. III-6,5,2.
ヨードル III-6,5,2.
ヨードチンキ III-3,6,2.
ライス III-3,5. III-5,3. III-7,1,2.
ライト "light" III-6,3,1. III-6,3,1.
V-2,3,A.
ライト "light, right" V-2,3,A.
ライト "right" III-6,3,1. V-2,5,1,C.
ライバル III-6,3,3.
ライン III-5,3.
ラウンジ III-5,3.
ラウンド III-5,3. III-6,4,1.
ラグ III-4,1.
ラグビー III-5,3. III-7,1,7. III-8.
ラケット III-4,2,3. III-5,3.
III-8,2,2. V-1,9,A. V-2,5,3.
ラジオカセット II-2,2,3.
ラジオコントロール II-2,2,3.
ラジカセ II-2,2,3. III-8,3.
ラジコン II-2,2,3.
ラスト III-6,3,1. V-2,3,A.
ラッキー III-7,1,7.
*ラケット "racket" III-4,2,3.
ラッシュ III-3,5. III-3,6,3. III-4,1.
ラップ III-4,1. V-2,5,1,C.
ラディッシュ III-3,6,3. III-6,2,1.
ラブ III-5,3. III-8,1. V-2,3,B.
ラブ V-2,1,E.
ラベル III-6,3,1.
ラベンダー III-7,1,2. III-7,1,8.
ラム "lamb" III-6,3,1. III-6,4,2.
ラム "ram" III-6,3,1.
ラムウール II-2,1.
ラリー III-5,3. III-7,1,7.
ランク III-6,4,3.
ランチ III-3,4,1.
ランド III-3,2,2.
ランナー III-7,2,2. III-7,2,2.
ランニング III-7,2,2.
ランブ III-6,4,2.
リーダー "leader" III-6,3,1. III-8,3.
リーダー "reader" III-6,3,1.
リアクション V-4,3.
リアリスティック III-6,2,1.
リアリズム III-8,2,2.
リアル III-5,3. V-1,12,A.
リアルな II-1,3,1.
リアルに II-1,4,1.

リクリエーション III-7.1.2.
 リサーチ III-8.2.2.
 リザープ III-7.1.2.
 リスト III-5.3, V-2.3.A.
 リズム III-3.5, III-6.3.2.
 リセッション III-7.1.2.
 リセプション III-7.1.2.
 リターン III-7.1.2.
 リハーサル III-7.1.2.
 リバーシブル III-7.1.2.
 リバイバル III-7.1.2.
 リハビリ II-2.2.1.
 リハビリテーション II-2.2.1.
 リビート III-7.1.2.
 リブ III-4.1.
 リポート III-7.1.2.
 リボン III-6.4.1, III-7.1.4.
 リモートコントロール II-2.2.3,
 III-7.1.2.
 リモコン II-2.2.3.
 リラックス III-4.2.3.
 リラックスする II-1.2.
 リレー III-8.3.
 リンク III-6.4.3.
 リング III-6.4.3, V-2.1.E.
 リンス III-5.3, V-1.1.B.
 ルーキー V-1.5.A.
 ルージュ III-3.5, III-3.6.4.
 ルース IV-3.
 ルーズ IV-3.
 ルーズな II-1.3.1.
 ルーティン V-2.4.C.
 ルート V-2.5.1.E.
 ルーム III-3.5, III-6.4.2.
 ルームメート III-5.3.
 ルール III-5.3.
 ルックス III-4.2.3.
 ルボライター II-3.
 ルポルタージュ III-3.6.4.
 ルンバ III-6.4.2.
 レア III-5.3.
 レイヤードルック II-2.1.
 レインコート IV-2.5.1.
 レース III-6.3.1.
 レーズン V-1.3.A.
 レダグー III-5.3, III-7.1.8.
 レート III-3.2.1, V-2.5.1.B.
 レール III-8.2.1, III-8.3.
 レーンコート IV-2.5.1.
 レギュラー III-5.3, III-7.1.6.
 レクリエーション III-7.1.2.
 レザー III-7.1.8, V-2.3.D.
 レザープ III-7.1.2.
 レシート III-7.1.2.
 レジスタンス III-7.1.2.
 レジャー III-7.1.8.
 レスカ II-2.2.3.
 レストラン V-5.2.E.
 レセプション III-7.1.2.
 レタス V-5.2.C.

レッド III-3.2.2, III-3.2.2.
 レディー III-5.3.
 レディースゴルフ IV-2.4.1.
 レディースゴルフ IV-2.4.1.
 レトロ調 II-4.
 レバー III-5.3.
 レビート III-7.1.2.
 レフト III-6.3.1.
 レベルアップ II-3.
 レベルダウン II-3.
 レポート III-5.3, III-7.1.2.
 レモン III-5.3, III-7.1.4, III-8,
 III-8.2.1.
 レモンスカッシ III-3.6.3.
 レモンスカッシュ II-2.2.3.
 レンズ V-2.2.B.
 ロープ III-4.1, III-5.3, V-2.5.1.D.
 ロールキャベツ II-2.1.
 ローン III-8.3.
 ロイヤルボックス III-5.3.
 ロケ II-2.2.1.
 ロケーション II-2.2.1.
 ロケット III-8.2.2.
 ロシア IV-2.5.2.
 ロシヤ IV-2.5.2.
 ロッカー III-5.3.
 ロック "lock" III-6.3.1.
 ロック "rock" III-4.1, III-6.3.1,
 III-8.3, V-2.5.1.D.
 ログ III-4.1.
 ロックバンド III-8.3.
 ロッジ III-3.4.2, III-4.1.
 ロマンチック III-6.2.1.
 ロマンチックな II-1.3.1.
 ロリータコンプレックス II-2.2.3.
 ロリコン II-2.2.3.
 ロング III-6.4.3, III-7.2.1.
 ワード III-5.3.
 ワードプロセッサ II-2.2.3.
 ワープロ II-2.2.3, III-8.3.
 ワールド III-3.2.2.
 ワイド III-3.2.2.
 ワイドショー II-3.
 ワイフ III-6.5.1, V-2.4.D.
 ワイヤ IV-2.5.2.
 ワインドアップ III-6.5.1.
 ワインレッドの II-1.3.1.
 若手コンビ II-4.
 ワックス III-4.2.3.
 ワッフル III-6.5.1.
 ワンパターン II-3.
 ワンレン II-2.2.3, II-2.2.3.
 ワンレングス II-2.2.3, II-2.2.3.

日本語教育指導参考書 16

外来語の形成とその教育

平成2年3月26日 発行

編集・発行

国立国語研究所
東京都北区西が丘 3-9-14
TEL 03 (900) 3111

印刷者

大蔵省印刷局
東京都港区虎ノ門 2-2-4
電話 (03) 587-4283~9
(業務部図書課ダイヤルイン)
